

# 子ども・子育てに関するアンケート調査

〈分析版〉

令和5年度

掛川市

# 目次

I	調査の概要	1
	1. 調査目的	1
	2. 調査対象	1
	3. 調査方法	1
	4. 調査期間	1
	5. 回収状況	1
	6. グラフの見方	1
II	分析の概要	2
	1. 用いた分析手法	2
	2. 回帰分析を用いるメリット	2
	3. 回帰分析の注意点	2
III	各調査の分析結果	3
	1. 子ども・子育て支援に係る調査（未就学児用）	3
	2. 子ども・子育て支援に係る調査（小学生用）	9
	3. 子どもの貧困対策に係る調査（保護者用）	15
	4. 子どもの貧困対策に係る調査（こども用）	23
	5. こども・若者に係る調査（16～39歳用）	27
IV	各調査の調査結果抜粋	34
	1. 子ども・子育て支援に係る調査（未就学児用）	34
	2. 子ども・子育て支援に係る調査（小学生用）	46
	3. 子どもの貧困対策に係る調査（保護者用）	54
	4. 子どもの貧困対策に係る調査（こども用）	65
	5. こども・若者に係る調査（16～39歳用）	73

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

「第2期掛川市子ども・子育て支援事業計画」の期間終了にあたり、市民の子育ての環境、教育・保育・子育て支援の現在の利用状況および今後の利用希望などを把握し、新たな計画を策定する際の基礎資料とするために実施しました。

## 2. 調査対象

未就学児用調査	掛川市に在住の就学前児童のいる家庭
小学生用調査	掛川市に在住の小学校1～3年生のいる家庭
保護者用調査	掛川市に在住の小学5年生・中学2年生の保護者
こども用調査	掛川市に在住の小学5年生・中学2年生
16～39歳調査	掛川市に在住の16～39歳

## 3. 調査方法

郵送配付・Web回収

## 4. 調査期間

令和6年2月9日（金）～令和6年2月29日（木）

## 5. 回収状況

	発送数	有効回収数	有効回収率
未就学児用調査	1,500件	770件	51.3%
小学生用調査	3,066件	1,843件	60.1%
保護者用調査	2,180件	1,019件	46.7%
こども用調査	2,180件	1,019件	46.7%
16～39歳調査	1,500件	431件	28.7%

## 6. グラフの見方

※回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。

※百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。  
このため、百分率の合計が100%にならないことがあります。

※1つの質問に2つ以上答えられる“MA（複数回答可能）”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

※選択肢の文言が長い設問は、グラフや表で一部省略していることがあります。

## II 分析の概要

### 1. 用いた分析手法

未就学児用調査	回帰分析
小学生用調査	回帰分析
保護者用調査	クロス集計
こども用調査	回帰分析
16～39歳調査	回帰分析

### 2. 回帰分析を用いるメリット

一般的なクロス集計を用いる場合、わかることは2変数間の関係であり、第3、第4の変数の影響を制御できないため、擬似相関の可能性を否定することが難しい。また、本当に見たい変数の効果を特定する際には、他の変数の影響も統制することが必要となる。重要と考える施策と市全体の満足度の関係を見たいと考えた際、市全体の満足度に影響を与える要素としては、重要と考える施策以外に、性別・年齢といった個人の属性が影響する可能性も大いに考えられる。回帰分析を行うことで、このような見たい変数以外の効果を統制した分析が可能となる。

<擬似相関とは>

【例】

「小学生を対象に算数のテストを行った結果、身長が高いほど算数のテストの点数が高い傾向が見られた。ここから身長が算数能力に関係があるとわかる」という解釈は擬似相関となっている。年齢と身長に相関があり、年齢と算数能力にも相関があるため、身長と算数能力にも相関があるように見える（見せかけの相関）。このように、相関関係がないにもかかわらず、相関があるように見えることを擬似相関と呼ぶ。

### 3. 回帰分析の注意点

回帰分析を行うことで、3変数以上の関係を同時に分析することが可能となるが、同時に分析するすべての変数（質問）に回答しているという前提があるため、極端に回答が少ない変数については、分析対象から除外されるケースもある。また、分析に用いる変数としては、「Aと答える人ほどBである」という関係を分析するために、市政への満足度や結婚意向等の質問に分析を行うことが多いため、前述のような質問項目がない保護者用調査のアンケート調査においては回帰分析を行っていない。

### Ⅲ 各調査の分析結果

#### 1. 子ども・子育て支援に係る調査（未就学児用）

未就学児用調査では、問8の子育てで最も必要と思うことにおける①環境の充実②経済的支援③教育の充実④相談機関の充実⑤子育てと仕事の両立⑥地域・親同士とのつながりの項目のどの変数が市政への満足度へ影響しているのかを二項ロジスティック回帰分析を用いて分析する。市政への満足度に影響を与える項目を把握することで、どの項目を優先して取り組んでいくことが重要かを把握していく。下記表において\*がついているものは統計的に有意であることを示し、\*がついていて係数が正であれば正の効果、負であれば負の効果を示す。

##### ①環境の充実

	係数	標準誤差
年齢	-0.034	0.043
第一小学校区・中央小学校区	-2.077	1.477
上内田小学校区・西山口小学校区	-2.182	1.482
第二小学校区・曾我小学校区	-2.130	1.485
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	-2.295	1.476
日坂小学校区・東山口小学校区	-1.998	1.574
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-2.149	1.476
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐束小学校区・中小小学校区	-1.985	1.482
横須賀小学校区・大淵小学校区	-2.146	1.496
子どもの数	-0.242	0.101 **
ひとり親	0.591	0.662
産前・産後ケア、家事支援サービス等の充実	1.377	1.179
受診できる医療機関の充実	1.906	1.159
病気や障がい等の支援の充実	1.653	1.223
保育園や一時預かり保育、放課後児童クラブ等、預かる施設の充実	1.732	1.150
公共施設のユニバーサルデザイン（例 おむつ台、多目的トイレ、スロープ）の充実	3.457	1.585 **
児童館、図書館、子育て支援センター等の充実	2.476	1.208 **
公園、遊び場等の充実	1.309	1.154
ショッピングモール等、商業施設整備の充実	1.643	1.208
定数項	0.861	1.291
n	677	
擬似決定係数	0.032	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的に有意を示す

以上から、「子どもの数」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「公共施設のユニバーサルデザイン（例 おむつ台、多目的トイレ、スロープ）の充実」が5%水準で正の方向に統計的に有意、「児童館、図書館、子育て支援センター等の充実」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い
- ◆ 公共施設のユニバーサルデザイン（例 おむつ台、多目的トイレ、スロープ）の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 児童館、図書館、子育て支援センター等の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い

## ② 経済的支援

	係数	標準誤差
年齢	-0.019	0.044
第一小学校区・中央小学校区	-14.509	638.432
上内田小学校区・西山口小学校区	-14.829	638.432
第二小学校区・曾我小学校区	-14.590	638.432
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	-14.692	638.432
日坂小学校区・東山口小学校区	-14.547	638.432
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-14.596	638.432
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-14.300	638.432
横須賀小学校区・大淵小学校区	-14.423	638.432
子どもの数	-0.230	0.115 **
ひとり親	0.764	0.662
出産や不妊治療に対する費用負担の軽減	14.758	638.431
児童手当等の子育て世帯向け手当の充実	14.401	638.431
保育料の費用負担の軽減	14.851	638.431
給食費の費用負担の軽減	14.549	638.431
進学にかかる費用負担の軽減	14.855	638.431
多子世帯（扶養する子どもが3人以上いる世帯）に対する費用負担の軽減	14.461	638.431
低所得者に対する費用負担の軽減	14.936	638.431
定数項	0.258	1.419
n	669	
擬似決定係数	0.027	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

住宅取得の支援は分析対象の回答者数が少ない等の影響により分析対象外となっている

以上から、「子どもの数」が5%水準で負の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い

### ③教育の充実

	係数	標準誤差
年齢	-0.030	0.043
第一小学校区・中央小学校区	-0.579	1.297
上内田小学校区・西山口小学校区	-0.966	1.305
第二小学校区・曾我小学校区	-0.758	1.305
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	-0.857	1.296
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.540	1.408
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.821	1.301
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.553	1.304
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.786	1.327
子どもの数	-0.231	0.102 **
ひとり親	0.688	0.668
他人や自分を大切にし、人とのかかわりを学ぶ教育の推進	0.051	1.434
子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進	0.161	1.435
モンテッソーリ教育やイェナプラン教育など生きる力を育む新しい教育の充実、未来を生きる力を育む先端教育の充実	-0.002	1.440
親が子育てについて学ぶことができる講習会や親子で参加できるイベント等の充実	0.625	1.482
ニーズに応じた教育機会の充実（例 学区の弾力化、小中一貫校化）	-0.593	1.471
移動手段や送迎支援の充実（例 療育機関の利用、スクールバス等）	-0.907	1.470
定数項	1.106	1.929
n		678
擬似決定係数		0.029

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が5%水準で負の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い

#### ④ 相談機関の充実

	係数	標準誤差
年齢	-0.025	0.043
第一小学校区・中央小学校区	-0.350	1.461
上内田小学校区・西山口小学校区	-0.632	1.472
第二小学校区・曾我小学校区	-0.430	1.467
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	-0.539	1.460
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.380	1.560
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.449	1.464
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.158	1.467
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.466	1.487
子どもの数	-0.218	0.102 **
ひとり親	0.669	0.678
子育てに関する情報発信の充実	0.568	0.718
妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実	1.362	0.753 *
子育てについて気軽に相談できる窓口の充実	0.727	0.714
子どもの発達に関する相談窓口の充実	0.528	0.728
虐待に対する相談窓口の充実	0.734	0.952
いじめ・不登校に対する相談窓口の充実	0.325	0.737
定数項	0.100	1.638
n	675	
擬似決定係数	0.024	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実」が10%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い
- ◆ 妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い

## ⑤子育てと仕事の両立

	係数	標準誤差
年齢	-0.032	0.043
第一小学校区・中央小学校区	-1.030	1.282
上内田小学校区・西山口小学校区	-1.368	1.294
第二小学校区・曾我小学校区	-1.167	1.289
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	-1.278	1.282
日坂小学校区・東山口小学校区	-1.086	1.392
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-1.182	1.288
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.883	1.286
横須賀小学校区・大淵小学校区	-1.185	1.311
子どもの数	-0.246	0.101 **
ひとり親	0.654	0.665
育児・介護休業等の取得の促進	0.990	0.541 *
男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発	1.029	0.544 *
短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発	0.939	0.511 *
残業の縮減の意識啓発	0.788	0.588
就労への支援、安定した雇用への支援	0.728	0.536
定数項	0.670	1.316
n	673	
擬似決定係数	0.019	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「育児・介護休業等の取得の促進」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発」が10%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い
- ◆ 育児・介護休業等の取得の促進が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発が重要と答えるほど、市政への満足度が高い

## ⑥地域・親同士とのつながり

	係数	標準誤差
年齢	-0.029	0.043
第一小学校区・中央小学校区	-0.702	1.319
上内田小学校区・西山口小学校区	-1.009	1.328
第二小学校区・曾我小学校区	-0.787	1.328
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	-0.911	1.320
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.814	1.428
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.880	1.321
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.603	1.327
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.901	1.346
子どもの数	-0.247	0.101 **
ひとり親	0.596	0.659
子育て世帯同士がつながりあえる環境づくり	1.174	1.138
地域で子どもを守っていく体制づくり	1.202	1.138
子ども会など地域の健全育成活動の充実	1.573	1.225
多世代で交流できる場の充実	1.663	1.191
交通安全・防犯・防災教育の充実	1.463	1.149
地域のパトロール・見守り活動などの充実	0.984	1.156
定数項	-0.017	1.744
n	673	
擬似決定係数	0.019	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が5%水準で負の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い

### <分析結果考察>

属性項目以外で統計的に有意となった項目は、①環境の充実、④相談機関の充実、⑤子育てと仕事の両立の3点であり、市政への満足度を高めるためには、「公共施設のユニバーサルデザインの充実」、「児童館、図書館、子育て支援センター等の充実」、「妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実」、「育児・介護休業等の取得の促進」、「男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発」、「短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発」の6点を推進していくことで、市政への満足度を更に高めていくことができると考えられる。

分析結果からは、②経済的支援、③教育の充実、⑥地域・親同士とのつながりの項目において市政への満足度に影響を与える項目は見られなかった。

## 2. 子ども・子育て支援に係る調査（小学生用）

小学生用調査では、問8の子育てで最も必要と思うことにおける①環境の充実②経済的支援③教育の充実④相談機関の充実⑤子育てと仕事の両立⑥地域・親同士とのつながりの項目のどの変数が市政への満足度へ影響しているのかを二項ロジスティック回帰分析を用いて分析する。市政への満足度に影響を与える項目を把握することで、どの項目を優先して取り組んでいくことが重要かを把握していく。下記表において\*がついているものは統計的に有意であることを示し、\*がついていて係数が正であれば正の効果、負であれば負の効果を示す。

### ①環境の充実

	係数	標準誤差
年齢	0.027	0.061
第一小学校区・中央小学校区	-0.104	0.785
上内田小学校区・西山口小学校区	0.095	0.791
第二小学校区・曾我小学校区	0.168	0.792
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	0.058	0.785
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.087	0.831
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.095	0.786
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.239	0.789
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.129	0.804
子どもの数	-0.101	0.064
ひとり親	-0.239	0.227
産前・産後ケア、家事支援サービス等の充実	-1.385	0.555 **
受診できる医療機関の充実	-1.030	0.534 *
病気や障がい等の支援の充実	-1.360	0.579 **
保育園や一時預かり保育、放課後児童クラブ等、預かる施設の充実	-1.461	0.530 ***
公共施設のユニバーサルデザイン（例 おむつ台、多目的トイレ、スロープ）の充実	-0.499	0.901
児童館、図書館、子育て支援センター等の充実	-1.267	0.571 **
公園、遊び場等の充実	-1.662	0.535 ***
ショッピングモール等、商業施設整備の充実	-1.787	0.559 ***
定数項	1.084	1.074
n	1,751	
擬似決定係数	0.018	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的に有意を示す

以上から、「産前・産後ケア、家事支援サービス等の充実」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「受診できる医療機関の充実」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「病気や障がい等の支援の充実」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「保育園や一時預かり保育、放課後児童クラブ等、預かる施設の充実」が1%水準で負の方向に統計的に有意、「児童館、図書館、子育て支援センター等の充実」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「公園、遊び場等の充実」が1%水準で負の方向に統計的に有意、「ショッピングモール等、商業施設整備の充実」が1%水準で負の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 産前・産後ケア、家事支援サービス等の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が低い
- ◆ 受診できる医療機関の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が低い
- ◆ 病気や障がい等の支援の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が低い
- ◆ 保育園や一時預かり保育、放課後児童クラブ等、預かる施設の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が低い
- ◆ 児童館、図書館、子育て支援センター等の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が低い
- ◆ 公園、遊び場等の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が低い
- ◆ ショッピングモール等、商業施設整備の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が低い

## ②経済的支援

	係数	標準誤差
年齢	0.041	0.060
第一小学校区・中央小学校区	-0.011	0.776
上内田小学校区・西山口小学校区	0.174	0.782
第二小学校区・曾我小学校区	0.223	0.783
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	0.172	0.776
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.043	0.823
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	0.021	0.777
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.138	0.780
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.008	0.795
子どもの数	-0.043	0.071
ひとり親	-0.218	0.229
出産や不妊治療に対する費用負担の軽減	0.715	0.576
児童手当等の子育て世帯向け手当の充実	0.915	0.530 *
放課後児童クラブ（学童保育）保育料の費用負担の軽減	0.562	0.576
給食費の費用負担の軽減	0.705	0.555
進学にかかる費用負担の軽減	0.589	0.528
多子世帯（扶養する子どもが3人以上いる世帯）に対する費用負担の軽減	0.318	0.551
低所得者に対する費用負担の軽減	1.031	0.620 *
住宅取得の支援	0.786	0.707
定数項	-1.321	1.067
n	1,747	
擬似決定係数	0.011	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「児童手当等の子育て世帯向け手当の充実」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「低所得者に対する費用負担の軽減」が10%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 児童手当等の子育て世帯向け手当の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 低所得者に対する費用負担の軽減が重要と答えるほど、市政への満足度が高い

### ③教育の充実

	係数	標準誤差
年齢	0.034	0.060
第一小学校区・中央小学校区	-0.088	0.774
上内田小学校区・西山口小学校区	0.069	0.779
第二小学校区・曾我小学校区	0.146	0.780
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	0.084	0.774
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.057	0.821
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.081	0.775
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.201	0.778
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.061	0.793
子どもの数	-0.117	0.064 *
ひとり親	-0.206	0.228
他人や自分を大切にし、人とのかかわりを学ぶ教育の推進	1.114	0.576 *
子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進	1.025	0.576 *
モンテッソーリ教育やイェナプラン教育など生きる力を育む新しい教育の充実、未来を生きる力を育む先端教育の充実	0.835	0.580
親が子育てについて学ぶことができる講習会や親子で参加できるイベント等の充実	0.943	0.648
ニーズに応じた教育機会の充実（例 学区の弾力化、小中一貫校化）	0.816	0.603
移動手段や送迎支援の充実（例 療育機関の利用、スクールバス等）	0.437	0.604
定数項	-1.299	1.087
n		1,744
擬似決定係数		0.011

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が10%水準で負の方向に統計的に有意、「他人や自分を大切にし、人とのかかわりを学ぶ教育の推進」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進」が10%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い
- ◆ 他人や自分を大切にし、人とのかかわりを学ぶ教育の推進が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進が重要と答えるほど、市政への満足度が高い

#### ④相談機関の充実

	係数	標準誤差
年齢	0.031	0.061
第一小学校区・中央小学校区	-0.113	0.774
上内田小学校区・西山口小学校区	0.002	0.780
第二小学校区・曾我小学校区	0.133	0.780
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	0.060	0.774
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.197	0.822
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.102	0.775
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.284	0.778
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.106	0.793
子どもの数	-0.117	0.064 *
ひとり親	-0.221	0.231
子育てに関する情報発信の充実	0.839	0.381 **
妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実	0.792	0.433 *
子育てについて気軽に相談できる窓口の充実	0.727	0.380 *
子どもの発達に関する相談窓口の充実	0.730	0.388 *
虐待に対する相談窓口の充実	1.797	0.630 ***
いじめ・不登校に対する相談窓口の充実	0.617	0.386
定数項	-1.018	0.999
n	1,733	
擬似決定係数	0.009	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が10%水準で負の方向に統計的に有意、「子育てに関する情報発信の充実」が5%水準で正の方向に統計的に有意、「妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「子育てについて気軽に相談できる窓口の充実」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「子どもの発達に関する相談窓口の充実」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「虐待に対する相談窓口の充実」が1%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い
- ◆ 子育てに関する情報発信の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 子育てについて気軽に相談できる窓口の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 子どもの発達に関する相談窓口の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 虐待に対する相談窓口の充実が重要と答えるほど、市政への満足度が高い

## ⑤子育てと仕事の両立

	係数	標準誤差
年齢	0.031	0.061
第一小学校区・中央小学校区	-0.135	0.789
上内田小学校区・西山口小学校区	0.034	0.795
第二小学校区・曾我小学校区	0.141	0.796
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	0.043	0.789
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.040	0.836
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.112	0.790
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.262	0.793
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.084	0.809
子どもの数	-0.107	0.064 *
ひとり親	-0.168	0.229
育児・介護休業等の取得の促進	1.322	0.332 ***
男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発	0.890	0.324 ***
短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発	0.863	0.305 ***
残業の縮減の意識啓発	0.932	0.347 ***
就労への支援、安定した雇用への支援	0.788	0.316 **
定数項	-1.185	0.977
n		1,737
擬似決定係数		0.012

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が10%水準で負の方向に統計的に有意、「育児・介護休業等の取得の促進」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「残業の縮減の意識啓発」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「就労への支援、安定した雇用への支援」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い
- ◆ 育児・介護休業等の取得の促進が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 残業の縮減の意識啓発が重要と答えるほど、市政への満足度が高い
- ◆ 就労への支援、安定した雇用への支援が重要と答えるほど、市政への満足度が高い

## ⑥地域・親同士とのつながり

	係数	標準誤差
年齢	0.038	0.060
第一小学校区・中央小学校区	-0.172	0.775
上内田小学校区・西山口小学校区	0.006	0.780
第二小学校区・曾我小学校区	0.087	0.782
西郷小学校区・城北小学校区・倉真小学校区	-0.008	0.775
日坂小学校区・東山口小学校区	-0.222	0.823
桜木小学校区・和田岡小学校区・原田小学校区・原谷小学校区	-0.168	0.776
千浜小学校区・大坂小学校区・土方小学校区・佐東小学校区・中小小学校区	-0.286	0.779
横須賀小学校区・大淵小学校区	-0.125	0.794
子どもの数	-0.107	0.064 *
ひとり親	-0.133	0.227
子育て世帯同士がつながりあえる環境づくり	0.265	0.370
地域で子どもを守っていく体制づくり	0.004	0.368
子ども会など地域の健全育成活動の充実	-0.015	0.460
多世代で交流できる場の充実	0.502	0.409
交通安全・防犯・防災教育の充実	0.053	0.372
地域のパトロール・見守り活動などの充実	-0.006	0.374
定数項	-0.414	0.996
n		1,743
擬似決定係数		0.008

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもの数」が10%水準で負の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもの数が多いほど、市政への満足度が低い

### <分析結果考察>

属性項目以外で統計的に有意となった項目は、①環境の充実、②経済的支援、③教育の充実、④相談機関の充実、⑤子育てと仕事の両立の項目で市政への満足度に影響を与える項目があった。

①の環境の充実においては、「公共施設のユニバーサルデザインの充実」以外の項目で負の影響があったことから、「産前・産後ケア、家事支援サービス等の充実」、「受診できる医療機関の充実」、「病気や障がい等の支援の充実」、「保育園や一時預かり保育、放課後児童クラブ等、預かる施設の充実」、「児童館、図書館、子育て支援センター等の充実」、「公園、遊び場等の充実」、「ショッピングモール等、商業施設整備の充実」の7点が重要と答える市民は市政の満足度が低く、早急に対応していく課題であると考えられる。

「児童手当等の子育て世帯向け手当の充実」、「低所得者に対する費用負担の軽減」、「他人や自分を大切にし、人とかかわりを学ぶ教育の推進」、「子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進」、「子育てに関する情報発信の充実」、「妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実」、「子育てについて気軽に相談できる窓口の充実」、「子どもの発達に関する相談窓口の充実」、「虐待に対する相談窓口の充実」、「育児・介護休業等の取得の促進」、「男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発」、「短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発」、「残業の縮減の意識啓発」、「就労への支援、安定した雇用への支援」の14点を更に推進していくことで、市政への満足度を高めていくことができると考えられる。

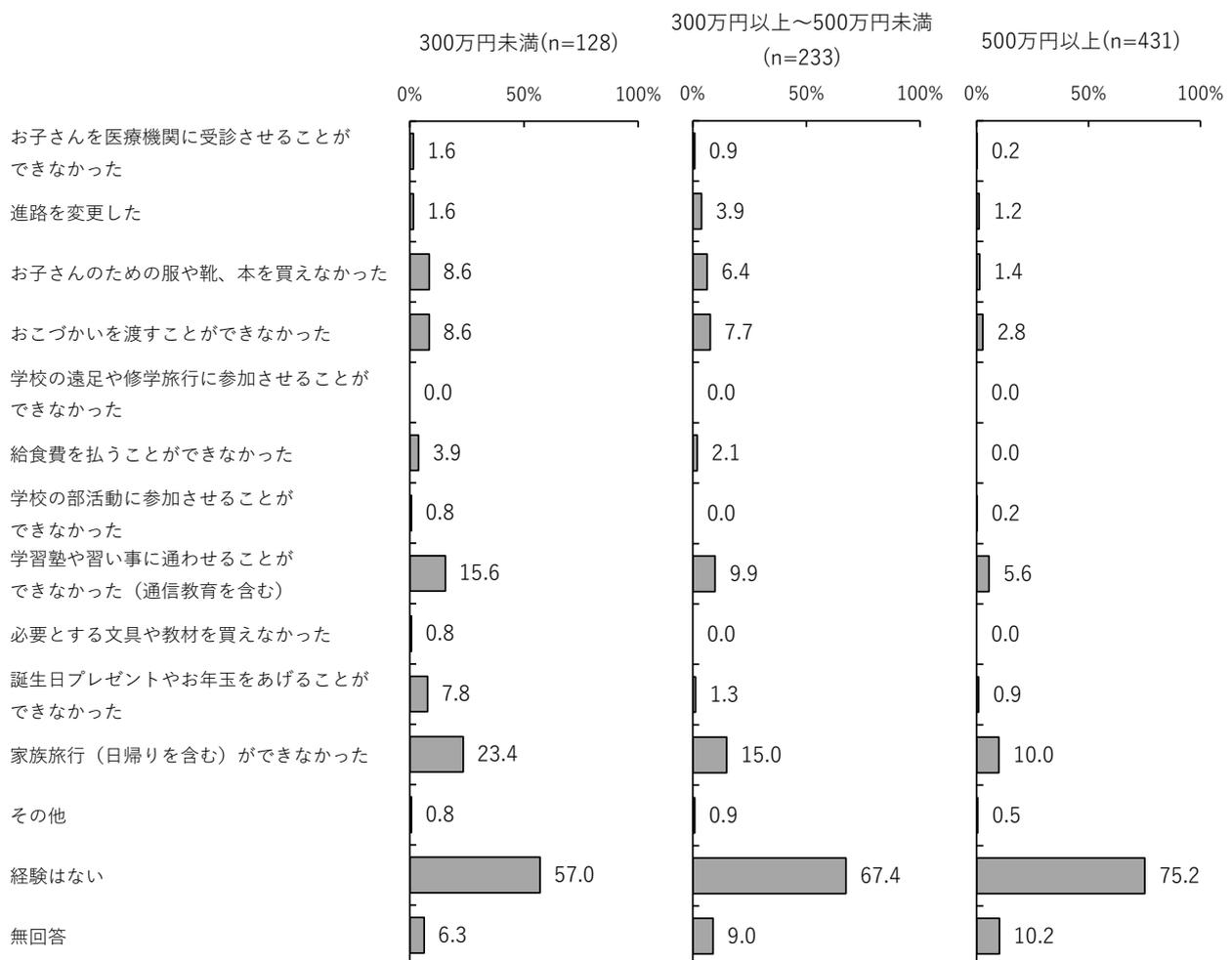
### 3. 子どもの貧困対策に係る調査（保護者用）

保護者用調査では、回帰分析に用いることが有用な質問がないこと、子ども用調査との比較による保護者と子どもの意識の違いを分析することが重要であるため、保護者用調査においては、保護者の客観的経済状況と主観的経済状況ごとの状況や子ども用調査との比較分析を行う。

#### ①子どもについて経済的な理由で経験したこと

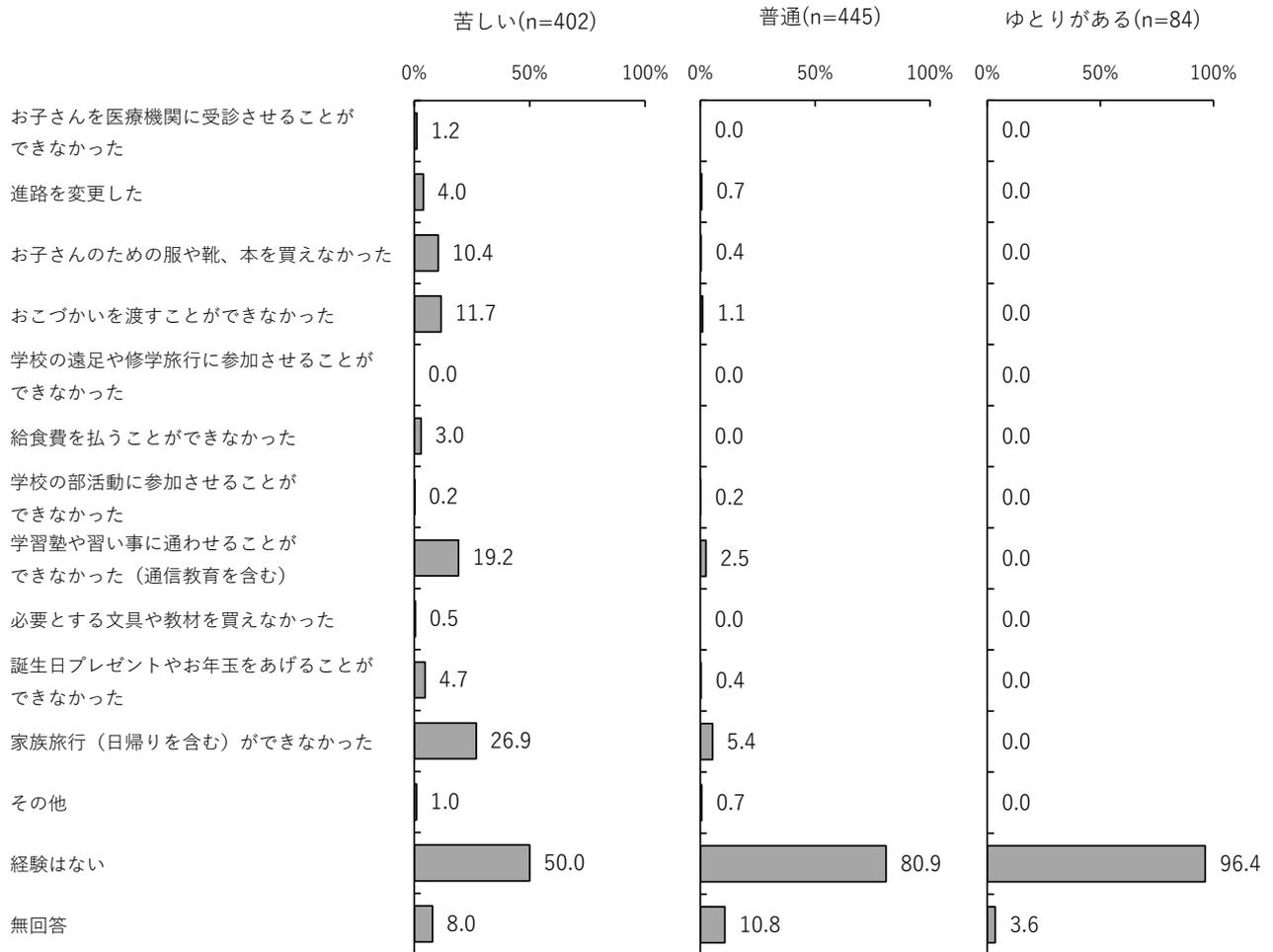
##### <客観的経済状況>

客観的経済状況と子どもに経済的な理由で経験したことを分析すると、客観的経済状況の収入が上がるにつれて、「経験はない」と答える割合は高くなっていく。特に、収入による差がみられる点としては、「学習塾や習い事に通わせることができなかった」、「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」の2点においては、収入が上がるにつれて回答する割合が低くなる傾向にある。



<主観的経済状況>

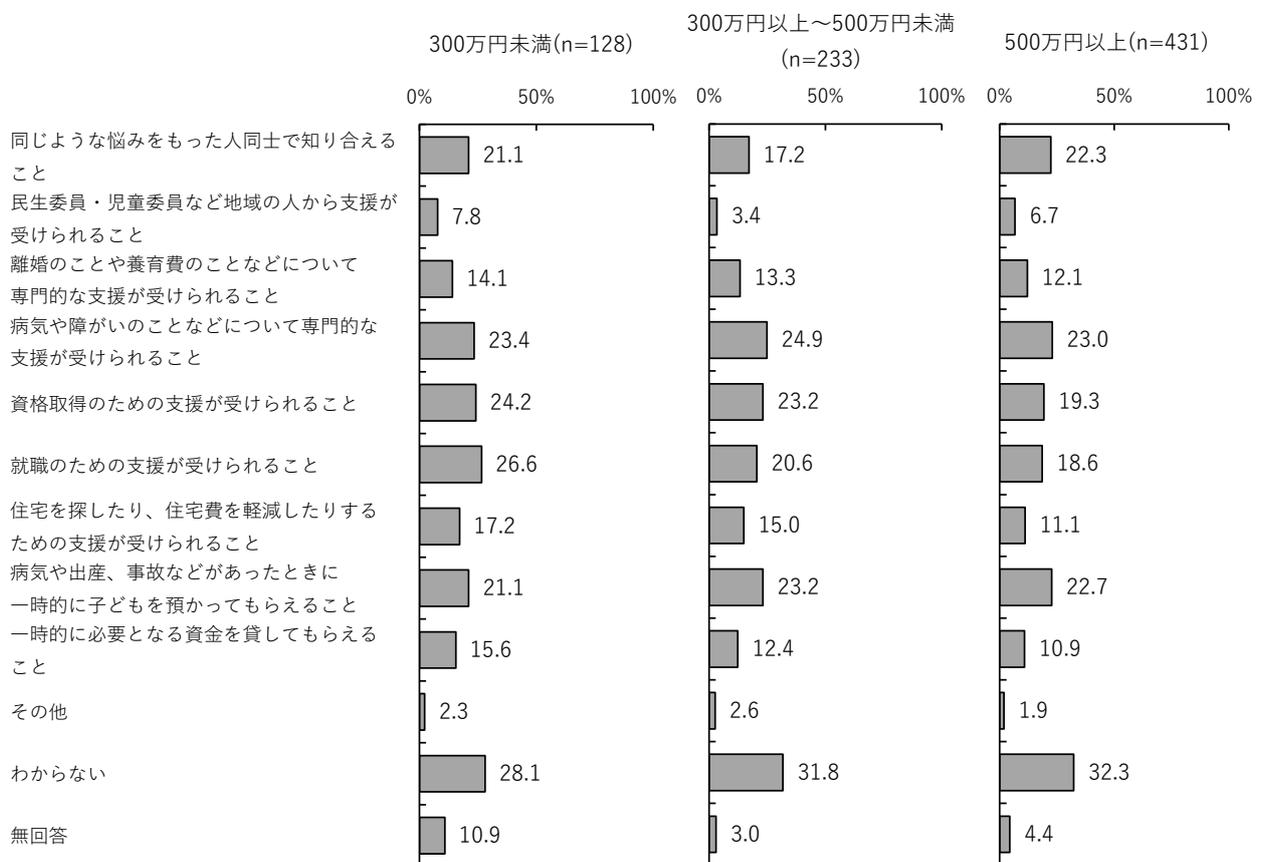
主観的経済状況においても、収入が上がるにつれて、「経験はない」と答える割合は高くなっていく。また、客観的経済状況と同様に、「学習塾や習い事に通わせることができなかった」、「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」の2点においては、“普通”と比べて“苦しい”において回答する割合が高くなっている。



## ②必要とする支援

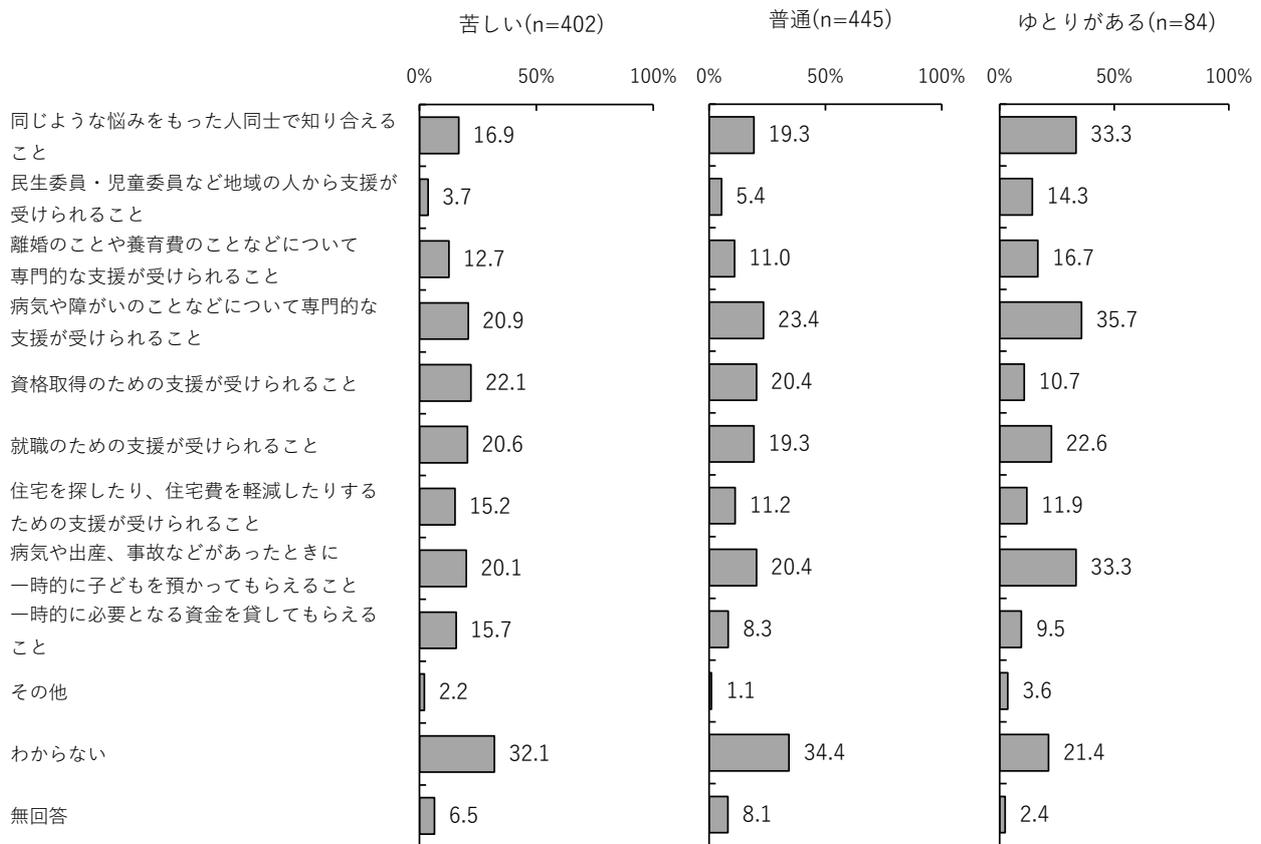
### <客観的経済状況>

客観的経済状況と必要としている支援、重要だと思う支援を分析すると、年収300万円未満においては「就職のための支援が受けられること」が最も多く、次いで「資格取得のための支援が受けられること」となっているが、300万円以上500万円未満では「病気や障がいのことなどについて専門的な支援が受けられること」が最も多く、次いで「資格取得のための支援が受けられること」、「病気や出産、事故などがあったときに一時的に子どもを預かってもらえること」となっている。500万円以上では、「病気や障がいのことなどについて専門的な支援が受けられること」が最も多く、次いで「病気や出産、事故などがあったときに一時的に子どもを預かってもらえること」となっている。



## <主観的経済状況>

主観的経済状況においては、“苦しい”においては「資格取得のための支援が受けられること」が最も多く、次いで「病気や障がいのことなどについて専門的な支援が受けられること」となっている。“普通”では、「病気や障がいのことなどについて専門的な支援が受けられること」が最も多く、次いで「資格取得のための支援が受けられること」、「病気や出産、事故などがあったときに一時的に子どもを預かってもらえること」となっている。“ゆとりがある”では、「病気や障がいのことなどについて専門的な支援が受けられること」が最も多く、次いで「同じような悩みを持った人同士で知り合えること」、「病気や出産、事故などがあったときに一時的に子どもを預かってもらえること」となっている。



## <分析結果考察>

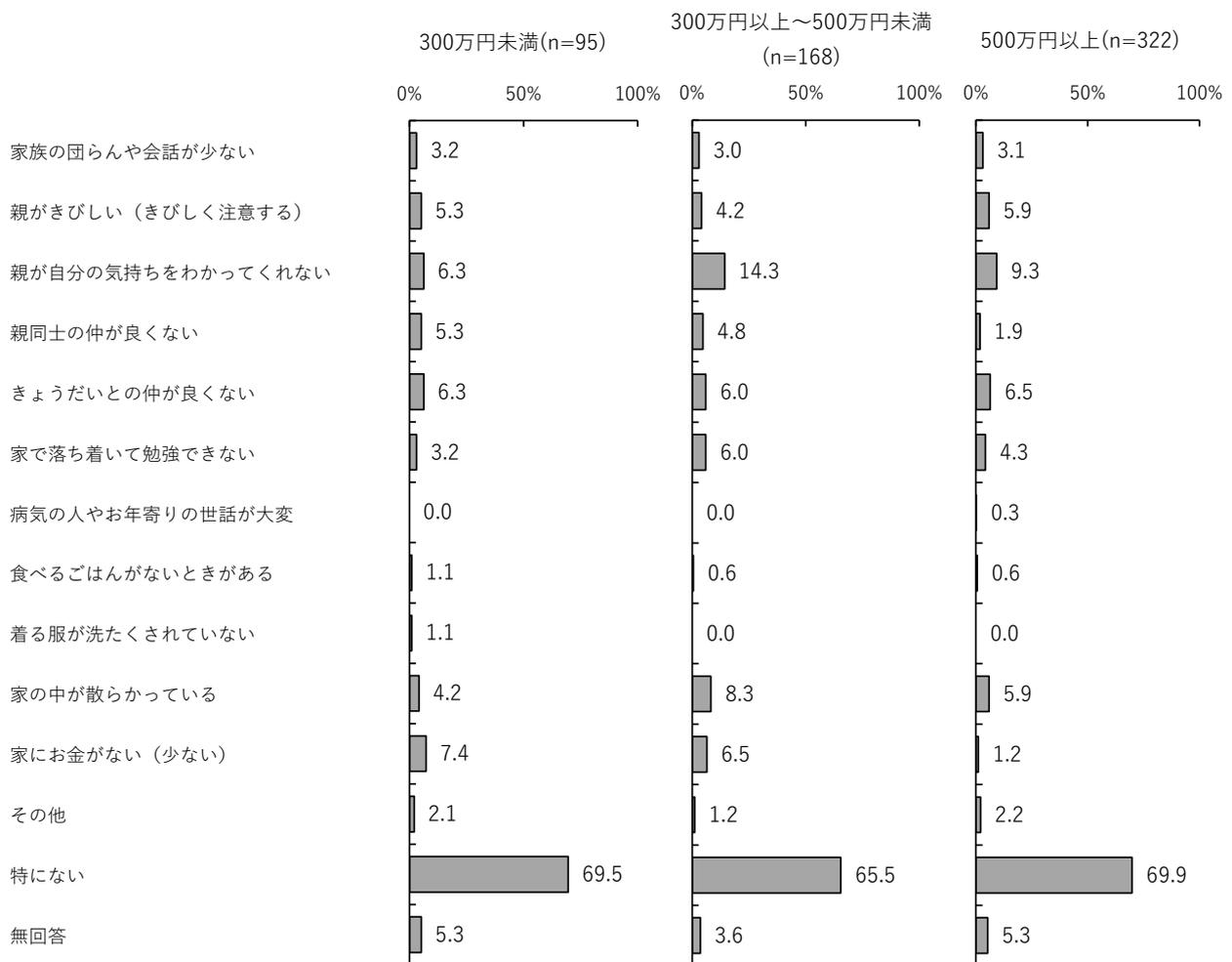
子どもについて経済的な理由で経験したことについては、「学習塾や習い事に通わせることができなかった」、「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」が客観的、主観的の両方で、収入が上がるにつれて回答する割合が低くなる傾向にある。

必要とする支援については、客観的、主観的の両方で収入が下がるにつれて資格取得のための支援のニーズが高くなる一方で、就職への支援については、客観的経済状況において、ニーズがみられた。客観的経済状況のほうが主観的経済状況よりも収入が低くなるにつれて資格取得や就職というニーズが高まると考えられる。

### ③家族のことで困っていること

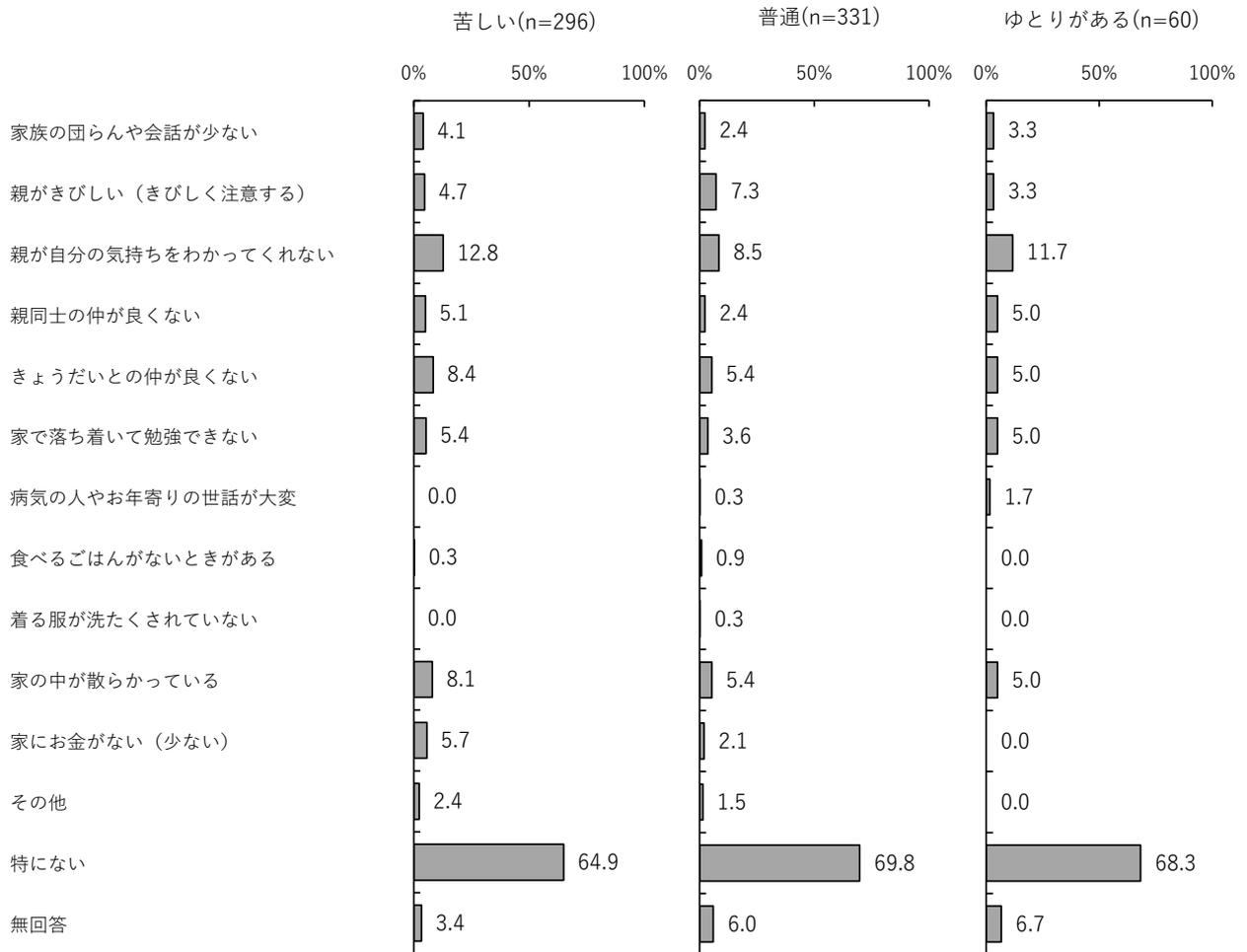
#### <客観的経済状況>

客観的経済状況と家族のことで困っていることを分析すると、300万円未満では、「特にない」を除くと、「家にお金がない(少ない)」が最も多く、次いで「親が自分の気持ちをわかってくれない」、「きょうだいとの仲が良くない」となっており、300万円以上～500万円未満では、「親が自分の気持ちをわかってくれない」が最も多く、次いで「家の中が散らかっている」となっている。500万円以上では、「親が自分の気持ちをわかってくれない」が最も多く、次いで「きょうだいの仲が良くない」となっている。



<主観的経済状況>

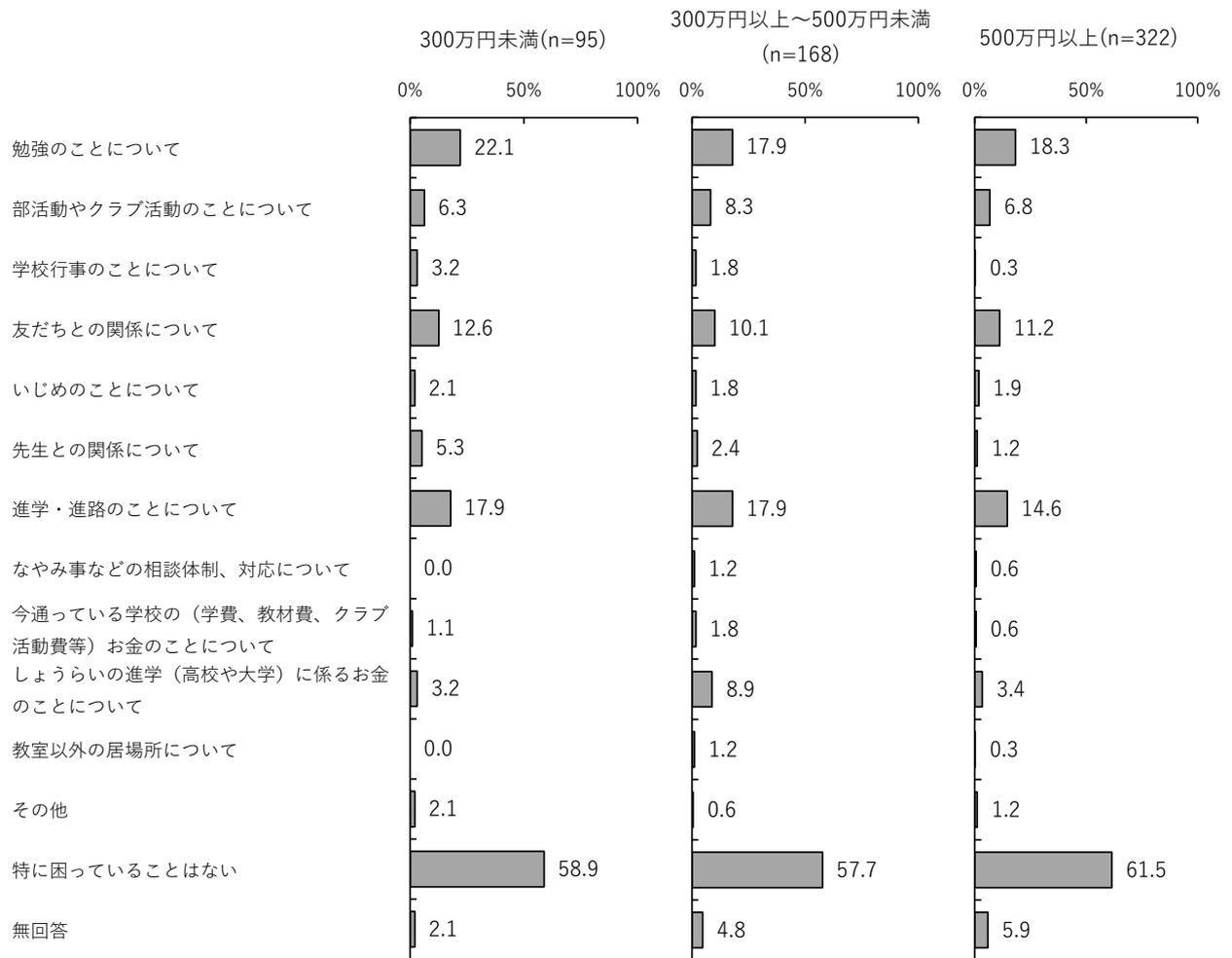
主観的経済状況を分析すると、すべてにおいて「親が自分の気持ちをわかってくれない」が最も多くなっており、客観的経済状況と異なる結果となった。



## ④ 学校のことで困っていること

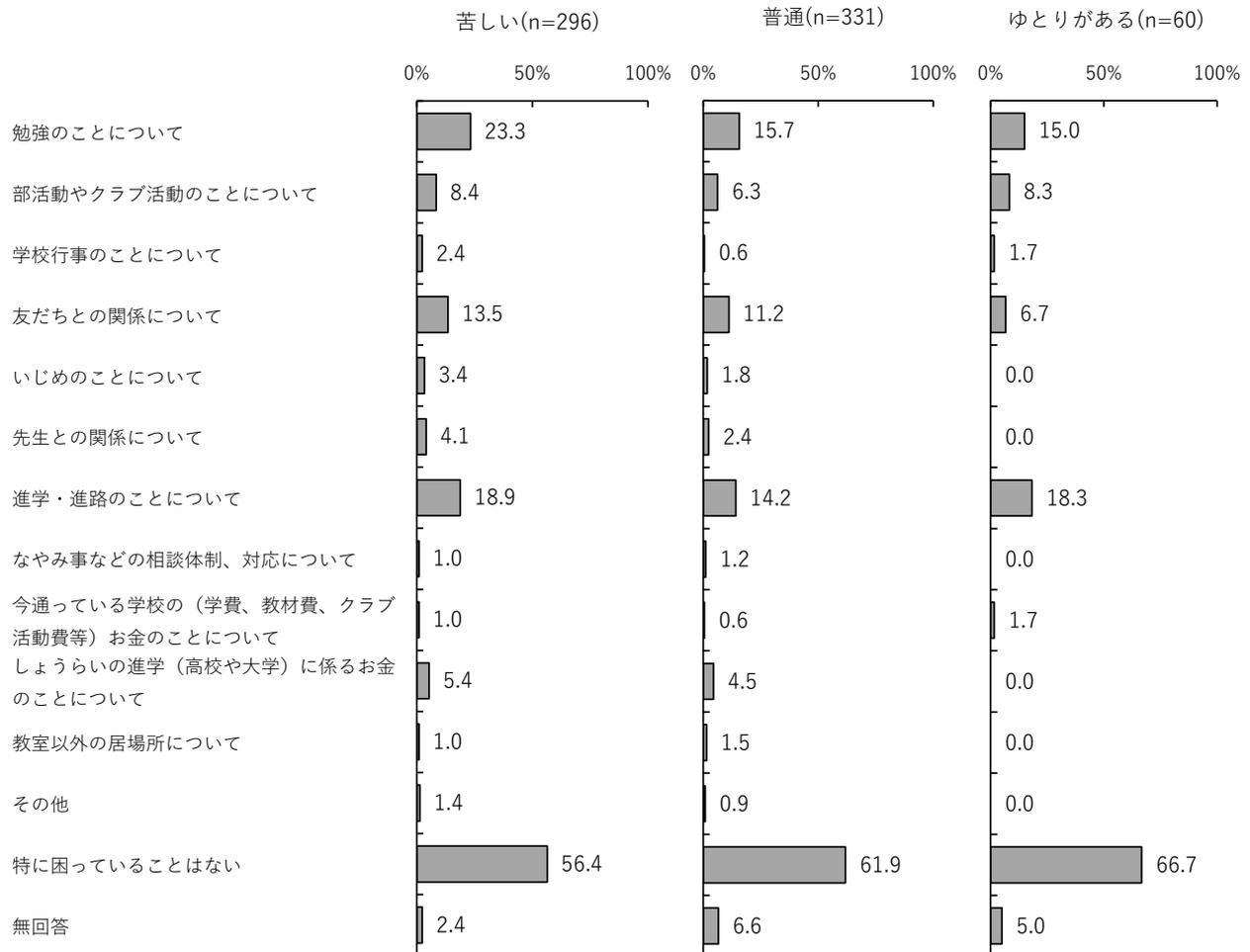
### ＜客観的経済状況＞

客観的経済状況と学校のことで困っていることを分析すると、どの収入でも「勉強のことについて」と「進学・進路のことについて」が上位となっている。



## <主観的経済状況>

客観的経済状況と同様に、どの暮らしの状況でも「勉強のことに」について」と「進学・進路のことに」について」が上位となっている。



## <分析結果考察>

家族のことで困っていることについては、収入が低い家庭では、「家にお金がない（少ない）」が多くなっており、収入が上がると「親が自分の気持ちをわかってくれない」が多くなる傾向にある。客観的に収入が低い家庭においては、子どもも家の収入を実感していることがわかる。学校で困っていることについては、客観的、主観的な影響はなく、「勉強のことに」と「進学・進路のことに」が子どもにおいて困っていることであると考えられる。

## 4. 子どもの貧困対策に係る調査（こども用）

こども用調査では、問18の自分のことをどう思うかにおける①頑張れば成果が出せる②自分は価値のある人間だ③自分に良いところがある④不安に感じることはない⑤孤独を感じることはない⑥自分の将来が楽しみだの項目に、子どもの普段の生活環境がどのように影響しているかを分析するために、二項ロジスティック回帰分析を用いて分析する。子どもの自身の考え方に影響を与える子どもの普段の生活環境を把握することで、どの項目を優先して取り組んでいくことが重要かを把握していく。下記表において\*がついているものは統計的に有意であることを示し、\*がついていて係数が正であれば正の効果、負であれば負の効果を示す。

### ①頑張れば成果が出せる

	係数	標準誤差
小学生	0.128	0.371
父母同居	0.239	0.497
寝る時間	-0.397	0.309
起きる時間	0.068	0.172
朝食	1.024	0.416 **
定数項	2.560	1.268 **
n	889	
擬似決定係数	0.022	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「朝食」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 朝食を欠食しないほど、頑張れば成果が出せると考える

## ② 自分は価値のある人間だ

	係数	標準誤差
小学生	0.027	0.207
父母同居	-0.157	0.315
寝る時間	-0.017	0.171
起きる時間	-0.279	0.096 ***
朝食	0.586	0.291 **
定数項	1.630	0.734 **
n	886	
擬似決定係数	0.025	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「起きる時間」が1%水準で負の方向に統計的に有意、「朝食」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 起きる時間が早いほど、自分は価値のある人間だと考える
- ◆ 朝食を欠食しないほど、頑張れば成果が出せると考える

## ③ 自分に良いところがある

	係数	標準誤差
小学生	0.107	0.261
父母同居	-0.061	0.384
寝る時間	-0.237	0.205
起きる時間	-0.284	0.118 **
朝食	0.537	0.335
定数項	3.009	0.886 ***
n	889	
擬似決定係数	0.034	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「起きる時間」が5%水準で負の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 起きる時間が早いほど、自分に良いところがあると考え

#### ④不安に感じることはない

	係数	標準誤差
小学生	0.280	0.177
父母同居	0.011	0.272
寝る時間	0.077	0.154
起きる時間	-0.264	0.086 ***
朝食	0.441	0.285
定数項	0.186	0.655
n	889	
擬似決定係数	0.030	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「起きる時間」が1%水準で負の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 起きる時間が早いほど、不安に感じることはないと考える

#### ⑤孤独を感じることはない

	係数	標準誤差
小学生	0.103	0.196
父母同居	0.098	0.289
寝る時間	0.146	0.165
起きる時間	-0.180	0.092 **
朝食	0.751	0.281 ***
定数項	0.203	0.695
n	888	
擬似決定係数	0.018	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「起きる時間」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「朝食」が1%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 起きる時間が早いほど、孤独を感じることはないと考える
- ◆ 朝食を欠食しないほど、孤独を感じることはないと考える

## ⑥自分の将来が楽しみだ

	係数	標準誤差
小学生	0.439	0.211 **
父母同居	-0.207	0.324
寝る時間	0.092	0.173
起きる時間	-0.138	0.098
朝食	1.001	0.287 ***
定数項	0.413	0.735
n	890	
擬似決定係数	0.032	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「小学生」が5%水準で正の方向に統計的に有意、「朝食」が1%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 小学生ほど、自分の将来が楽しみだと考える
- ◆ 朝食を欠食しないほど、自分の将来が楽しみだと考える

### <分析結果考察>

全体として、起きる時間が早いほど、朝食を欠食しないほど、自身のことを肯定的に捉える傾向があることがわかる。また、中学生に比べて、小学生のほうが、自分の将来が楽しみであると考えられる傾向があることがわかった。

## 5. こども・若者に係る調査（16～39歳用）

16～39歳調査では、まず、問41のこども・若者支援で期待することにおける①出会い・結婚②ワークライフバランス③交流の場・居場所④福祉・医療・子育てのどの変数が市の好意度へ影響しているのかを二項ロジスティック回帰分析を用いて分析する。市の好意度に影響を与える項目を把握することで、どの項目を優先して取り組んでいくことが重要かを把握していく。下記表において\*がついているものは統計的に有意であることを示し、\*がついていて係数が正であれば正の効果、負であれば負の効果を示す。

### ①出会い・結婚

	係数	標準誤差
性別	0.284	0.298
年齢	-0.027	0.031
教育程度	0.202	0.079 **
一人暮らし	-0.532	0.505
正社員・自由業	-0.158	0.457
派遣・パート等	-0.040	0.518
学生	1.062	0.662
既婚	-0.042	0.382
子どもあり	0.326	0.400
出会いに対する支援	1.771	1.077
結婚に対する支援	0.230	1.140
結婚後の経済的支援	1.037	1.038
イベント機会の創出	0.285	1.160
出会いや結婚を望まない	0.597	1.103
定数項	-0.549	1.192
n		361
擬似決定係数		0.069

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「教育程度」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 教育程度が高いほど、掛川市が好き

## ②ワークライフバランス

	係数	標準誤差
性別	0.229	0.291
年齢	-0.028	0.031
教育程度	0.228	0.078 ***
一人暮らし	-0.665	0.481
正社員・自由業	0.072	0.432
派遣・パート等	0.082	0.501
学生	1.211	0.637 *
既婚	-0.272	0.369
子どもあり	0.401	0.390
若者や失業者への就労支援	-1.043	1.174
子育てと仕事が両立できる職場環境整備の充実	-0.959	1.135
残業時間の短縮や休暇の取得促進など、職場環境の改善	-1.167	1.133
安定した働きがいのある雇用の場づくり	-1.302	1.146
創業（起業）の支援	-0.755	1.372
定数項	1.347	1.259
n	363	
擬似決定係数	0.046	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「教育程度」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「学生」が10%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 教育程度が高いほど、掛川市が好き
- ◆ 学生ほど、掛川市が好き

### ③交流の場・居場所

	係数	標準誤差
性別	0.091	0.301
年齢	-0.035	0.033
教育程度	0.241	0.080 ***
一人暮らし	-0.529	0.510
正社員・自由業	-0.110	0.440
派遣・パート等	-0.218	0.512
学生	0.922	0.646
既婚	-0.072	0.377
子どもあり	0.320	0.405
若者と地域の高齢者などとの世代間交流の促進	2.450	1.076 **
市外在住者の移住支援	0.815	0.692
楽しめるイベント開催など機会の充実	0.896	0.450 **
娯楽施設などの楽しめる場所の充実	0.772	0.367 **
同世代が集える若者の居場所づくり	0.119	0.480
安心して集まれる身近な居場所づくり	0.502	0.468
定数項	-0.126	0.692
n	350	
擬似決定係数	0.077	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

困ったときに相談したり、情報が得られる場合は分析対象の回答者数が少ない等の影響により分析対象外となっている

以上から、「教育程度」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「若者と地域の高齢者などとの世代間交流の促進」が5%水準で正の方向に統計的に有意、「楽しめるイベント開催など機会の充実」が5%水準で正の方向に統計的に有意、「娯楽施設などの楽しめる場所の充実」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 教育程度が高いほど、掛川市が好き
- ◆ 若者と地域の高齢者などとの世代間交流の促進が必要と答えるほど、掛川市が好き
- ◆ 楽しめるイベント開催など機会の充実が必要と答えるほど、掛川市が好き
- ◆ 娯楽施設などの楽しめる場所の充実が必要と答えるほど、掛川市が好き

#### ④福祉・医療・子育て

	係数	標準誤差
性別	0.198	0.301
年齢	-0.034	0.032
教育程度	0.238	0.079 ***
一人暮らし	-0.253	0.505
正社員・自由業	-0.164	0.460
派遣・パート等	-0.068	0.519
学生	1.174	0.684 *
既婚	0.108	0.396
子どもあり	0.212	0.405
高等教育の負担軽減、奨学金制度など給付・支援事業の充実	1.354	1.033
住宅支援	1.040	1.039
出産や不妊治療の経済的負担軽減	0.763	1.036
保育サービスの充実	0.810	1.041
医療・福祉サービスの充実	0.307	1.031
教育・保育の経済的負担軽減	1.249	1.034
定数項	-0.578	1.210
n	358	
擬似決定係数	0.068	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「教育程度」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「学生」が10%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 教育程度が高いほど、掛川市が好き
- ◆ 学生ほど、掛川市が好き

次に、問28-1の独身でいる理由が問29の今後の結婚意向に与える影響を二項ロジスティック回帰分析を用いて分析する。今後の結婚意向に影響を与える項目を把握することで、どの項目を優先して取り組んでいくことが重要かを把握していく。下記表において\*がついているものは統計的に有意であることを示し、\*がついていて係数が正であれば正の効果、負であれば負の効果を示す。

## ⑤独身でいる理由

	係数	標準誤差
性別	0.493	0.427
年齢	-0.056	0.051
教育程度	0.180	0.125
一人暮らし	0.261	0.667
正社員・自由業	0.741	0.870
派遣・パート等	0.871	0.976
学生	0.136	0.950
結婚するにはまだ若すぎるから	0.225	0.584
結婚する必要を感じないから	-3.055	0.618 ***
今は仕事または学業にうちこみたいから	0.127	0.540
今は趣味や娯楽を楽しみたいから	0.482	0.612
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	-1.437	0.556 **
適当な相手にまだめぐり会わないから	1.364	0.549 **
異性と出会うきっかけがないから	-0.052	0.576
異性とうまくつきあえないから	-0.340	0.671
異性とつきあうのがわずらわしいから	-0.729	0.908
結婚資金が足りないから	-0.098	0.912
結婚後の生活資金が足りないから	0.175	0.898
親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から	2.371	1.611
離婚・死別した直後だから	-0.888	1.614
特に理由はない	-0.055	0.781
定数項	-0.148	1.086
n	187	
擬似決定係数	0.305	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

再婚する気がないからは分析対象の回答者数が少ない等の影響により分析対象外となっている

以上から、「結婚する必要を感じないから」が1%水準で負の方向に統計的に有意、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 結婚する必要を感じないからと答えるほど、一生結婚するつもりはない
- ◆ 独身の自由さや気楽さを失いたくないからと答えるほど、一生結婚するつもりはない
- ◆ 適当な相手にまだめぐり会わないからと答えるほど、いずれ結婚するつもり

次に、問34の理想的な子どもの人数を持つ際の課題、子どもを持つつもりのない理由が理想の子ども数と現在の子どもの数が一致していないことへの影響を二項ロジスティック回帰分析を用いて分析する。理想の子ども数と現在の子どもの数が一致していないに影響を与える項目を把握することで、どの項目を優先して取り組んでいくことが重要かを把握していく。下記表において\*がついているものは統計的に有意であることを示し、\*がついていて係数が正であれば正の効果、負であれば負の効果を示す。

## ⑥理想的な子どもの人数を持つ際の課題、子どもを持つつもりのない理由

	係数	標準誤差
性別	0.282	0.321
年齢	0.049	0.037
教育程度	-0.122	0.082
一人暮らし	-0.406	0.643
正社員・自由業	-0.518	0.501
派遣・パート等	0.183	0.560
学生	-0.719	0.735
既婚	0.160	0.462
子どもあり	1.273	0.456 ***
体力的負担が大きいから	-0.170	0.355
経済的負担が大きいから	-0.740	0.405 *
精神的負担が大きいから	0.610	0.366 *
自分の仕事（勤めや家業）に差しつかえるから	-0.842	0.390 **
育児環境が良くないから	-0.396	0.563
自分や夫婦の生活を大切にしたいから	0.334	0.418
高齢出産を避けたいから	0.036	0.452
健康上の理由から	0.368	0.556
ほしいけれどもできないから	-0.934	0.669
配偶者が家事育児に協力的でないから	0.257	0.911
配偶者が望まないから	0.350	0.657
定年退職までに末子に成人してほしいから	1.570	1.146
周囲の出産・育児に対する理解・協力がいないから	-0.115	1.395
自分の人生を生きるのに精一杯だから	0.448	0.379
結婚する気がないから	1.871	0.536 ***
保育所等の子どもを預けられる環境がないから	-0.206	0.683
子どもが好きではないから	1.530	0.672 **
特に理由はない	0.390	0.592
定数項	-1.462	0.853 *
n	363	
擬似決定係数	0.205	

\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的有意を示す

以上から、「子どもあり」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「経済的負担が大きいから」が10%水準で負の方向に統計的に有意、「精神的負担が大きいから」が10%水準で正の方向に統計的に有意、「自分の仕事（勤めや家業）に差しつかえるから」が5%水準で負の方向に統計的に有意、「結婚する気がないから」が1%水準で正の方向に統計的に有意、「子どもが好きではないから」が5%水準で正の方向に統計的に有意となっている。ここからわかることは以下のとおりである。

- ◆ 子どもありと答えるほど、理想と現実の子どもの数が一致している
- ◆ 経済的負担が大きいからと答えるほど、理想と現実の子どもの数が一致していない
- ◆ 精神的負担が大きいからと答えるほど、理想と現実の子どもの数が一致している
- ◆ 自分の仕事（勤めや家業）に差しつかえるからと答えるほど、理想と現実の子どもの数が一致していない
- ◆ 結婚する気がないからと答えるほど、理想と現実の子どもの数が一致している
- ◆ 子どもが好きではないからと答えるほど、理想と現実の子どもの数が一致している

#### <分析結果考察>

掛川市への好意度に影響を与える項目については、③交流の場・居場所の項目のみであった。「若者と地域の高齢者などとの世代間交流の促進」、「楽しめるイベント開催など機会の充実」、「娯楽施設などの楽しめる場所の充実」を推進していくことで、掛川市への好意度を更に高めることができると考えられる。

「結婚する必要を感じないから」、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、「適当な相手にまだめぐり合わないから」という理由が、今後の結婚意向に影響することがわかった。「結婚する必要を感じないから」、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」は個人の価値観であり、変更は難しい一方で、出会いの支援を展開することが結婚を促進すると考えられる。

理想と現実の子どもの数については、「経済的負担が大きいから」、「自分の仕事（勤めや家業）に差しつかえるから」が理想の子どもの数と一致していない要因であることがわかった。ここから、子育てに対する経済的な支援や仕事と家庭の両立の支援が、少子化対策に重要であることがわかる。

## IV 各調査の調査結果抜粋

### 1. 子ども・子育て支援に係る調査（未就学児用）

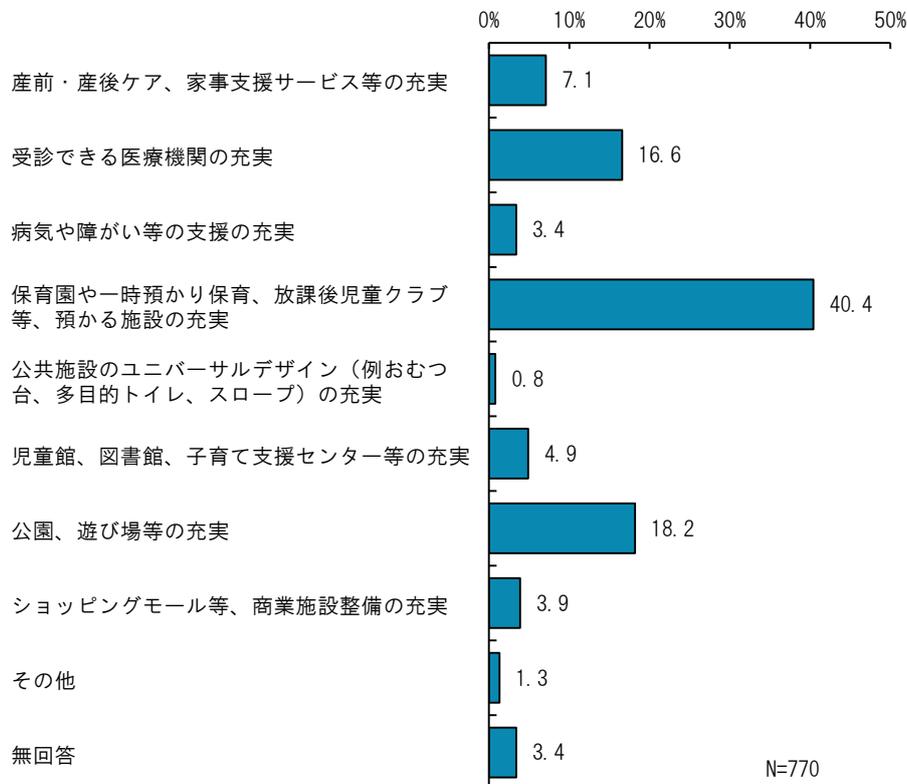
#### <調査結果の概要>

掛川市の子育ての環境や支援への満足度については、約半数が満足度が低いと回答しています。子育てで最も必要と思うことについては、子どもを預かる施設の充実や子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発が上位となっており、母親の就労していない割合が約2割となっている点、認定こども園の保育園利用が定期的に利用したい平日の教育・保育事業である点等からも、子育てと仕事を両立するための支援の充実が求められているといえます。また、経済的な支援については、個別の費用への支援ではなく、児童手当等の子育て世帯向け手当の充実が求められており、理想の子ども的人数よりも子育て可能な子ども的人数が少ない理由で、子育てにかかる費用が大変なため、子育てと仕事の両立が難しいためという回答が上位となっていることから、子育てを支援する経済的な支援に加え、仕事と子育てを両立する支援ニーズが高いことがわかります。教育環境においては、他人や自分を大切にし、人とかかわりを学ぶ教育の推進や子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進といった人とかかわりが主体性を育む教育が求められており、地域における子育て環境においては、子育て世帯同士がつながりあえる環境づくりや地域で子どもを守っていく体制づくりのニーズが高く、地域全体で子育てを行う環境づくりが求められているといえます。

#### (1) 子育てで最も必要と思うこと

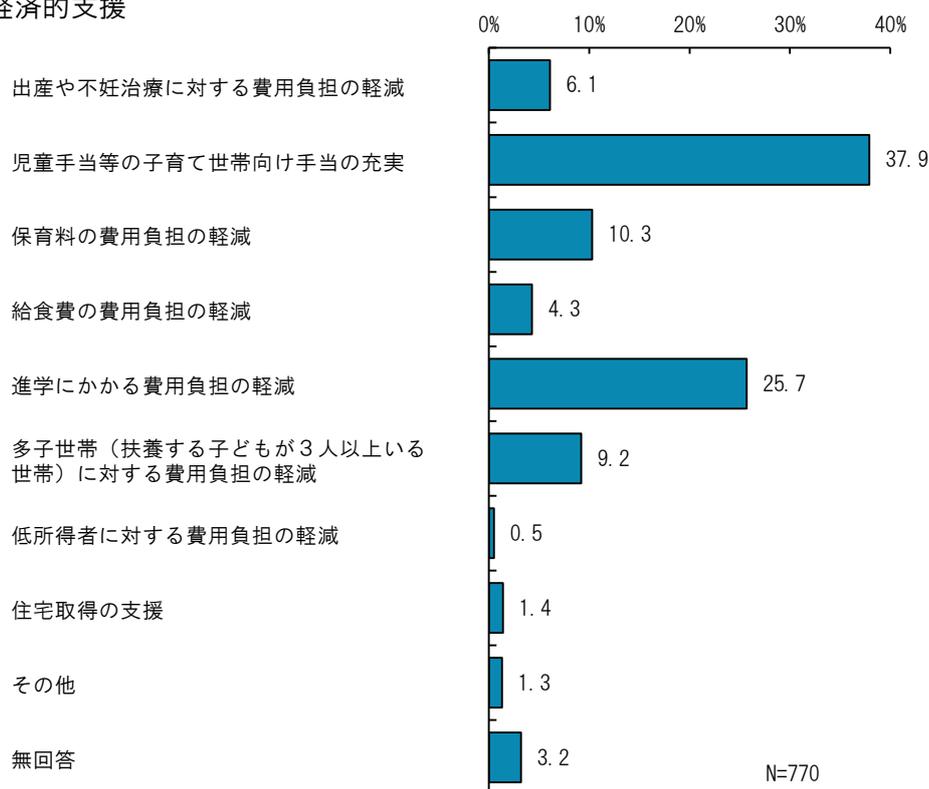
(SA) Q8 子育てで最も必要と思うことを各項目で1つ選択してください。

##### ①環境の充実



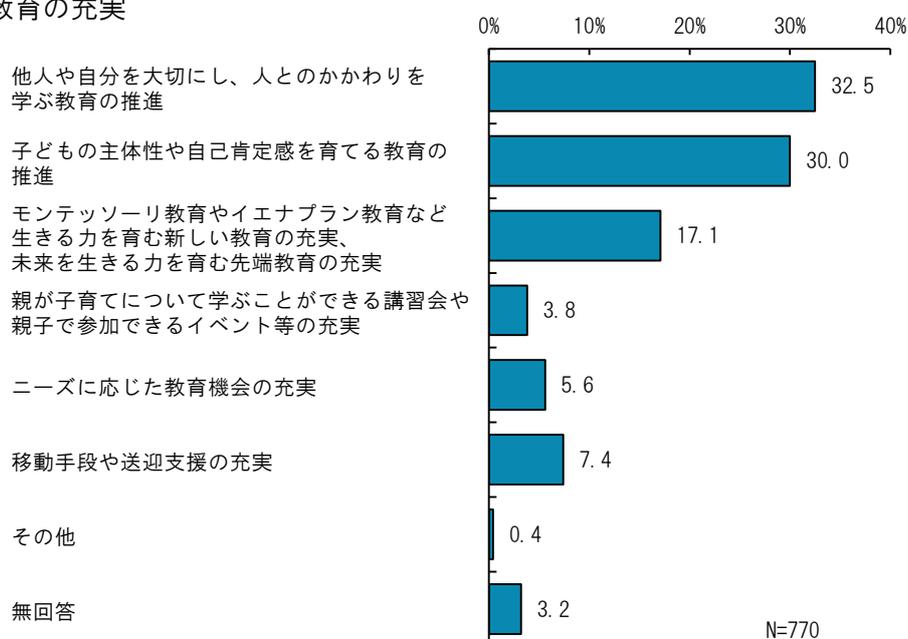
環境の充実は、「保育園や一時預かり保育、放課後児童クラブ等、預かる施設の充実」が40.4%と最も多く、次いで「公園、遊び場等の充実」が18.2%、「受診できる医療機関の充実」が16.6%などとなっています。

## ②経済的支援



経済的支援は、「児童手当等の子育て世帯向け手当の充実」が37.9%と最も多く、次いで「進学にかかる費用負担の軽減」が25.7%、「保育料の費用負担の軽減」が10.3%などとなっています。

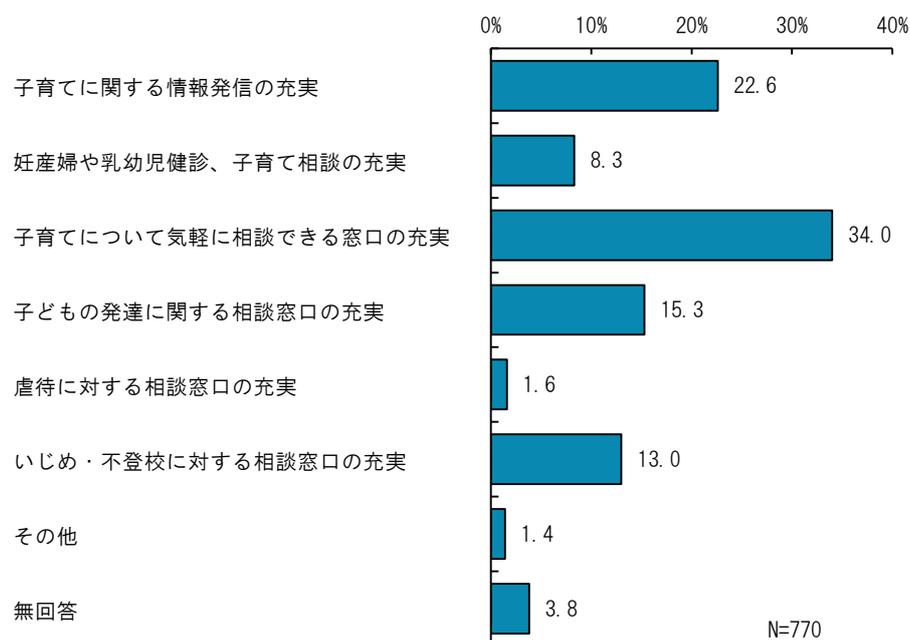
## ③教育の充実



※選択肢を一部省略している。

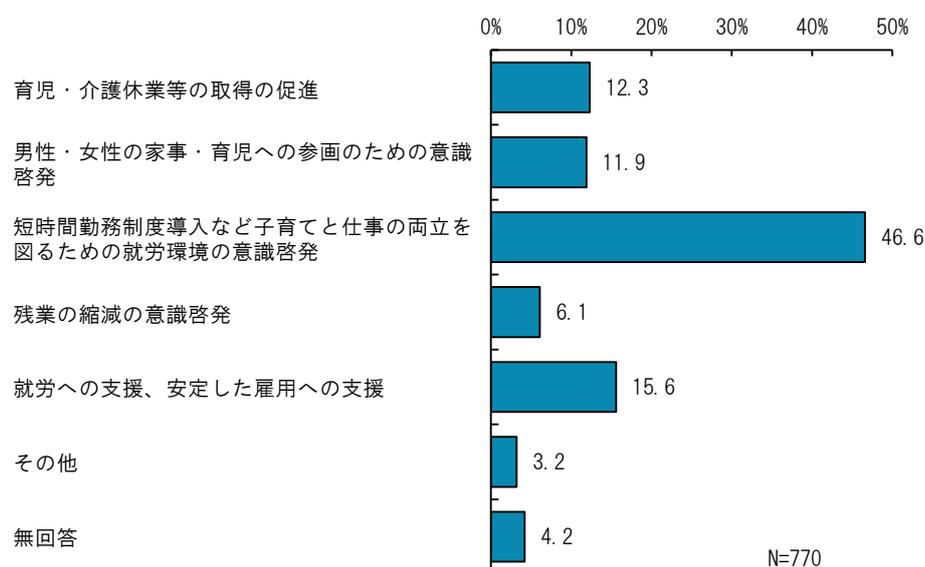
教育の充実は、「他人や自分を大切にし、人とのかかわりを学ぶ教育の推進」が32.5%と最も多く、次いで「子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進」が30.0%、「モンテッソーリ教育やイエナプラン教育など生きる力を育む新しい教育の充実、未来を生きる力を育む先端教育の充実」が17.1%などとなっています。

#### ④相談機関の充実



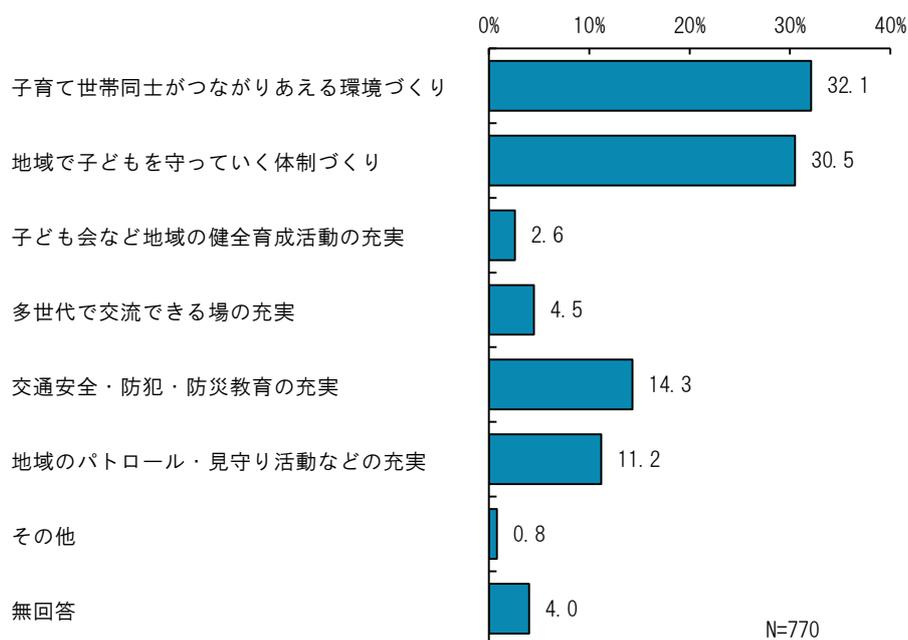
相談機関の充実は、「子育てについて気軽に相談できる窓口の充実」が34.0%と最も多く、次いで「子育てに関する情報発信の充実」が22.6%、「子どもの発達に関する相談窓口の充実」が15.3%などとなっています。

#### ⑤子育てと仕事の両立



子育てと仕事の両立は、「短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発」が46.6%と最も多く、次いで「就労への支援、安定した雇用への支援」が15.6%、「育児・介護休業等の取得の促進」が12.3%などとなっています。

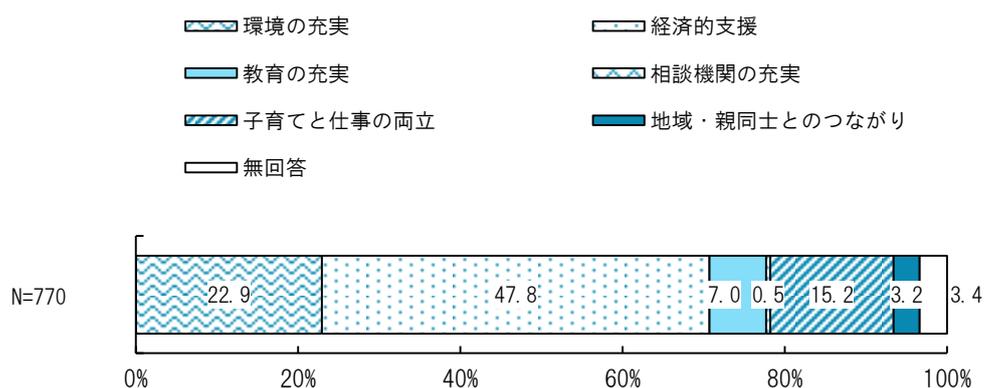
## ⑥地域・親同士とのつながり



地域・親同士とのつながりは、「子育て世帯同士がつながりあえる環境づくり」が32.1%と最も多く、次いで「地域で子どもを守っていく体制づくり」が30.5%、「交通安全・防犯・防災教育の充実」が14.3%などとなっています。

## (2) 子育てで最も必要と思う項目

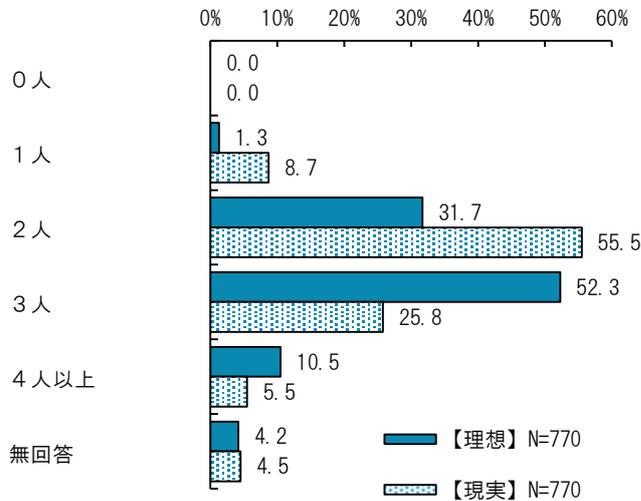
(SA) Q8-1 項目の中で、最も必要と思う項目を1つ選択してください。



子育てで最も必要と思う項目は、「経済的支援」が47.8%と最も多く、次いで「環境の充実」が22.9%、「子育てと仕事の両立」が15.2%などとなっています。

### (3) 理想の子どもの人数・子育て可能な子どもの人数

(SA) Q9 理想の子どもの人数は何人ですか。また、現在いる子どもを含めて、子育てが可能と思われる子どもの人数は何人ですか。



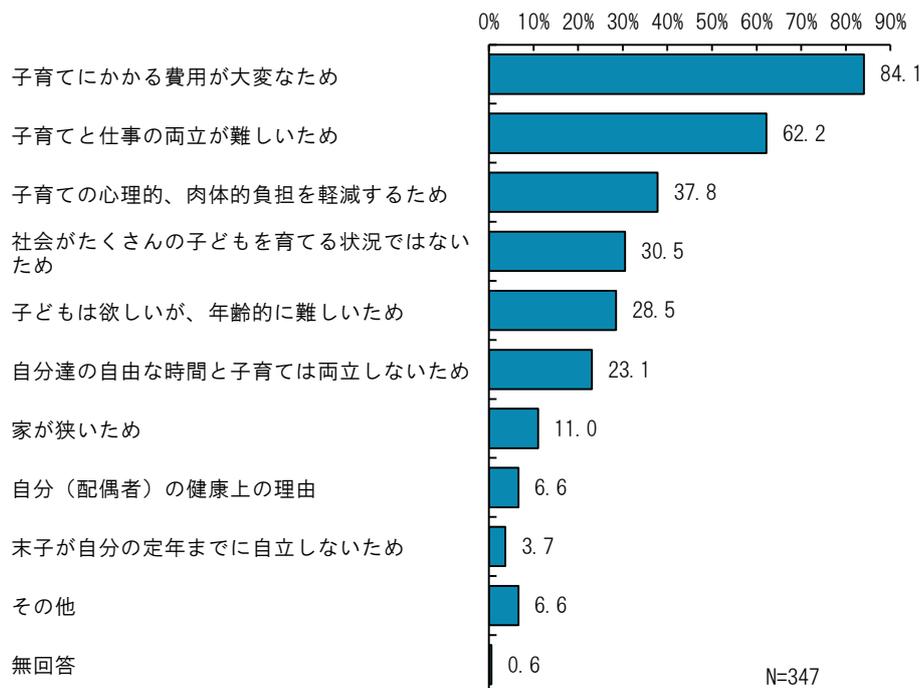
理想の子どもの人数は、「3人」が52.3%と最も多く、次いで「2人」が31.7%、「4人以上」が10.5%などとなっています。

子育て可能な子どもの人数は、「2人」が55.5%と最も多く、次いで「3人」が25.8%、「1人」が8.7%などとなっています。

### (4) 理想の子どもの人数よりも子育て可能な子どもの人数が少ない理由

※Q9で「希望より現実が少ない」人のみ

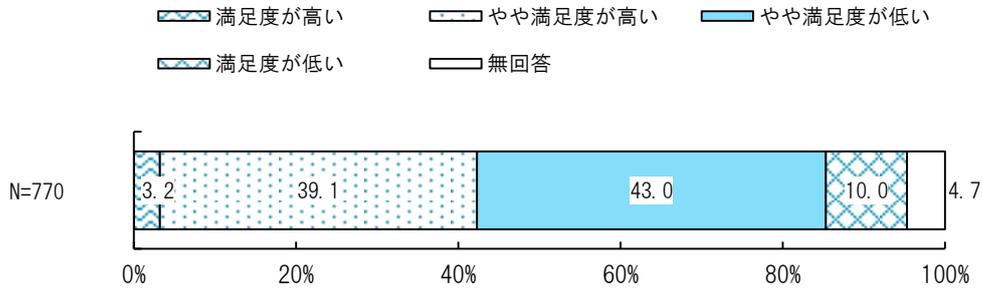
(MA) Q9-1 理想の子どもの人数よりも、子育て可能な子どもの人数が少ない理由は何ですか。



理想の子どもの人数よりも子育て可能な子どもの人数が少ない理由は、「子育てにかかる費用が大変なため」が84.1%と最も多く、次いで「子育てと仕事の両立が難しいため」が62.2%、「子育ての心理的、肉体的負担を軽減するため」が37.8%などとなっています。

## (5) 掛川市の子育ての環境や支援への満足度

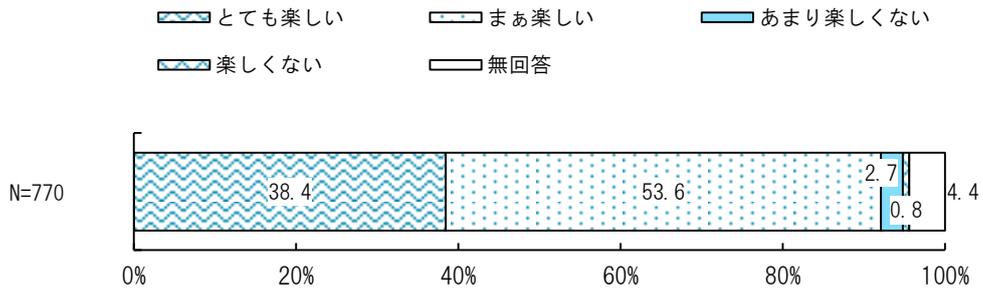
(SA) Q10 掛川市の子育ての環境や支援への満足度についてお答えください。



掛川市の子育ての環境や支援への満足度は、「満足度が高い」が3.2%、「やや満足度が高い」が39.1%、「やや満足度が低い」が43.0%、「満足度が低い」が10.0%となっています。

## (6) 子育ての感じ方

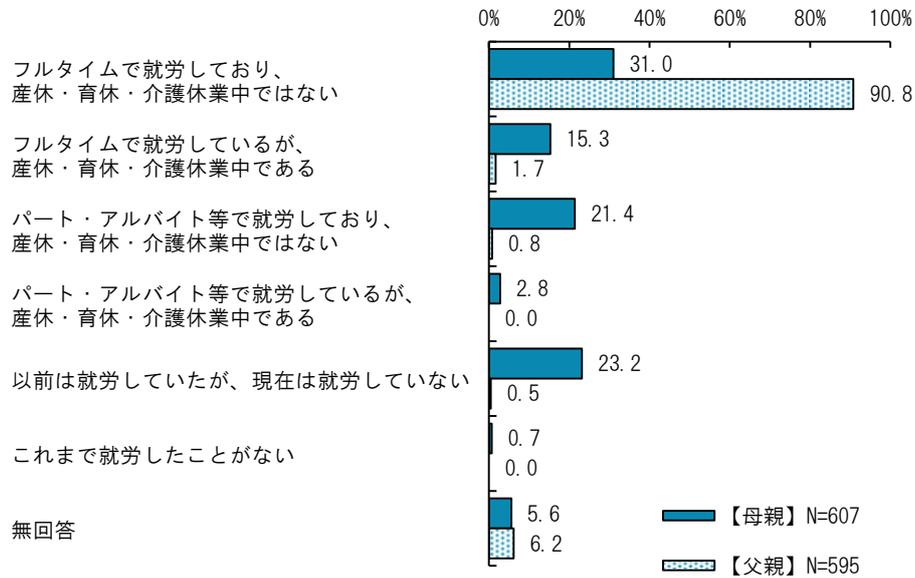
(SA) Q11 子育てをどのように感じていますか。現在のお気持ちをお答えください。



子育ての感じ方は、「とても楽しい」が38.4%、「まあ楽しい」が53.6%、「あまり楽しくない」が2.7%、「楽しくない」が0.8%となっています。

## (7) 保護者の就労状況

(SA) Q16 保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をうかがいます。



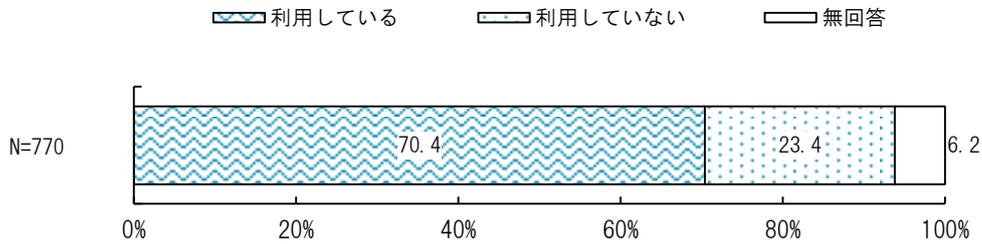
※選択肢を一部省略している。

母親：就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が31.0%と最も多く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が23.2%、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が21.4%などとなっています。

父親：就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が90.8%と最も多く、次いで「フルタイムで就労しているが、産休・介護休業中である」が1.7%、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が0.8%などとなっています。

## (8) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

(SA) Q19 現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用していますか。

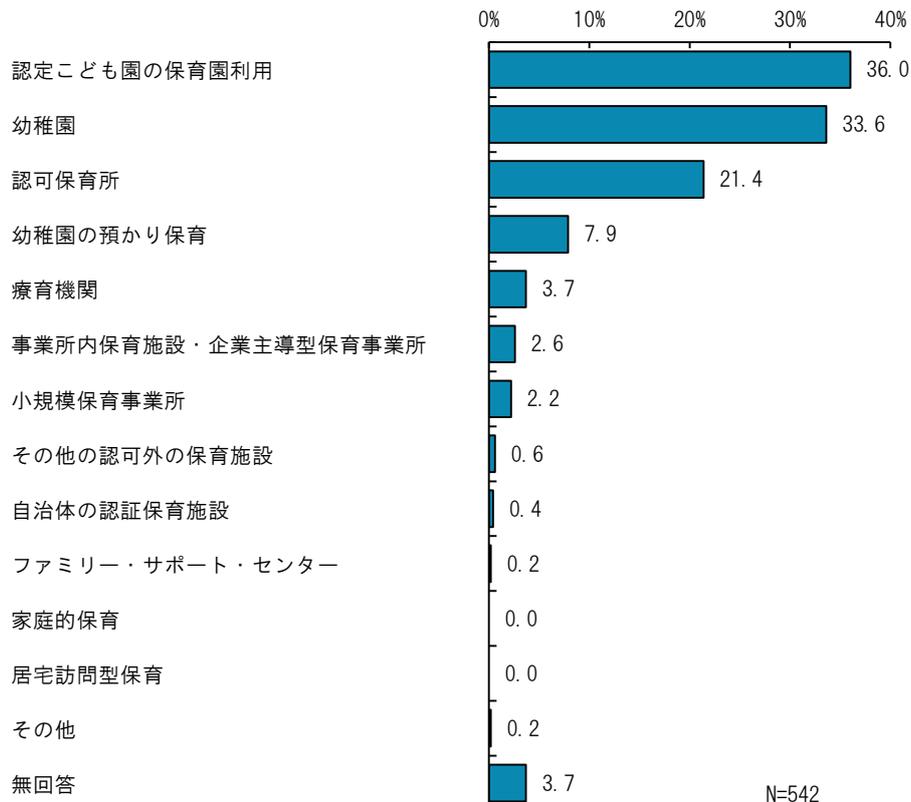


平日の定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が70.4%、「利用していない」が23.4%となっています。

## (9) 定期的に利用している教育・保育事業

※Q19で「利用している」人のみ

(MA) Q19-1 平日どのような教育・保育事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。



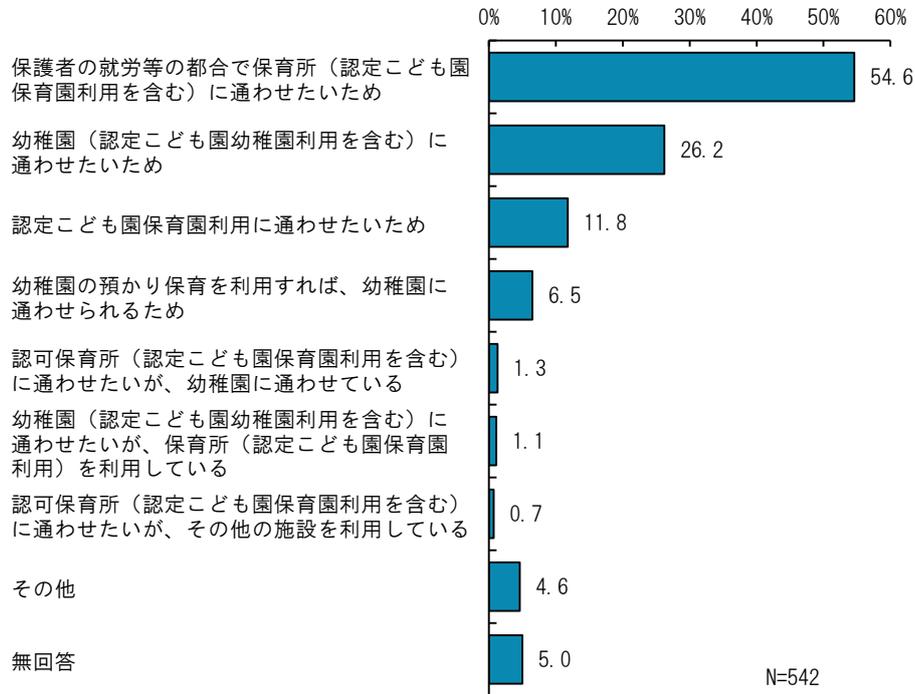
※選択肢を一部省略している。

定期的に利用している教育・保育事業は、「認定こども園の保育園利用」が36.0%と最も多く、次いで「幼稚園」が33.6%、「認可保育所」が21.4%などとなっています。

## (10) 定期的に教育・保育事業を利用している理由

※Q19で「利用している」人のみ

(MA) Q19-2 Q19-1で選んだ事業を利用している理由をお答えください。

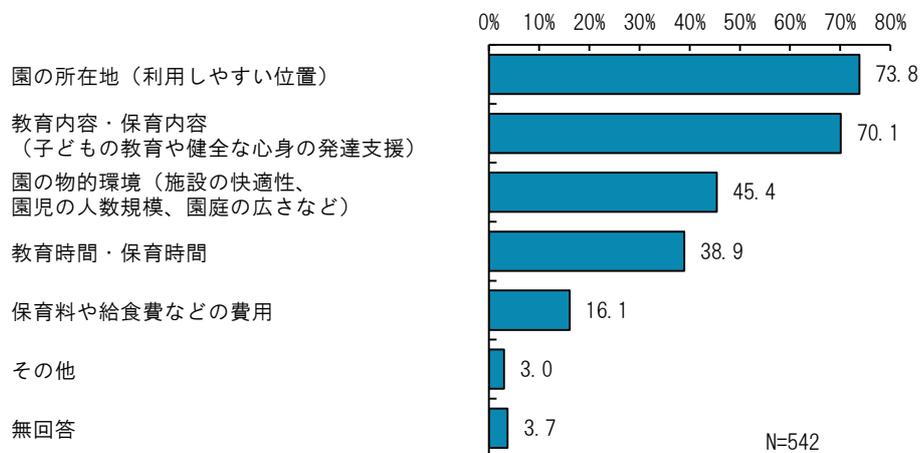


定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「保護者の就労等の都合で保育所（認定こども園保育園利用を含む）に通わせたいため」が54.6%と最も多く、次いで「幼稚園（認定こども園幼稚園利用を含む）に通わせたいため」が26.2%、「認定こども園保育園利用に通わせたいため」が11.8%などとなっています。

## (11) 幼稚園・保育所・認定こども園を利用する上で重視するもの

※Q19で「利用している」人のみ

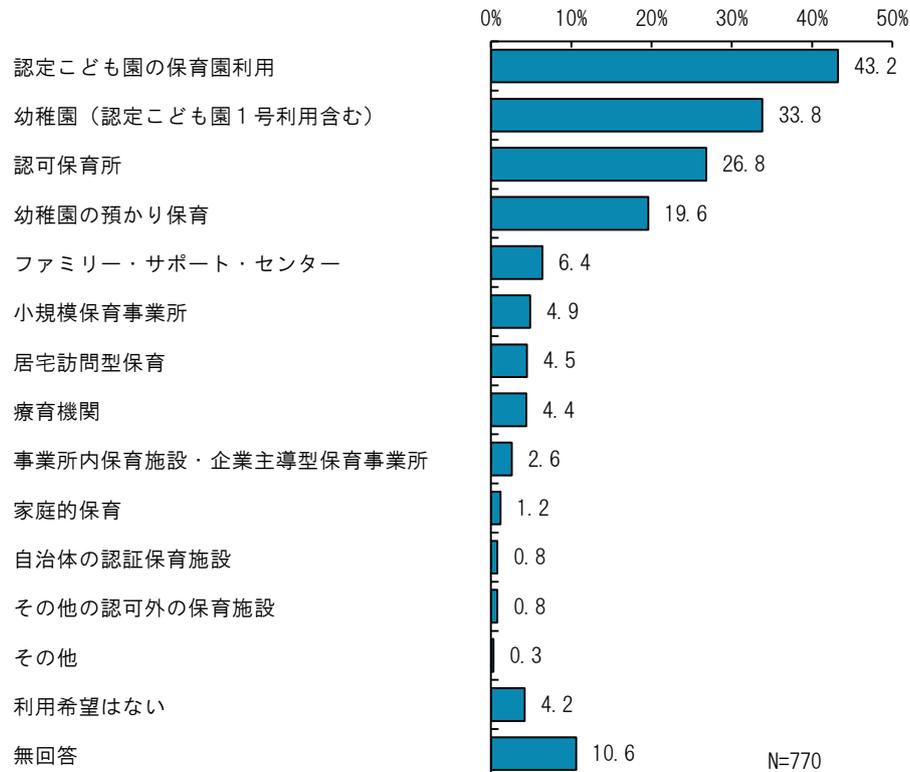
(MA) Q19-3 幼稚園・保育所・認定こども園を利用する上で重視するものは何ですか。



幼稚園・保育所・認定こども園を利用する上で重視するものは、「園の所在地（利用しやすい位置）」が73.8%と最も多く、次いで「教育内容・保育内容（子どもの教育や健全な心身の発達支援）」が70.1%、「園の物的環境（施設の快適性、園児の人数規模、園庭の広さなど）」が45.4%などとなっています。

## (12) 定期的に利用したい平日の教育・保育事業

(MA) Q20 現在、利用している、利用していないにかかわらず、平日の教育・保育事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。



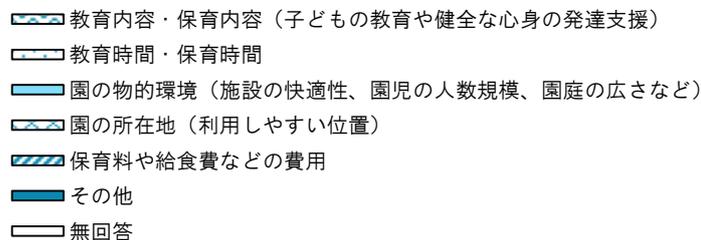
※選択肢を一部省略している。

定期的にご利用したい平日の教育・保育事業は、「認定こども園の保育園利用」が43.2%と最も多く、次いで「幼稚園（認定こども園1号利用含む）」が33.8%、「認可保育所」が26.8%などとなっています。

## (13) 定期的な教育・保育事業を利用する上で重視するもの

※Q20で「利用希望がある」人のみ

(SA) Q20-3 「定期的な教育・保育事業」を利用する上で重視するものは何ですか。

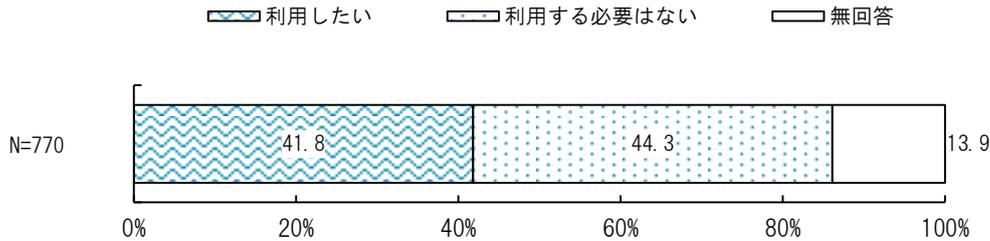


N=656

定期的な教育・保育事業を利用する上で重視するものは、「教育内容・保育内容（子どもの教育や健全な心身の発達支援）」が45.0%と最も多く、次いで「園の所在地（利用しやすい位置）」が29.4%、「教育時間・保育時間」が11.4%などとなっています。

## (14) こども誰でも通園制度（仮称）が実施された場合の利用希望

(SA) Q30 月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付である「こども誰でも通園制度（仮称）」が2024年度から実施されることとなっています。1人あたりの利用時間を「月10時間」を上限にする方針で制度の実施に向けた検討がなされていますが、「こども誰でも通園制度（仮称）」が実施された場合、利用を希望しますか。

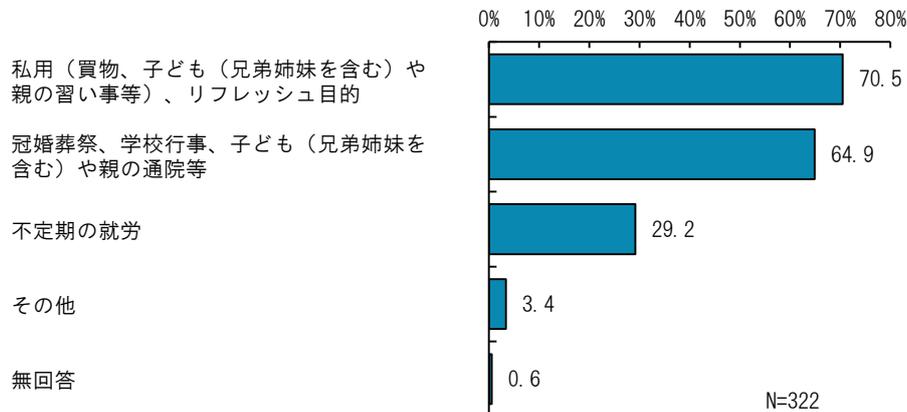


こども誰でも通園制度（仮称）が実施された場合の利用希望は、「利用したい」が41.8%、「利用する必要はない」が44.3%となっています。

## (15) こども誰でも通園制度（仮称）を利用する目的

※Q30で「利用したい」人のみ

(MA) Q30-1 利用する必要があると思う目的は何ですか。

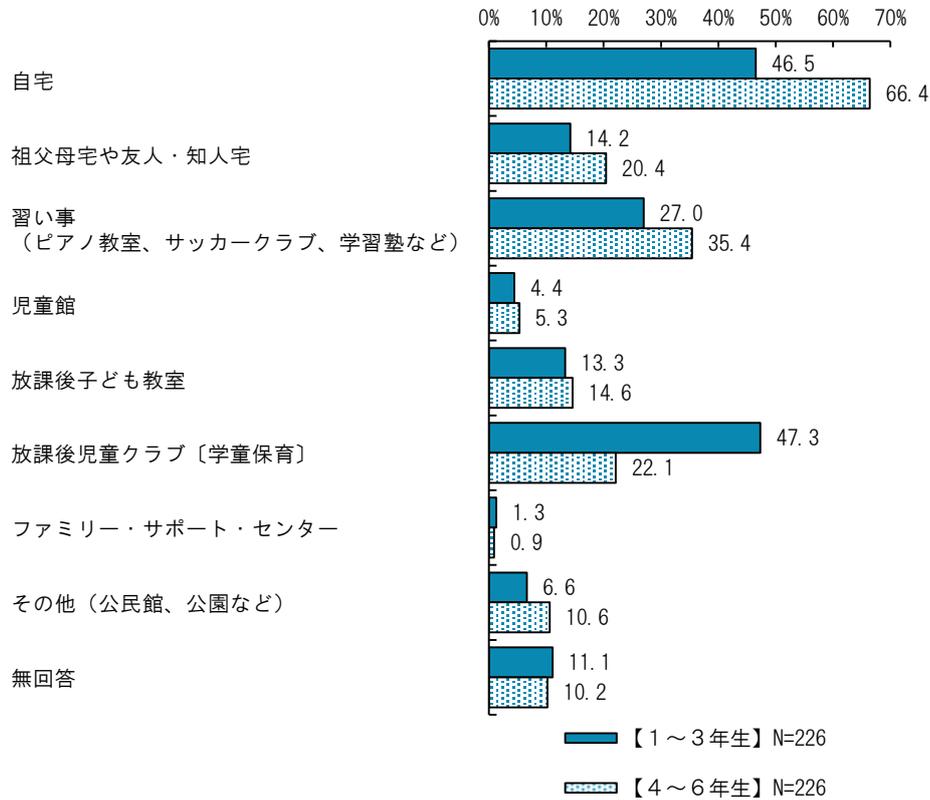


こども誰でも通園制度（仮称）を利用する目的は、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が70.5%と最も多く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が64.9%、「不定期の就労」が29.2%などとなっています。

## (16) 希望する放課後の過ごし方

(MA) Q31 小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

(MA) Q32 小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。



1～3年生：希望する放課後の過ごし方は、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が47.3%と最も多く、次いで「自宅」が46.5%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が27.0%などとなっています。

4～6年生：希望する放課後の過ごし方は、「自宅」が66.4%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が35.4%、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が22.1%などとなっています。

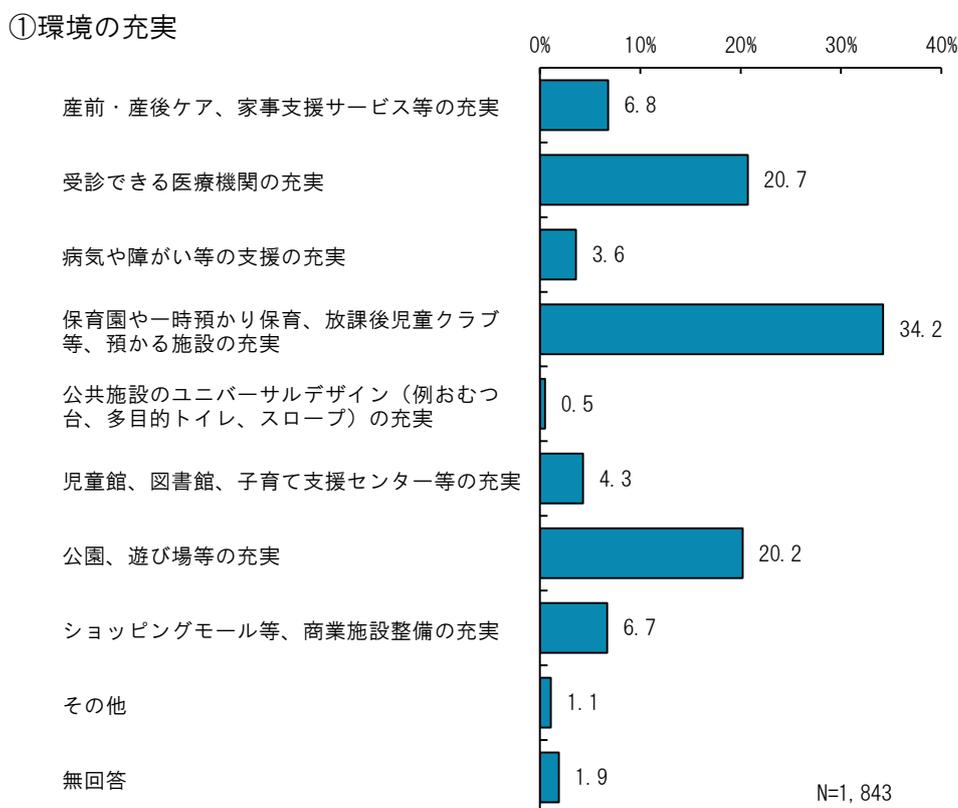
## 2. 子ども・子育て支援に係る調査（小学生用）

### <調査結果の概要>

掛川市の子育ての環境や支援への満足度については、未就学児用と同様に約半数が満足度が低いと回答しています。子育てで最も必要と思うことについては、未就学児用と同様に、子どもを預かる施設の充実や子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発が上位となっており、理想の子ども的人数よりも子育て可能な子ども的人数が少ない理由においても子育てにかかる費用が大変なため、子育てと仕事の両立が難しいためという回答が上位となっていることから、仕事と子育てを両立する支援ニーズが高いことがわかります。経済的な支援については、未就学児用とニーズが異なり、進学にかかる費用負担の軽減が最も多くなっており、小学生になると進学という視点が保護者にとって重要な視点となることがわかります。教育環境においては、未就学児用と同様に他人や自分を大切にし、人とかかわりを学ぶ教育の推進や子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進といった人とかかわりが主体性を育む教育が求められています。地域における子育て環境においては、子育て世帯同士がつながりあえる環境づくりや地域で子どもを守っていく体制づくりのニーズに加え、交通安全・防犯・防災教育の充実や地域のパトロール・見守り活動などの充実もニーズが高くなっています。希望する放課後の過ごし方において4～6年生の放課後児童クラブ（学童保育）を希望する割合が16.8%となっており、自宅や習い事を希望する割合のほうが上回っていることから、地域全体で子育てを行う環境に加え、地域の安全に対するニーズも高いと考えられます。

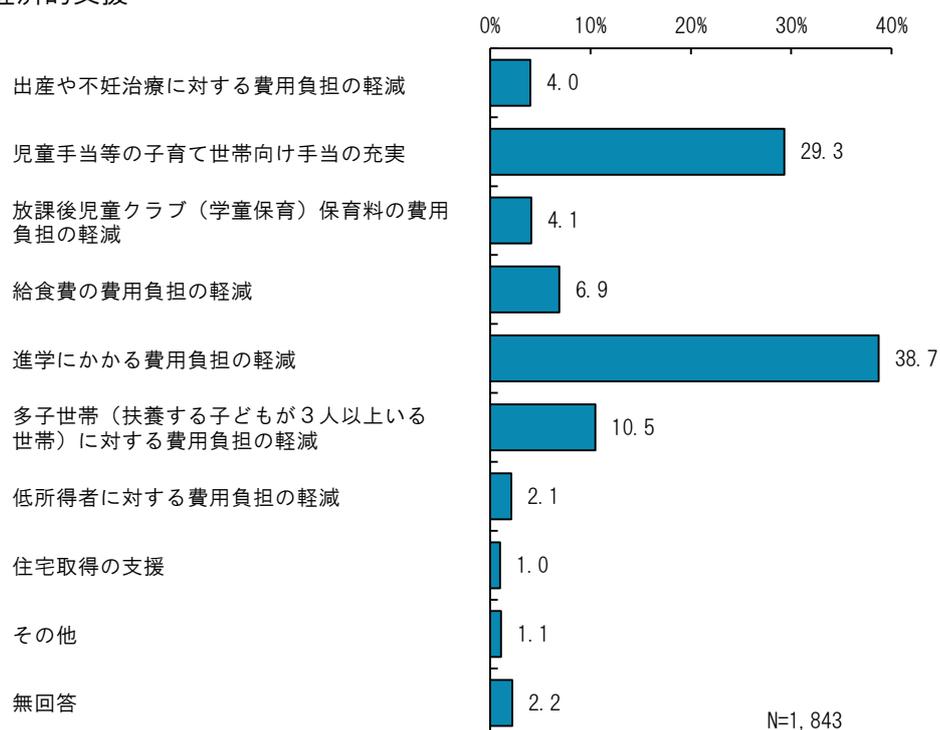
### (1) 子育てで最も必要と思うこと

(SA) Q8 子育てで最も必要と思うことを各項目で1つ選択してください。



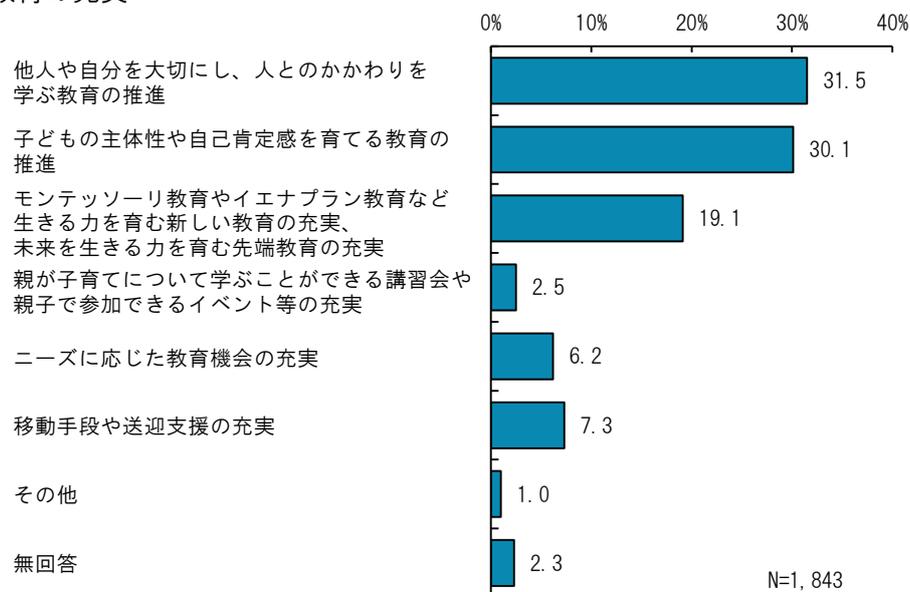
環境の充実は、「保育園や一時預かり保育、放課後児童クラブ等、預かる施設の充実」が34.2%と最も多く、次いで「受診できる医療機関の充実」が20.7%、「公園、遊び場等の充実」が20.2%などとなっています。

## ②経済的支援



経済的支援は、「進学にかかる費用負担の軽減」が38.7%と最も多く、次いで「児童手当等の子育て世帯向け手当の充実」が29.3%、「多子世帯（扶養する子どもが3人以上いる世帯）に対する費用負担の軽減」が10.5%などとなっています。

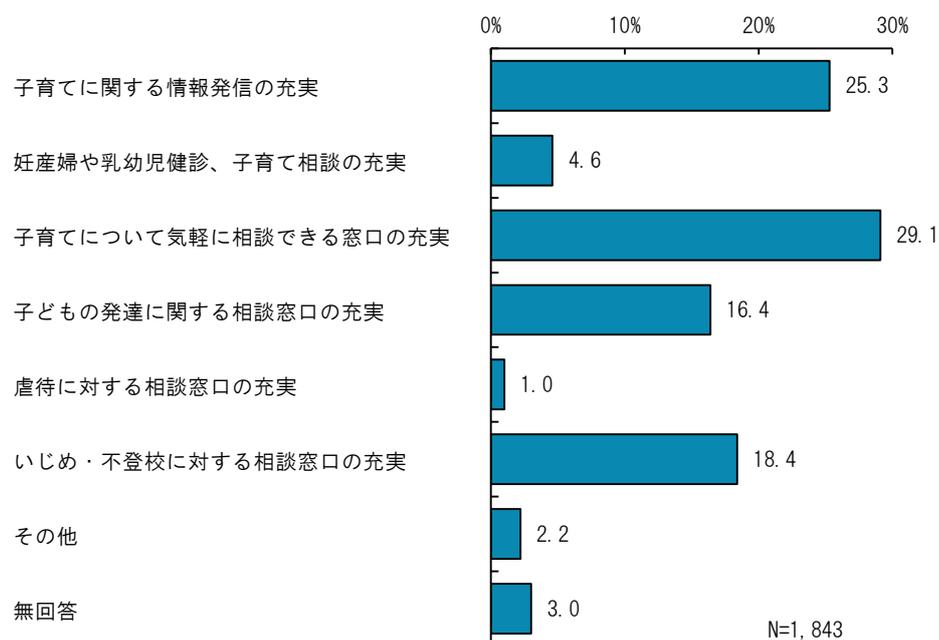
## ③教育の充実



※選択肢を一部省略している。

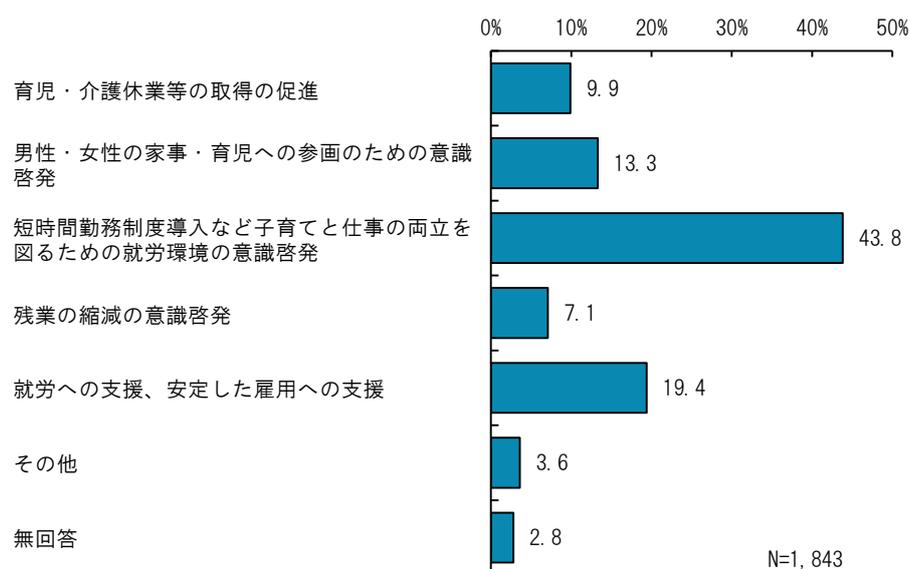
教育の充実は、「他人や自分を大切にし、人とかかわりを学ぶ教育の推進」が31.5%と最も多く、次いで「子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進」が30.1%、「モンテッソーリ教育やイエナプラン教育など生きる力を育む新しい教育の充実、未来を生きる力を育む先端教育の充実」が19.1%などとなっています。

#### ④相談機関の充実



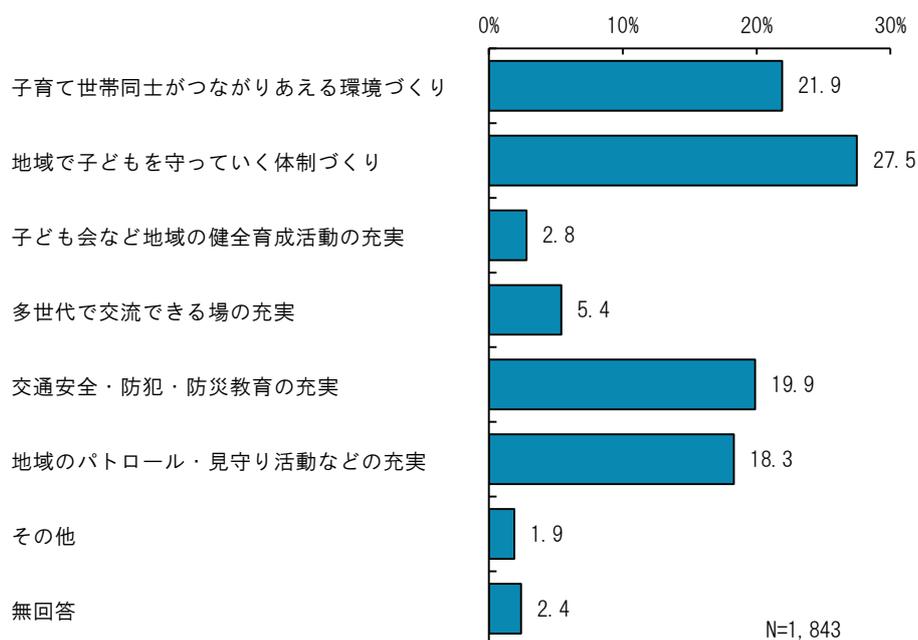
相談機関の充実は、「子育てについて気軽に相談できる窓口の充実」が29.1%と最も多く、次いで「子育てに関する情報発信の充実」が25.3%、「いじめ・不登校に対する相談窓口の充実」が18.4%などとなっています。

#### ⑤子育てと仕事の両立



子育てと仕事の両立は、「短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発」が43.8%と最も多く、次いで「就労への支援、安定した雇用への支援」が19.4%、「男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発」が13.3%などとなっています。

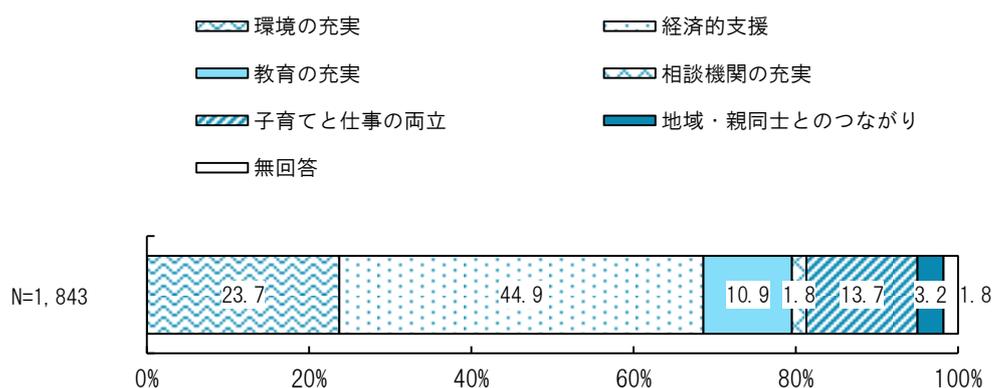
## ⑥地域・親同士とのつながり



地域・親同士とのつながりは、「地域で子どもを守っていく体制づくり」が27.5%と最も多く、次いで「子育て世帯同士がつながりあえる環境づくり」が21.9%、「交通安全・防犯・防災教育の充実」が19.9%などとなっています。

## (2) 子育てで最も必要と思う項目

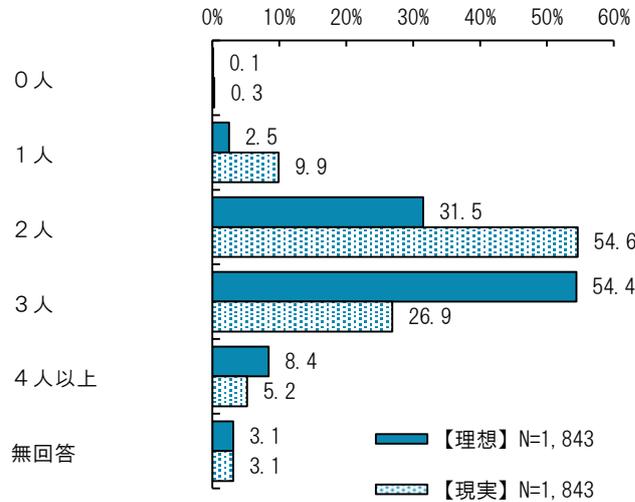
(SA) Q8-1 項目の中で、最も必要と思う項目を1つ選択してください。



子育てで最も必要と思う項目は、「経済的支援」が44.9%と最も多く、次いで「環境の充実」が23.7%、「子育てと仕事の両立」が13.7%などとなっています。

### (3) 理想の子どもの人数・子育て可能な子どもの人数

(SA) Q9 理想の子どもの人数は何人ですか。また、現在いる子どもを含めて、子育てが可能と思われる子どもの人数は何人ですか。



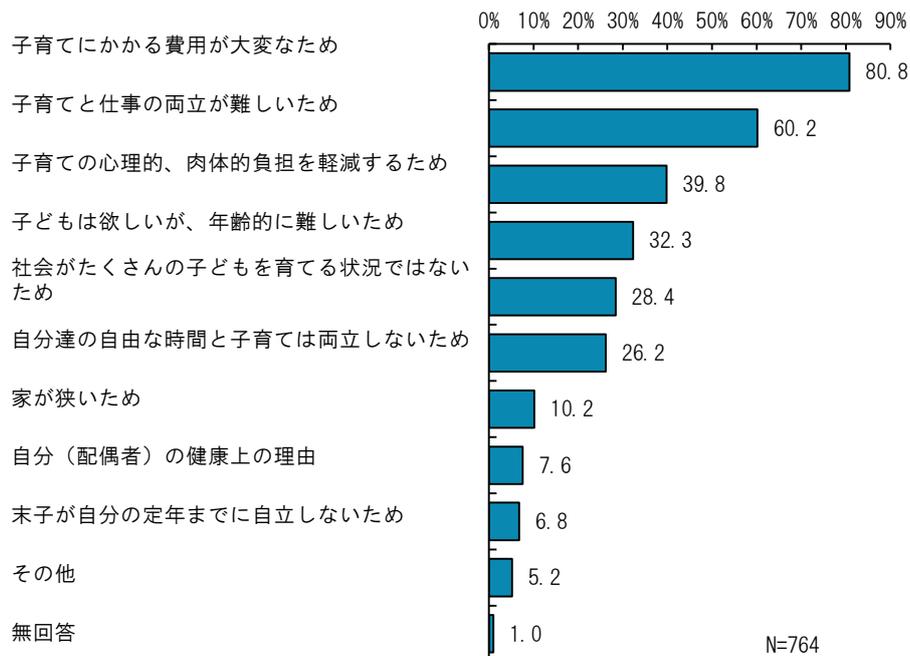
理想の子どもの人数は、「3人」が54.4%と最も多く、次いで「2人」が31.5%、「4人以上」が8.4%などとなっています。

子育て可能な子どもの人数は、「2人」が54.6%と最も多く、次いで「3人」が26.9%、「1人」が9.9%などとなっています。

### (4) 理想の子どもの人数よりも子育て可能な子どもの人数が少ない理由

※Q9で「希望より現実が少ない」人のみ

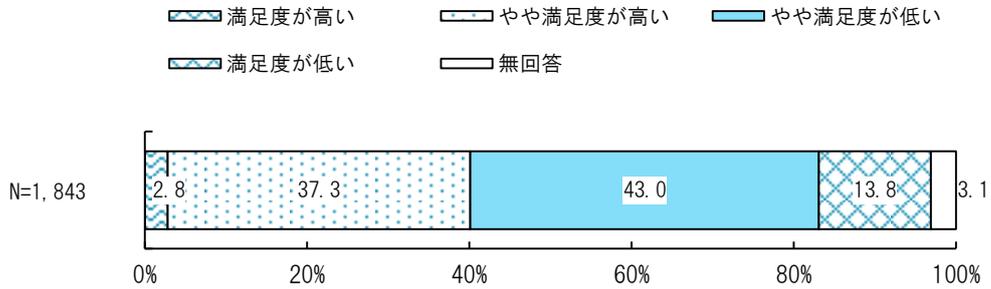
(MA) Q9-1 理想の子どもの人数よりも、子育て可能な子どもの人数が少ない理由は何ですか。



理想の子どもの人数よりも子育て可能な子どもの人数が少ない理由は、「子育てにかかる費用が大変なため」が80.8%と最も多く、次いで「子育てと仕事の両立が難しいため」が60.2%、「子育ての心理的、肉体的負担を軽減するため」が39.8%などとなっています。

## (5) 掛川市の子育ての環境や支援への満足度

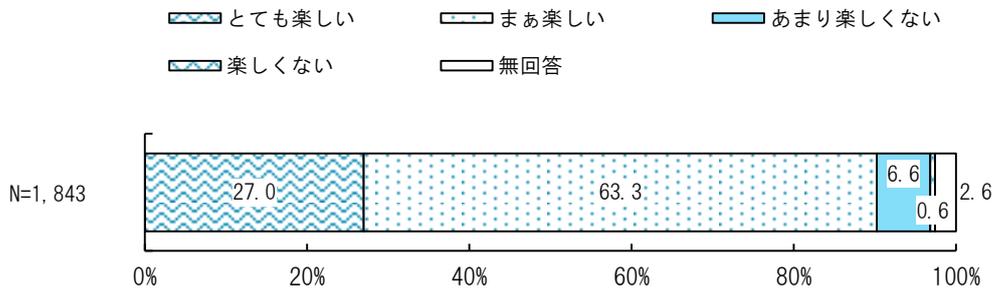
(SA) Q10 掛川市の子育ての環境や支援への満足度についてお答えください。



掛川市の子育ての環境や支援への満足度は、「満足度が高い」が2.8%、「やや満足度が高い」が37.3%、「やや満足度が低い」が43.0%、「満足度が低い」が13.8%となっています。

## (6) 子育ての感じ方

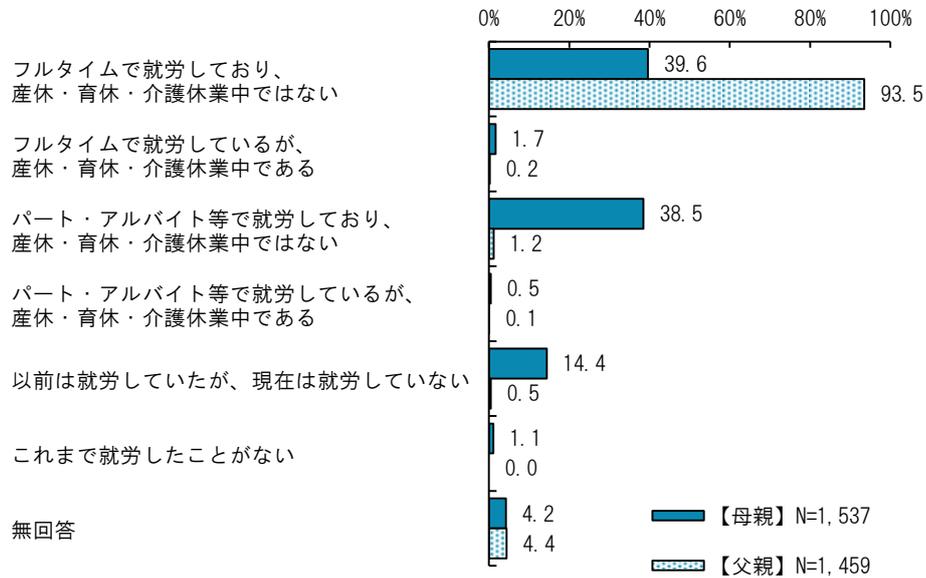
(SA) Q11 子育てをどのように感じていますか。現在のお気持ちをお答えください。



子育ての感じ方は、「とても楽しい」が27.0%、「まあ楽しい」が63.3%、「あまり楽しくない」が6.6%、「楽しくない」が0.6%となっています。

## (7) 保護者の就労状況

(SA) Q16 保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をうかがいます。



※選択肢を一部省略している。

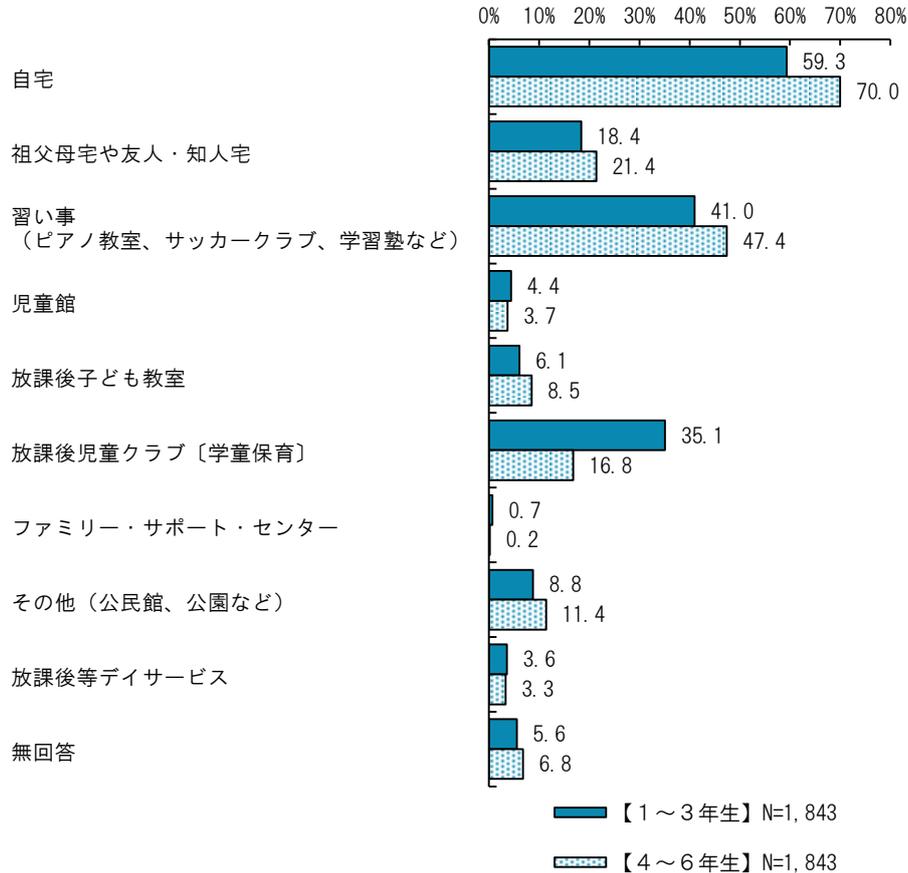
母親：就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が39.6%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が38.5%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が14.4%などとなっています。

父親：就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が93.5%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が1.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.5%などとなっています。

## (8) 希望する放課後の過ごし方

(MA) Q22 小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていましたか。または、過ごさせたいと思いますか。

(MA) Q23 小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。



1～3年生：希望する放課後の過ごし方は、「自宅」が59.3%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が41.0%、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が35.1%などとなっています。

4～6年生：希望する放課後の過ごし方は、「自宅」が70.0%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が47.4%、「祖父母宅や友人・知人宅」が21.4%などとなっています。

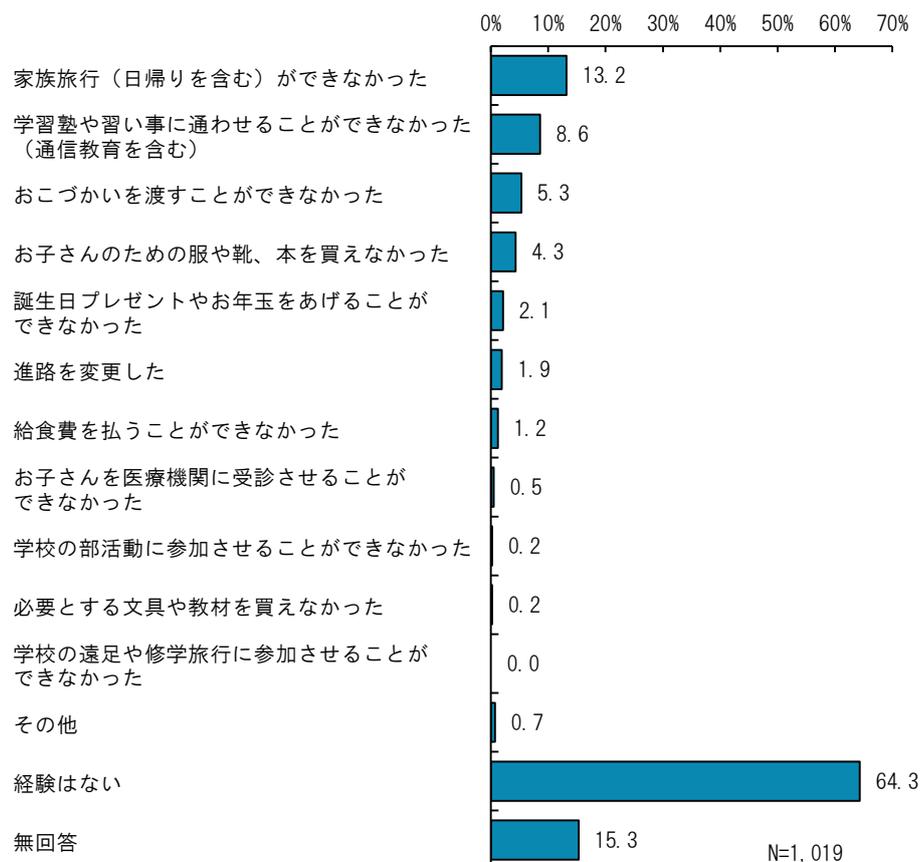
### 3. 子どもの貧困対策に係る調査（保護者用）

#### <調査結果の概要>

子育てに関する悩みにおいては、将来の進学に向けた学資の準備や学力・学習習慣等が上位となっており、子どもにとってあるとよい支援においても生活や就学のためのお金の補助が約8割となっています。また、悩んでいることにおいても約半数がお子さんの養育にかかる費用と回答していることから、子どもの進学や学習について悩んでいる保護者が多く、進学や就学についての支援が求められていることがわかります。一方で、生活費について悩んでいる人も約3割程度存在し、経済的な理由で給食費を払うことができなかった、お子さんを医療機関に受診させることができなかったと答える割合も1%程度と少数ながら存在することから、経済的に深刻な悩みを抱えている保護者への支援も必要といえます。悩みの相談については、家族・親族が最も多い一方で、行政的な支援への相談の割合は低く、相談相手がいない・いなかったと回答した人も2.7%と少数ながら存在しており、相談しない、相談しなかったと回答した割合も16.3%となっています。相談しない理由においては相談しても事態は変わらないからが最も多くなっており、相談しない人・相談相手がいない人を相談につなげていく支援が必要であることがわかります。

#### (1) 子どもについて経済的な理由で経験したこと

(MA) Q12 お子さんについて、おおむね1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。

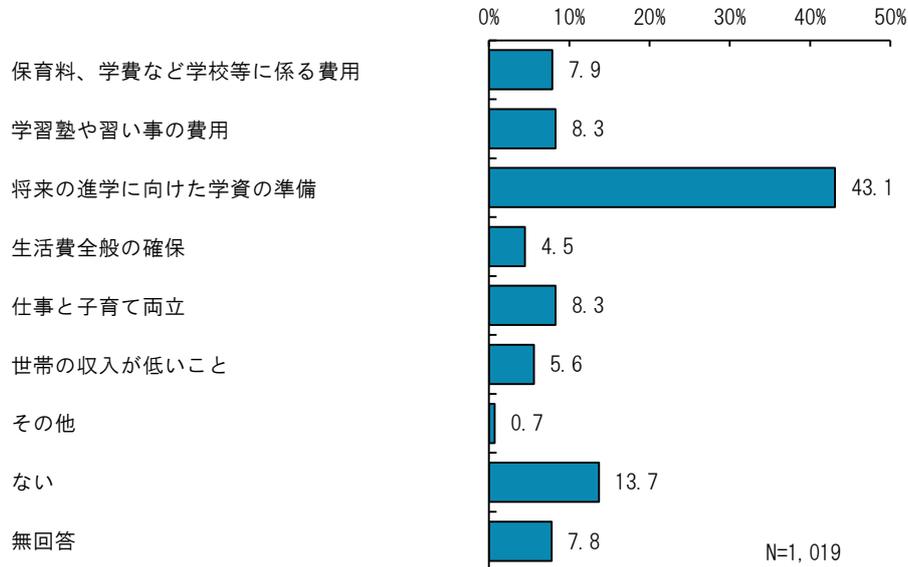


子どもについて経済的な理由で経験したことは、「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」が13.2%と最も多く、次いで「学習塾や習い事に通わせることができなかった（通信教育を含む）」が8.6%、「おこづかいを渡すことができなかった」が5.3%などとなっています。また、「経験はない」が64.3%となっています。

## (2) 子育てに関する悩み

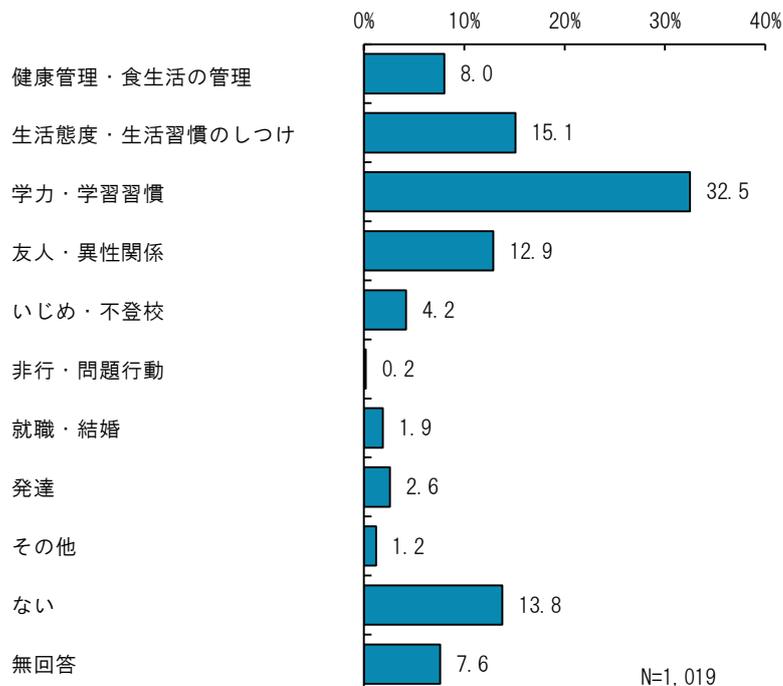
(SA) Q15 子育てに関する次のような悩みはありますか。

### ①経済的不安



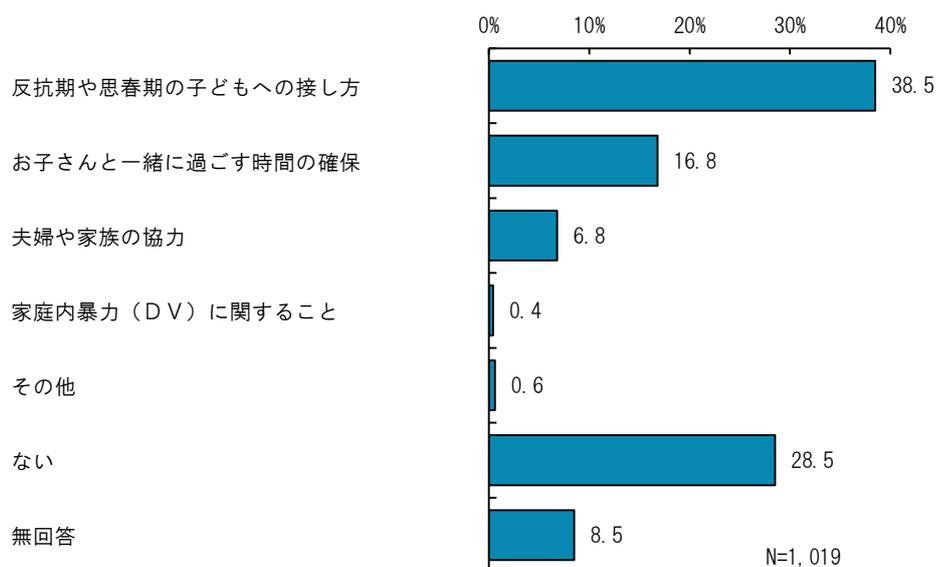
経済的不安は、「将来の進学に向けた学資の準備」が43.1%と最も多く、次いで「ない」が13.7%、「学習塾や習い事の費用」、「仕事と子育て両立」が8.3%などとなっています。

### ②お子さんについて



お子さんについては、「学力・学習習慣」が32.5%と最も多く、次いで「生活態度・生活習慣のしつけ」が15.1%、「ない」が13.8%などとなっています。

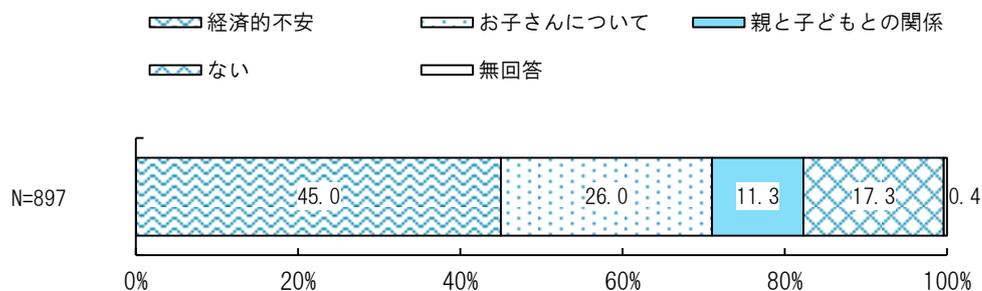
### ③親と子どもとの関係



親と子どもとの関係は、「反抗期や思春期の子どもへの接し方」が38.5%と最も多く、次いで「ない」が28.5%、「お子さんと一緒に過ごす時間の確保」が16.8%などとなっています。

### (3) 最も悩んでいると思う項目

(SA) Q15-1 各項目の中で、最も悩んでいると思う項目を1つ選択してください。

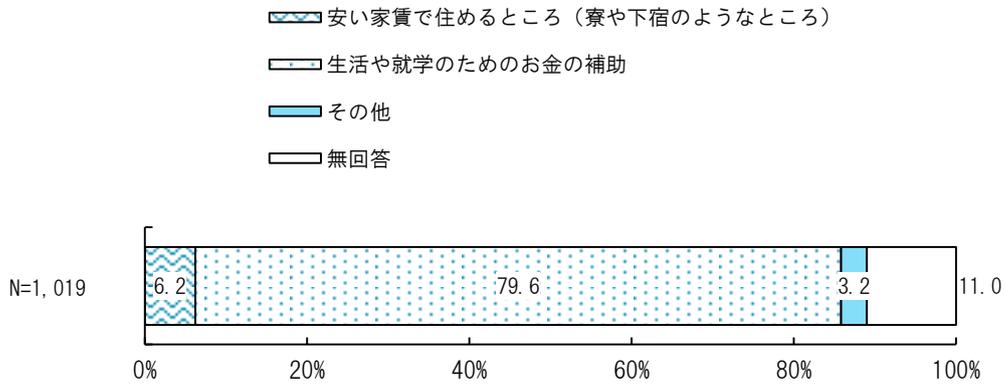


最も悩んでいると思う項目は、「経済的不安」が45.0%、「お子さんについて」が26.0%、「親と子どもとの関係」が11.3%、「ない」が17.3%となっています。

#### (4) 子どもにとってあると良い支援

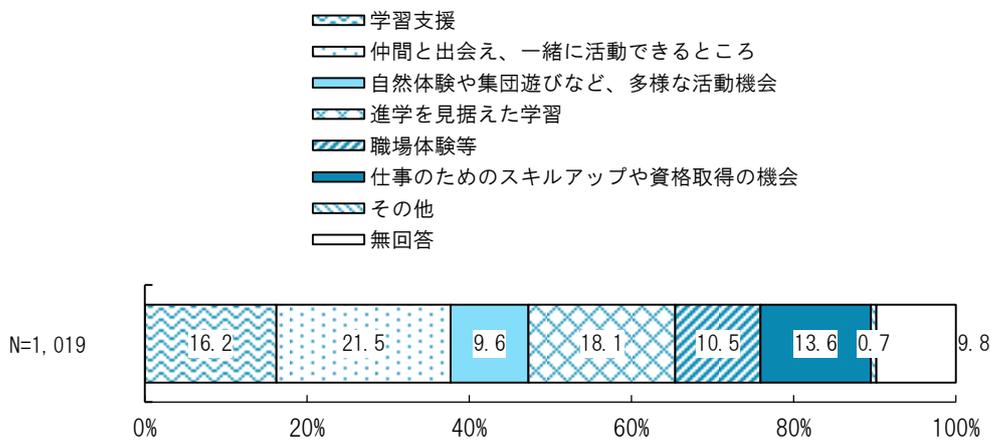
(SA) Q16 お子さんにとって、どのような支援があるとよいと思いますか。

##### ①経済的支援



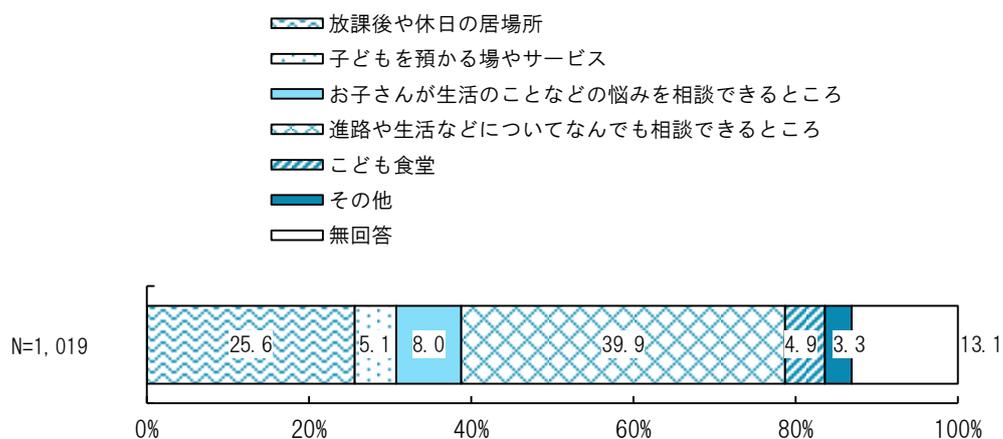
経済的支援は、「安い家賃で住める場所 (寮や下宿のような場所)」が6.2%、「生活や就学のためのお金の補助」が79.6%などとなっています。

##### ②学ぶ機会・体験の提供



学ぶ機会・体験の提供は、「仲間と出会い、一緒に活動できる場所」が21.5%と最も多く、次いで「進学を見据えた学習」が18.1%、「学習支援」が16.2%などとなっています。

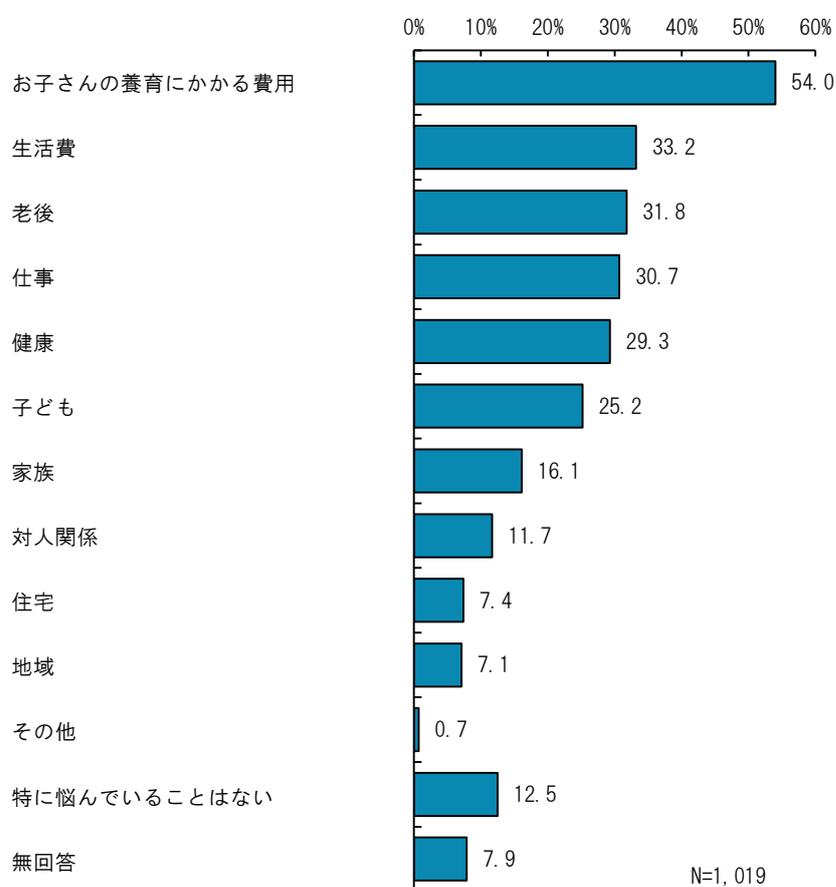
### ③環境の充実



環境の充実は、「進路や生活などについてなんでも相談できる場所」が39.9%と最も多く、次いで「放課後や休日の居場所」が25.6%、「お子さんが生活のことなどの悩みを相談できる場所」が8.0%などとなっています。

### (5) 悩んでいること

(MA) Q17 ご自身の生活に関して、どのようなことについて悩んでいますか。

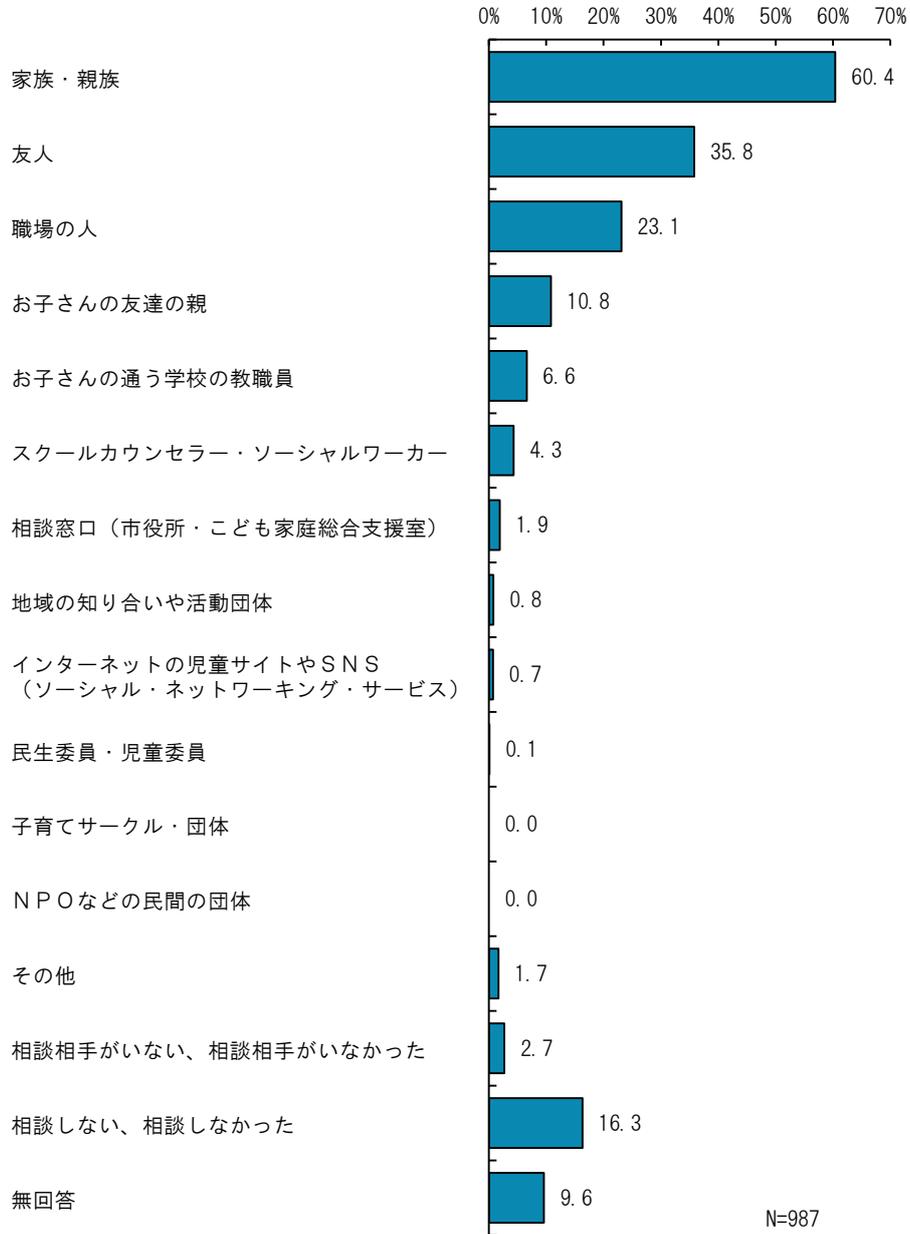


悩んでいることは、「お子さんの養育にかかる費用」が54.0%と最も多く、次いで「生活費」が33.2%、「老後」が31.8%などとなっています。

## (6) 悩みの相談先

(MA) Q18 Q15. Q17の悩みをどなた（どこ）に相談されていますか（されましたか）。

※Q15またはQ17で「悩みがある」人のみ

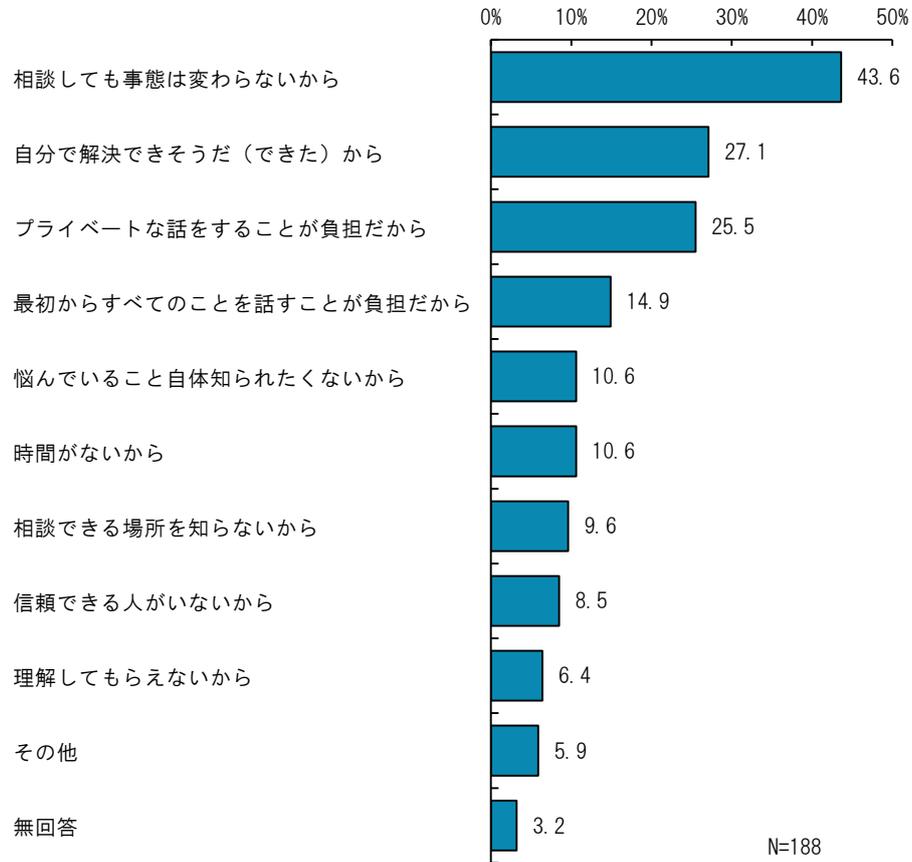


悩みの相談先は、「家族・親族」が60.4%と最も多く、次いで「友人」が35.8%、「職場の人」が23.1%などとなっています。

## (7) 悩みを相談しない理由

※Q18-1で「相談相手がいない・相談しない」人のみ

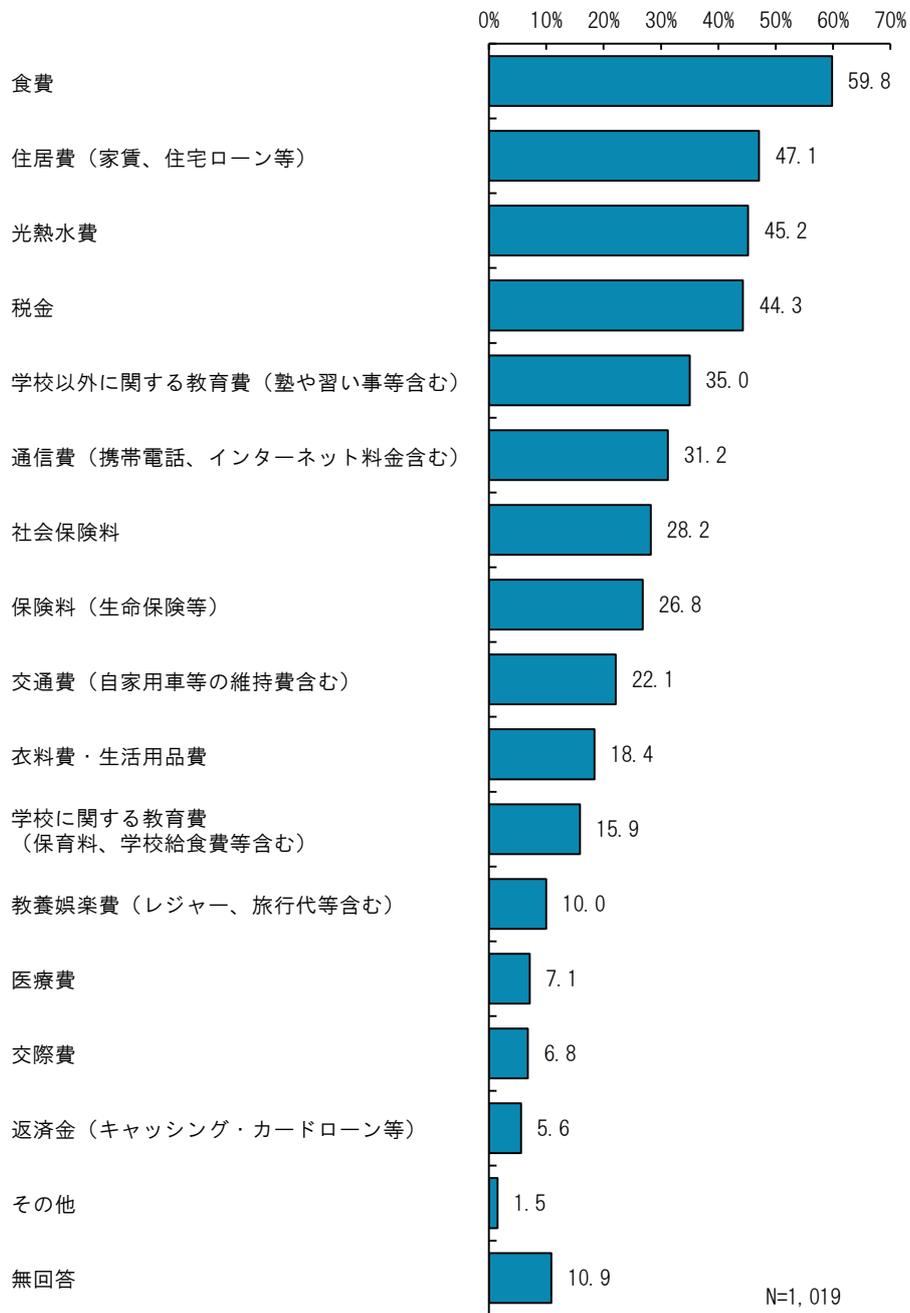
(MA) Q18-1 その理由を教えてください。



悩みを相談しない理由は、「相談しても事態は変わらないから」が43.6%と最も多く、次いで「自分で解決できそうだ(できた)から」が27.1%、「プライベートな話をすることが負担だから」が25.5%などとなっています。

## (8) 家計において負担を感じるもの

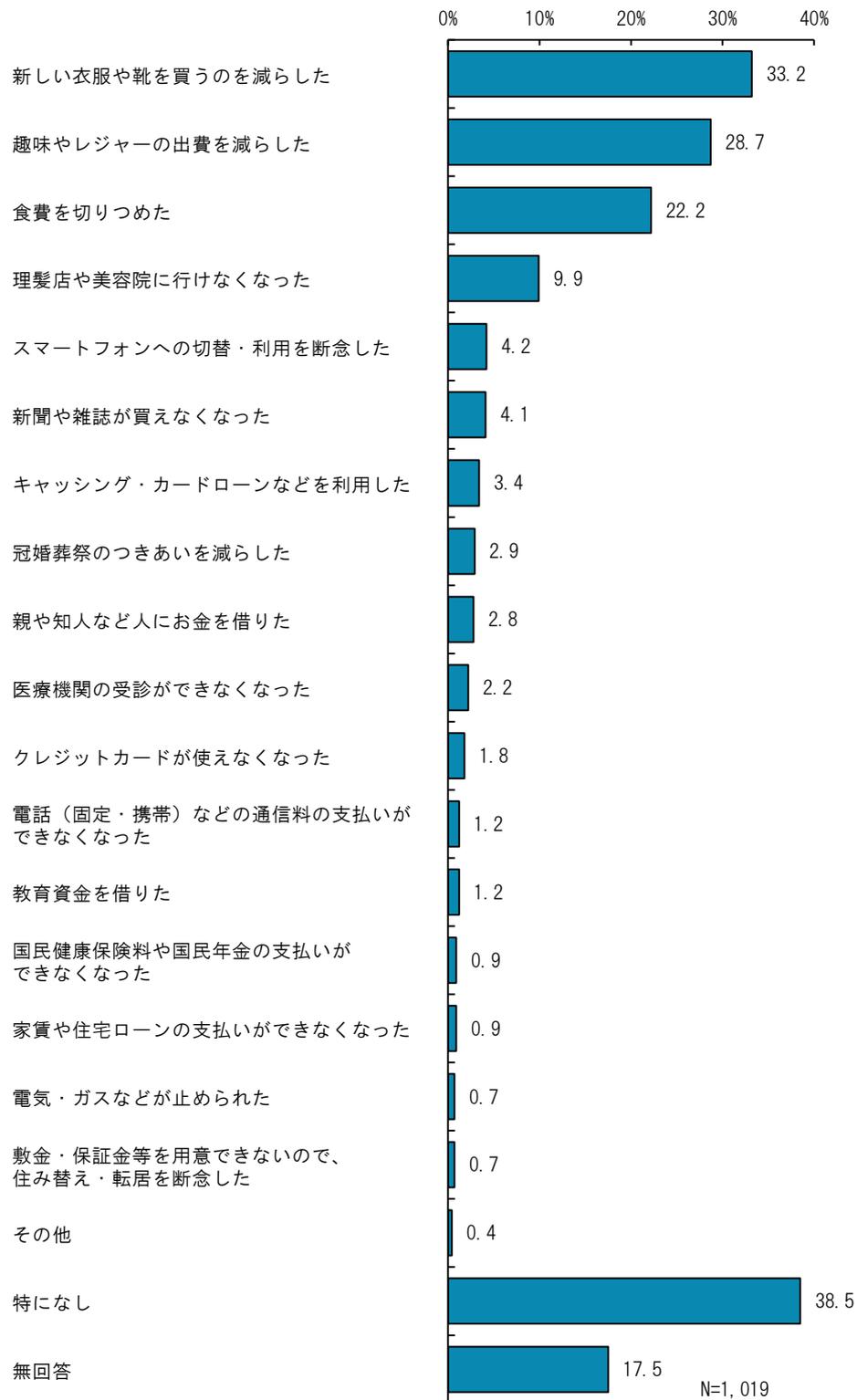
(MA) Q24 家計において負担を感じるものは何ですか。



家計において負担を感じるものは、「食費」が59.8%と最も多く、次いで「住居費 (家賃、住宅ローン等)」が47.1%、「光熱水費」が45.2%などとなっています。

## (9) 経済的な理由で半年の間に経験したこと

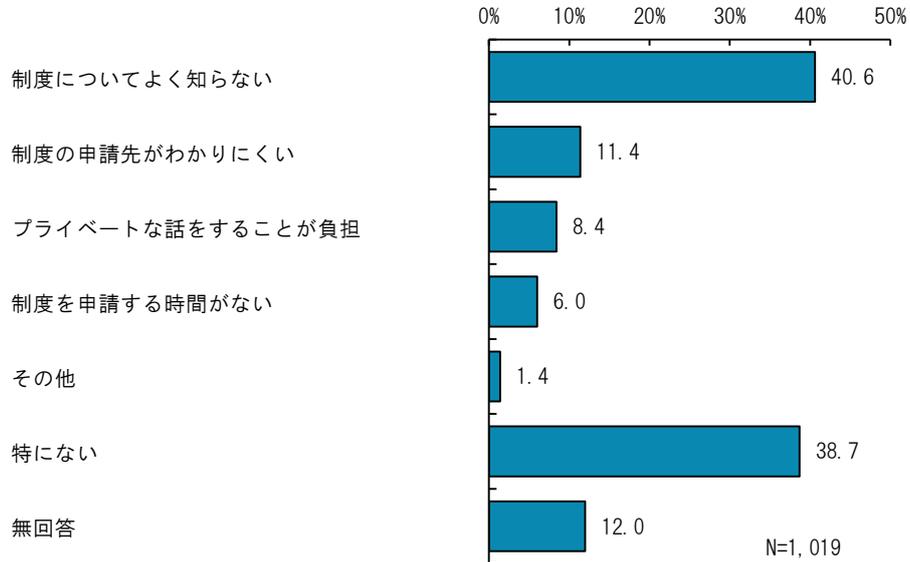
(MA) Q25 半年の間に、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。



経済的な理由で半年の間に経験したことは、「新しい衣服や靴を買うのを減らした」が33.2%と最も多く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が28.7%、「食費を切りつめた」が22.2%などとなっています。また、「特になし」が38.5%となっています。

## (10) 掛川市の支援制度を受けるうえで困ったこと

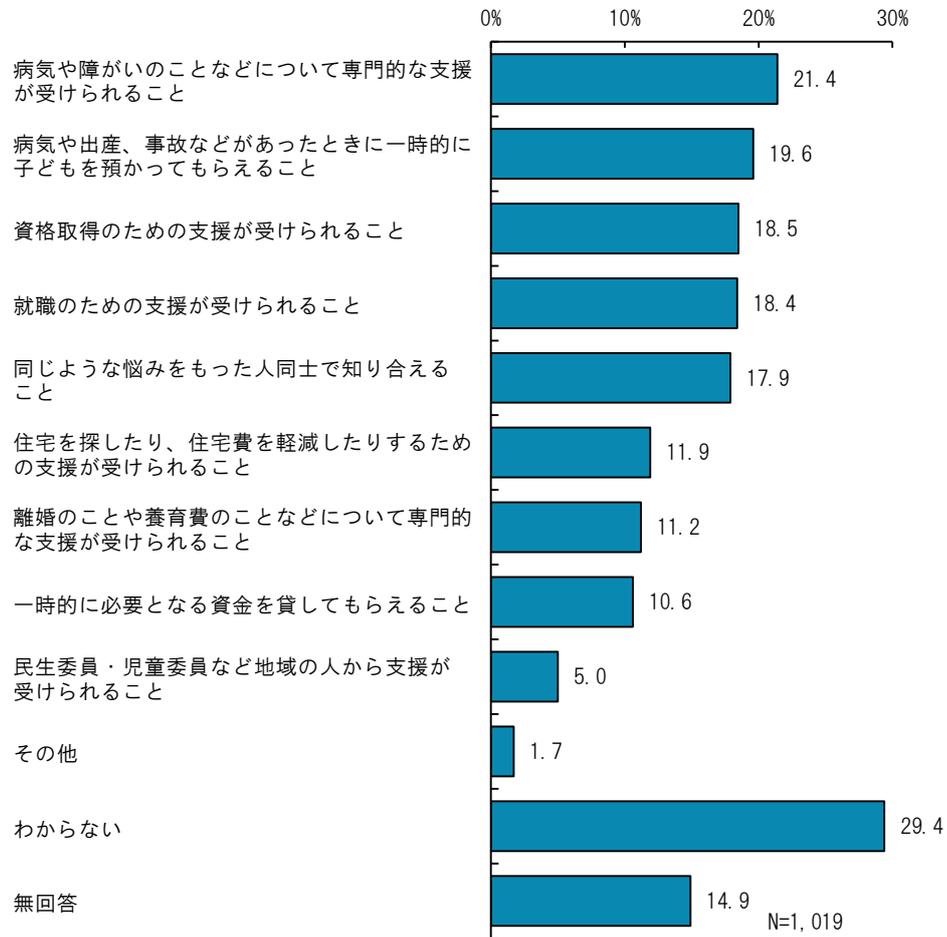
(MA) Q27 掛川市の支援制度（手当や就学援助など）を受けるうえで、困ったことはどのようなものですか。



掛川市の支援制度を受けるうえで困ったことは、「制度についてよく知らない」が40.6%と最も多く、次いで「制度の申請先がわかりにくい」が11.4%、「プライベートな話をすることが負担」が8.4%などとなっています。また、「特にない」が38.7%となっています。

## (11) 必要としている支援、重要だと思う支援等

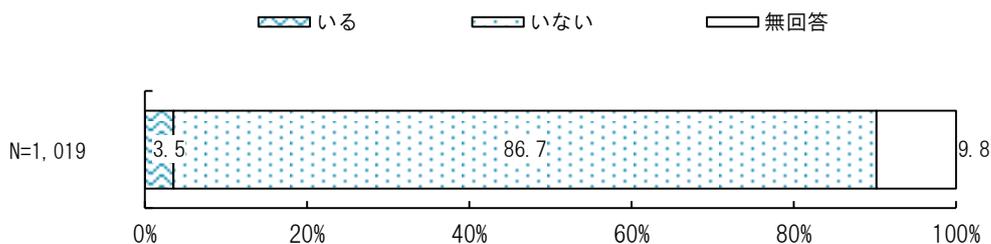
(MA) Q28 必要としている支援、または、重要だと思う支援等はどのようなものですか。



必要としている支援、重要だと思う支援等は、「病気や障がいのことなどについて専門的な支援が受けられること」が21.4%と最も多く、次いで「病気や出産、事故などがあつたときに一時的に子どもを預かってもらえること」が19.6%、「資格取得のための支援が受けられること」が18.5%などとなっています。また、「わからない」が29.4%となっています。

## (12) 子どもが家族の中で世話（ケア）をしている人

(SA) Q29 お子さんが家族の中でお世話（ケア）している人はいますか。



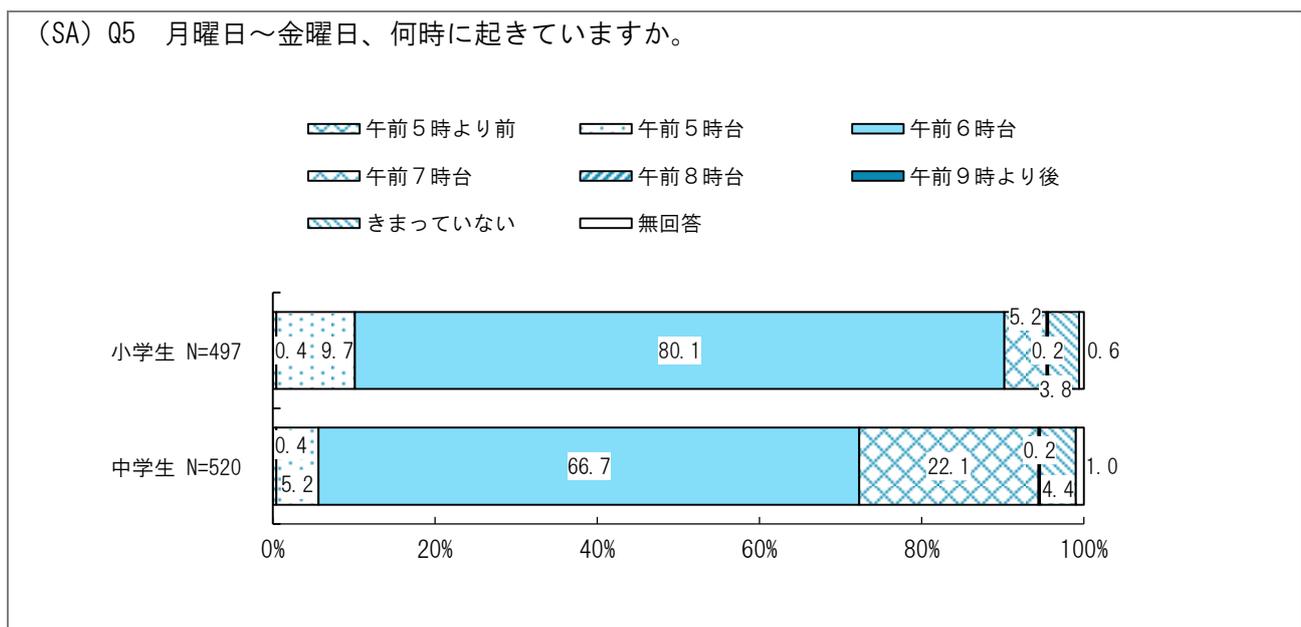
子どもが家族の中で世話（ケア）をしている人は、「いる」が3.5%、「いない」が86.7%となっています。

## 4. 子どもの貧困対策に係る調査（こども用）

### <調査結果の概要>

起床時間においては小学生で約8割、中学生で約6割が午前6時台に起床しており、午前8時以降に起床する子どもはほとんどいない一方で、就寝時間については、午前0時台以降に就寝する割合が小学生で0.8%、中学生で16.5%存在します。朝食においては約9割がほぼ毎日食べており、食べていない理由は時間がない、おなかがすいていないが上位を占めています。平日の放課後においてはひとりでいると回答した割合が小学生で20.9%、中学生で41.7%となっており、ひとりで過ごす子どもへの支援が必要であるといえます。放課後過ごしたい場所と過ごしている場所においては、小学生・中学生とも現在と希望の両方で自分の家が最も多くなっています。いやなことや悩んでいることについては、いやなことや悩んでいることはないと答えた割合は、小学生で61.6%、中学生で41.7%となっており、中学生のほうが悩んでいることがある傾向にあります。いじめのことで回答する割合も小学生で2.8%、中学生で1.2%存在しており、相談先においてだれにも相談しないと答えた割合が小学生で14.5%、中学生で19.6%となっていることから、いじめや相談しない子どもへの支援が必要であるといえます。

### (1) 平日の起床時間

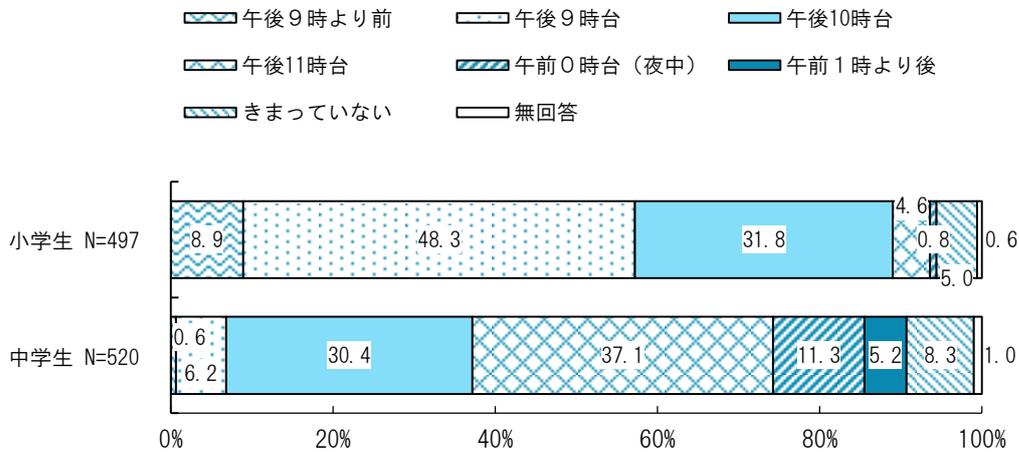


平日の起床時間は、小学生では「午前6時台」が80.1%と最も多く、次いで「午前5時台」が9.7%、「午前7時台」が5.2%などとなっています。

中学生では「午前6時台」が66.7%と最も多く、次いで「午前7時台」が22.1%、「午前5時台」が5.2%などとなっています。

## (2) 平日の就寝時間

(SA) Q7 月曜日～金曜日、何時にねていますか。

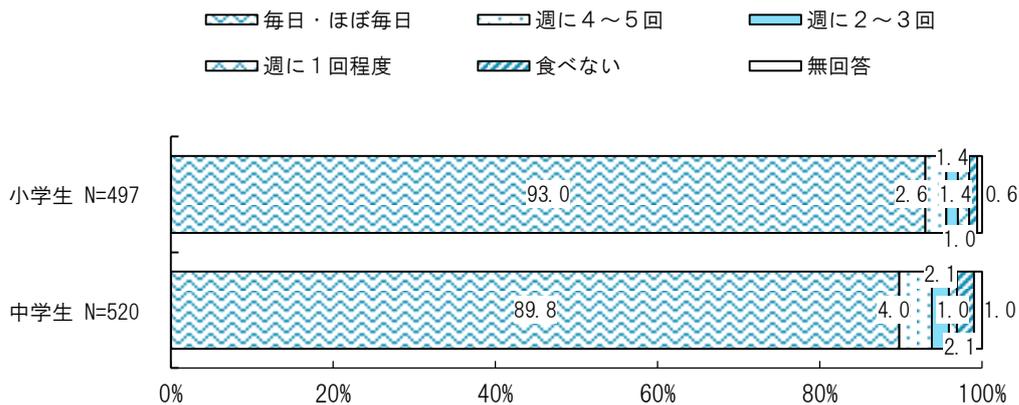


平日の就寝時間は、小学生では「午後9時台」が48.3%と最も多く、次いで「午後10時台」が31.8%、「午後9時より前」が8.9%などとなっています。

中学生では「午後11時台」が37.1%と最も多く、次いで「午後10時台」が30.4%、「午前0時台 (夜中)」が11.3%などとなっています。

## (3) 朝ごはんの摂取状況

(SA) Q8 朝ごはんを食べていますか。



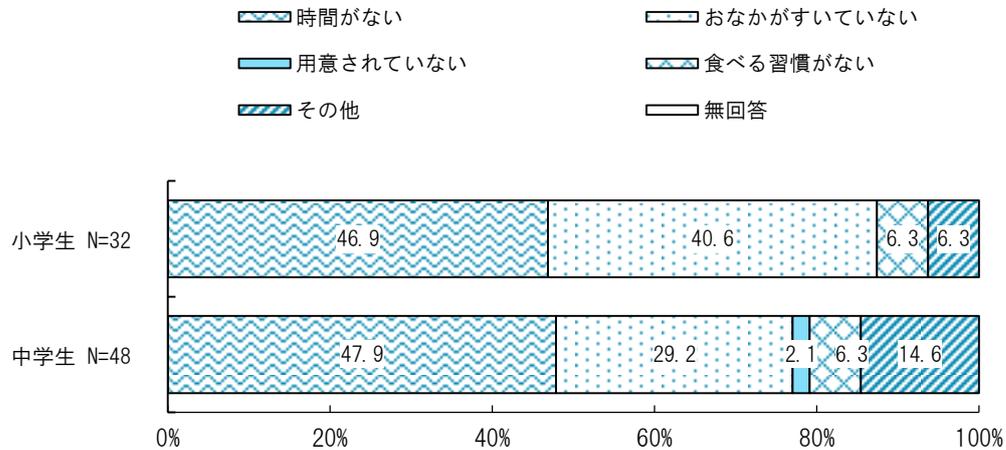
朝ごはんの摂取状況は、小学生では「毎日・ほぼ毎日」が93.0%と最も多く、次いで「週に4～5回」が2.6%、「週に2～3回」、「週に1回程度」が1.4%、「食べない」が1.0%となっています。

中学生では「毎日・ほぼ毎日」が89.8%と最も多く、次いで「週に4～5回」が4.0%、「週に2～3回」、「食べない」が2.1%などとなっています。

#### (4) 毎日朝ごはんを食べない理由

※Q8で「欠食することがある」人のみ

(SA) Q8-1 毎日朝ごはんを食べない理由はなんですか。

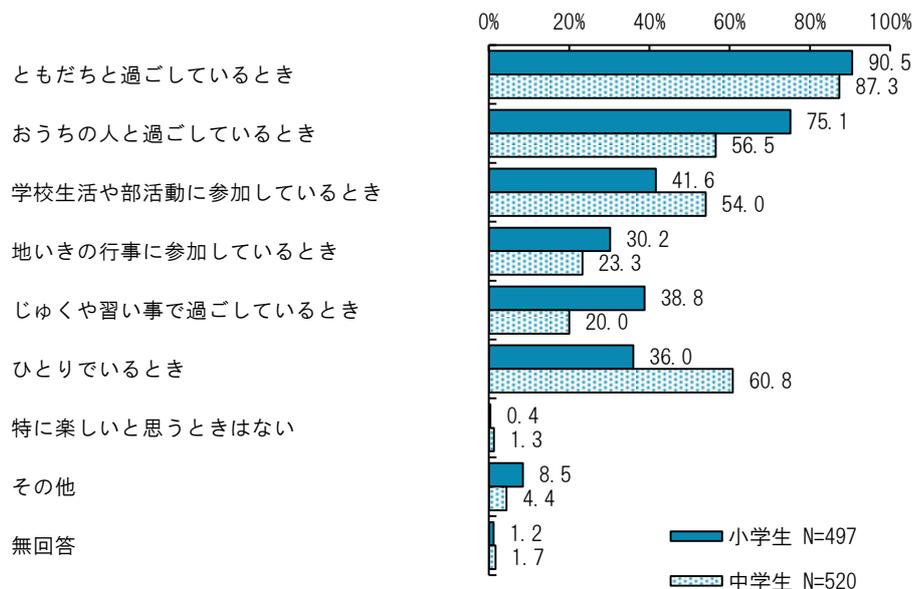


毎日朝ごはんを食べない理由は、小学生では「没有时间」が46.9%と最も多く、次いで「おなかがすいていない」が40.6%、「食べる習慣がない」が6.3%などとなっています。

中学生では「没有时间」が47.9%と最も多く、次いで「おなかがすいていない」が29.2%、「食べる習慣がない」が6.3%となっています。

#### (5) 楽しいと思うとき

(MA) Q14 どのようなときに楽しいと思いますか。

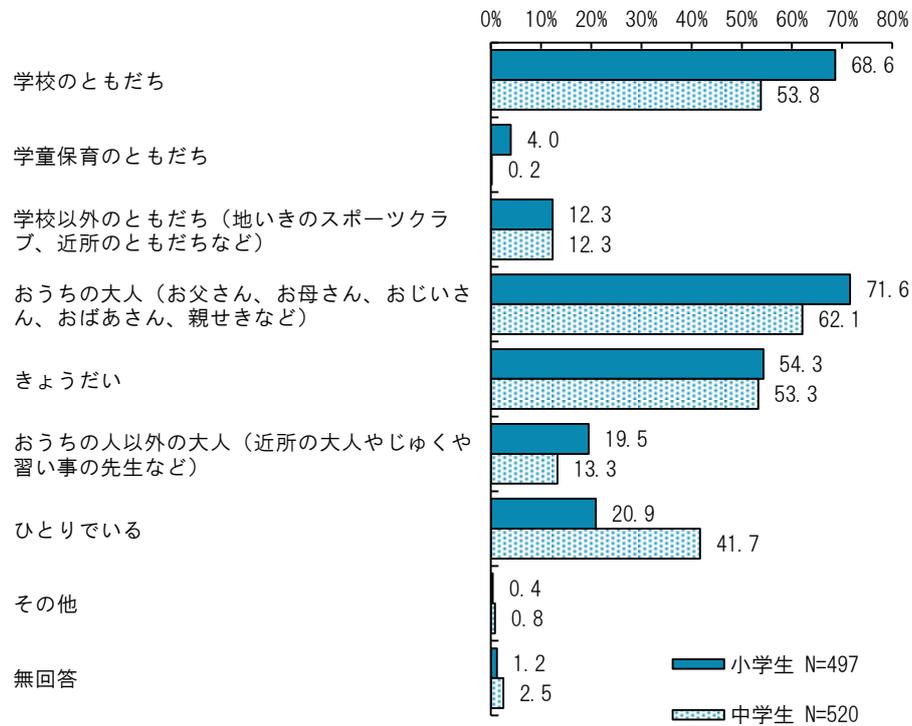


楽しいと思うときは、小学生では「ともだちと過ごしているとき」が90.5%と最も多く、次いで「おうちの人と過ごしているとき」が75.1%、「学校生活や部活動に参加しているとき」が41.6%などとなっています。

中学生では「ともだちと過ごしているとき」が87.3%と最も多く、次いで「ひとりでいるとき」が60.8%、「おうちの人と過ごしているとき」が56.5%などとなっています。

## (6) 放課後一緒に過ごす人

(MA) Q15 月曜日～金曜日の放課後、だれと過ごしますか。



放課後一緒に過ごす人は、小学生では「おうちの大人（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、親せきなど）」が71.6%と最も多く、次いで「学校のともだち」が68.6%、「きょうだい」が54.3%などとなっています。

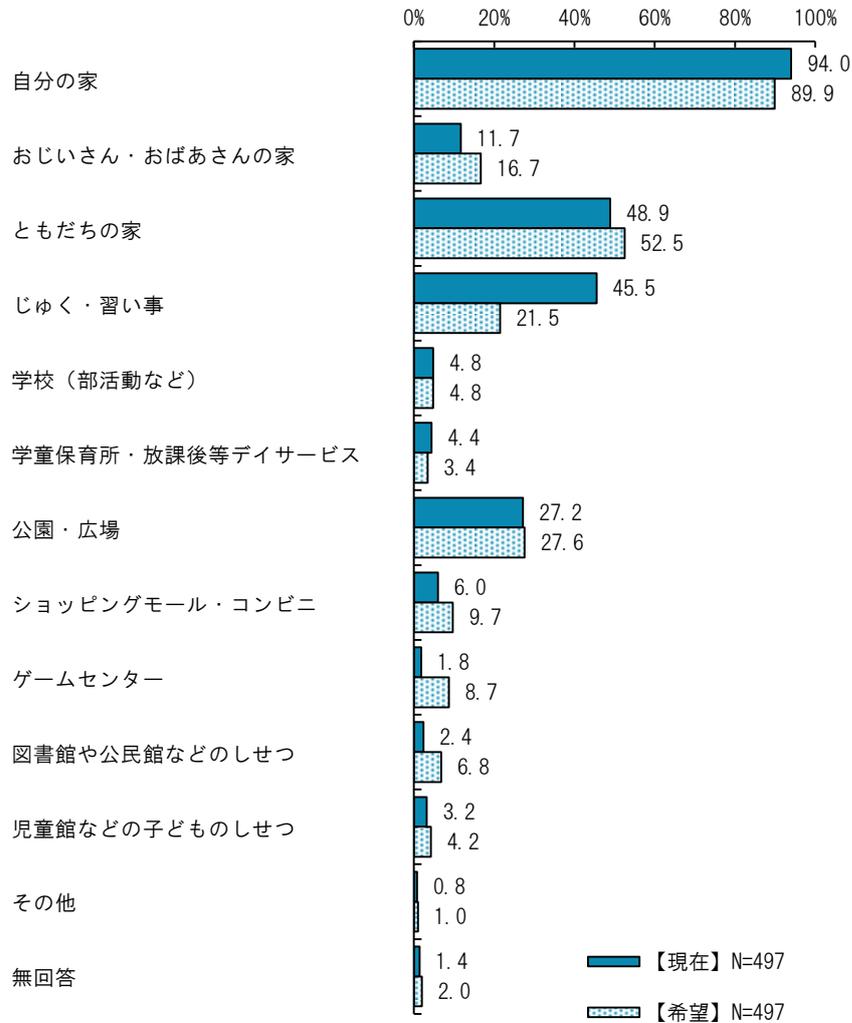
中学生では「おうちの大人（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、親せきなど）」が62.1%と最も多く、次いで「学校のともだち」が53.8%、「きょうだい」が53.3%などとなっています。

## (7) 放課後過ごす場所

(MA) Q16 月曜日～金曜日の放課後、どこで過ごしていますか。

(MA) Q17 月曜日～金曜日の放課後、どこで過ごしたいですか。

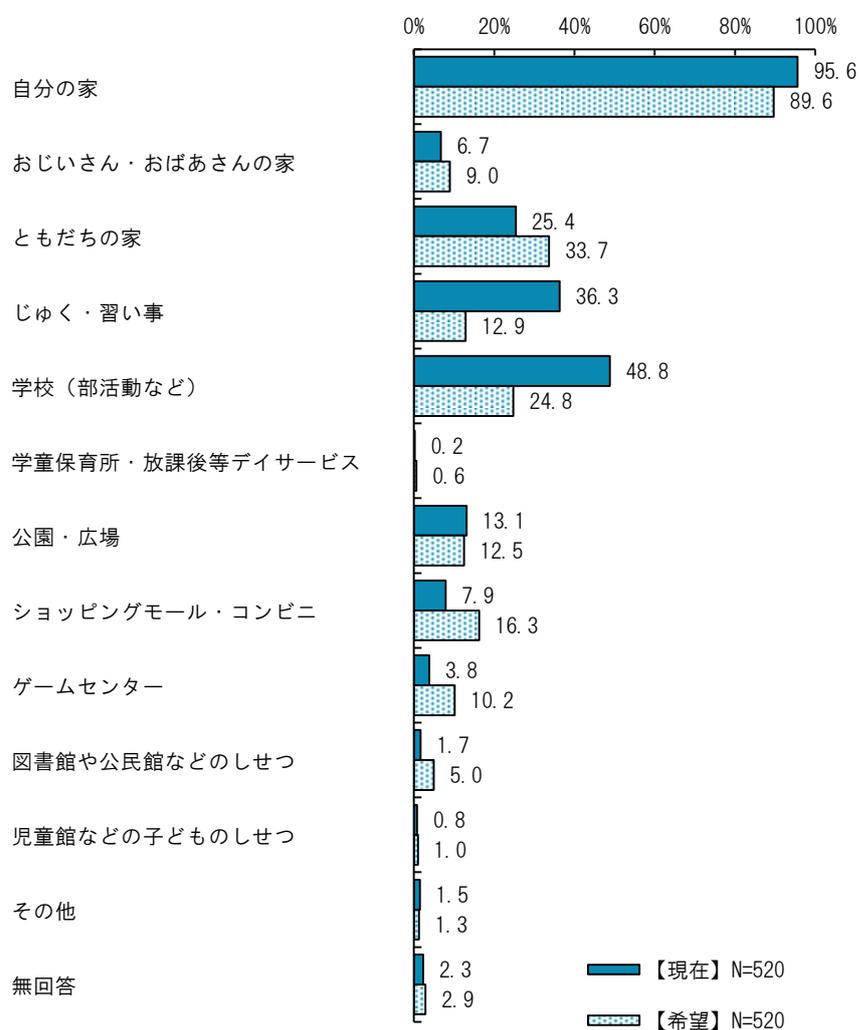
### ◆小学生



現在：小学生の放課後過ごす場所は、「自分の家」が94.0%と最も多く、次いで「ともだちの家」が48.9%、「じゅく・習い事」が45.5%などとなっています。

希望：小学生の放課後過ごしたい場所は、「自分の家」が89.9%と最も多く、次いで「ともだちの家」が52.5%、「公園・広場」が27.6%などとなっています。

◆中学生

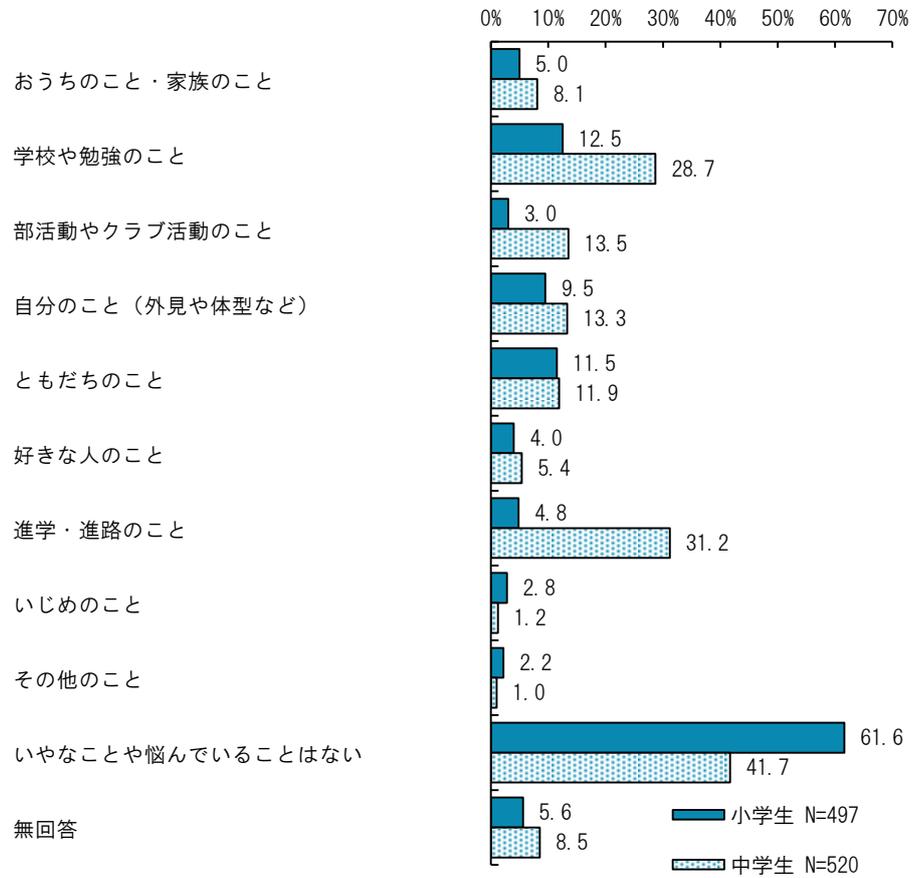


現在：中学生の放課後過ごす場所は、「自分の家」が95.6%と最も多く、次いで「学校（部活動など）」が48.8%、「じゅく・習い事」が36.3%などとなっています。

希望：中学生の放課後過ごしたい場所は、「自分の家」が89.6%と最も多く、次いで「ともだちの家」が33.7%、「学校（部活動など）」が24.8%などとなっています。

## (8) いやなことや悩んでいること

(MA) Q28 いやなことや悩んでいることがありますか。

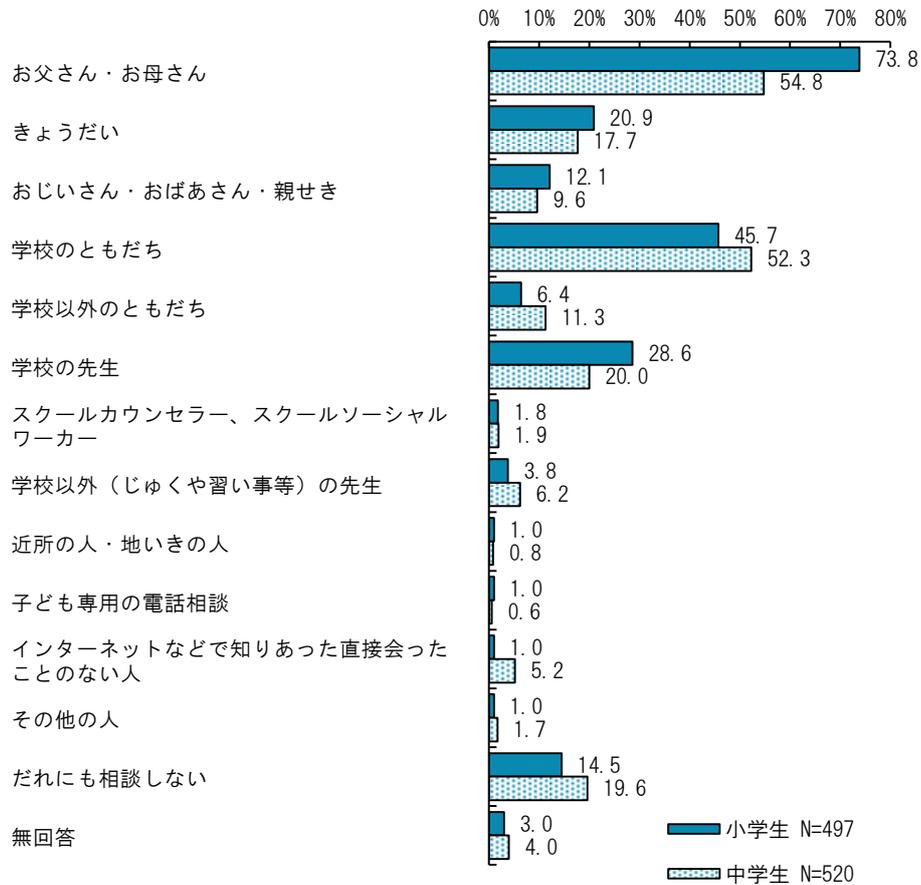


いやなことや悩んでいることは、小学生では「学校や勉強のこと」が12.5%と最も多く、「ともだちのこと」が11.5%、「自分のこと (外見や体型など)」が9.5%などとなっています。また、「いやなことや悩んでいることはない」が61.6%となっています。

中学生では「進学・進路のこと」が31.2%と最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が28.7%、「部活動やクラブ活動のこと」が13.5%などとなっています。また、「いやなことや悩んでいることはない」が41.7%となっています。

## (9) いやなことや悩んでいることの相談先

(MA) Q29 いやなことや悩んでいることがあるとき、だれに相談しますか。

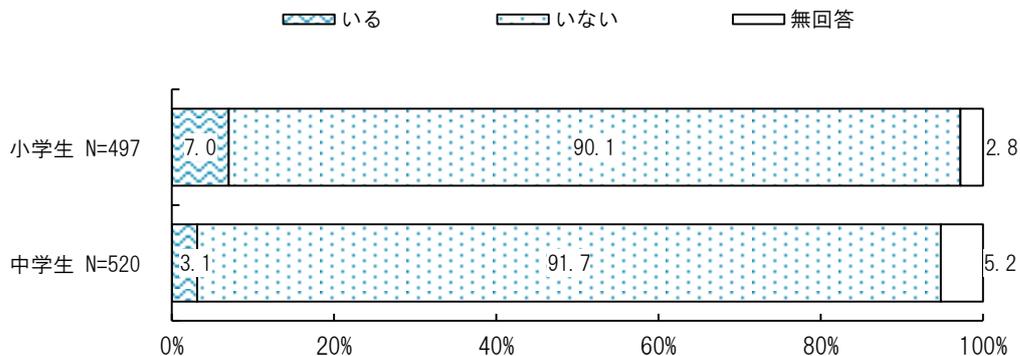


いやなことや悩んでいることの相談先は、小学生では「お父さん・お母さん」が73.8%と最も多く、次いで「学校のともだち」が45.7%、「学校の先生」が28.6%などとなっています。

中学生では「お父さん・お母さん」が54.8%と最も多く、次いで「学校のともだち」が52.3%、「学校の先生」が20.0%などとなっています。

## (10) 家族の中で世話（ケア）している人

(SA) Q37 あなたが家族の中でお世話（ケア）している人はいますか。



家族の中で世話（ケア）している人は、小学生では「いる」が7.0%、「いない」が90.1%となっています。

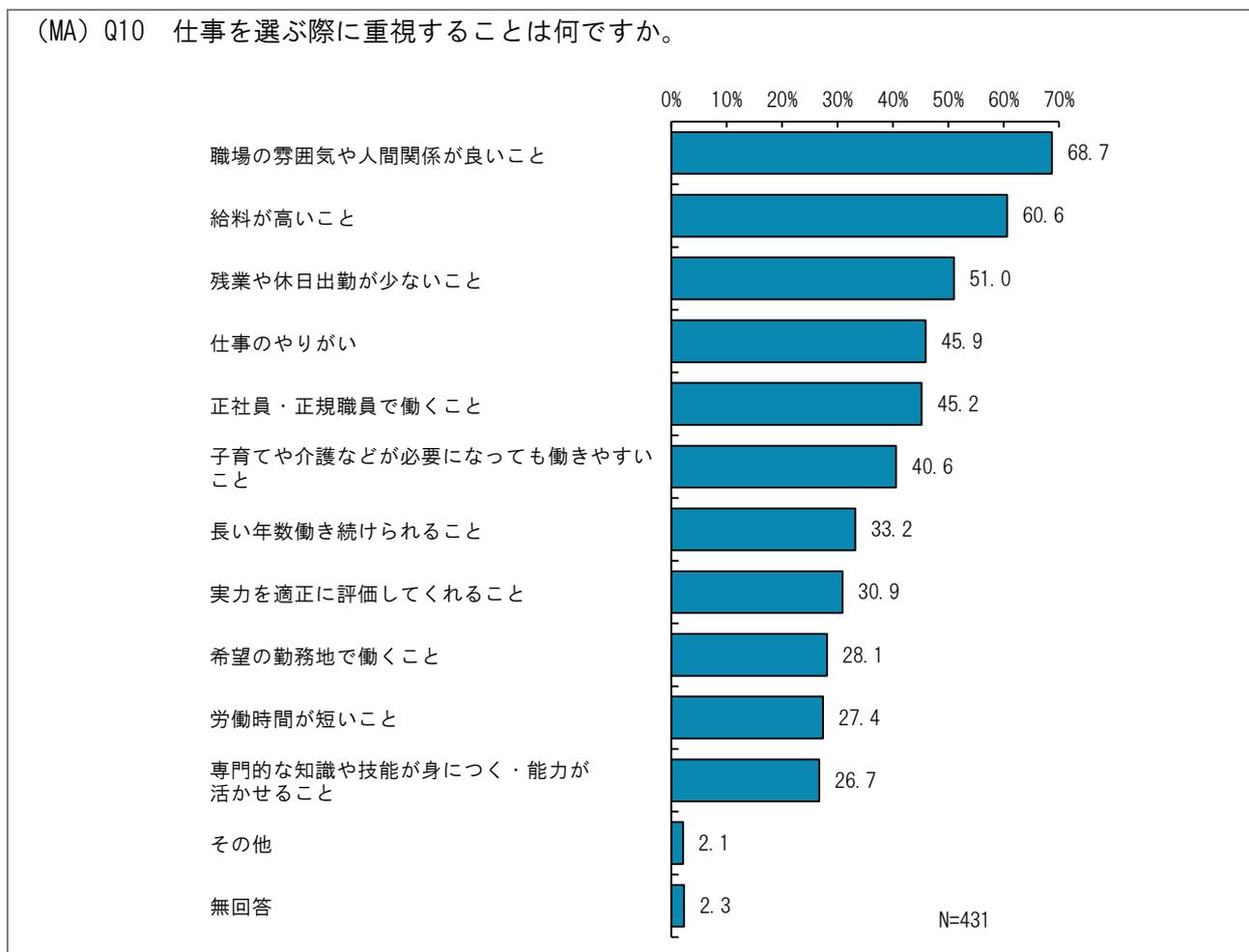
中学生では「いる」が3.1%、「いない」が91.7%となっています。

## 5. こども・若者に係る調査（16～39歳用）

### <調査結果の概要>

こども・若者支援で期待することでは、結婚後の経済的支援や子育てと仕事が両立できる職場環境の充実、残業時間の短縮や休暇取得促進など、職場環境の改善、高等教育の負担軽減、奨学金制度など給付・支援事業の充実、教育・保育の経済的負担軽減が上位となっており、仕事を選ぶ際に重視することで、職場の雰囲気や人間関係が良いこと、給料が高いこと、残業や休日出勤が少ないことが半数を超えていることから、経済的支援や仕事と生活が両立できる支援、職場環境の改善等の支援が必要であることがわかります。また、理想的な子どもの人数を持つ際の課題、子どもを持つつもりのない理由では、経済的負担が大きいからが約7割と最も多くなっており、少子化対策としては経済的支援が重要であることがわかります。独身でいる理由では、異性と出会うきっかけがないから、適当な相手にまだめぐり合わないからが上位となっており、出会いの支援が求められていることがわかります。居場所になっているところでは、自分の部屋や家庭が6割を超えている一方で、交流・居場所への支援で期待することでは、娯楽施設などの楽しめる場所の充実や楽しめるイベント開催などの機会の充実のニーズ、また困ったときに相談したり、情報が得られる場のニーズが高いことがわかります。自分の部屋や家庭が多くの市民の居場所になっている一方で、イベントや娯楽を楽しめる機会・場所の充実や、相談したり情報が得られる場を充実することが求められているといえます。

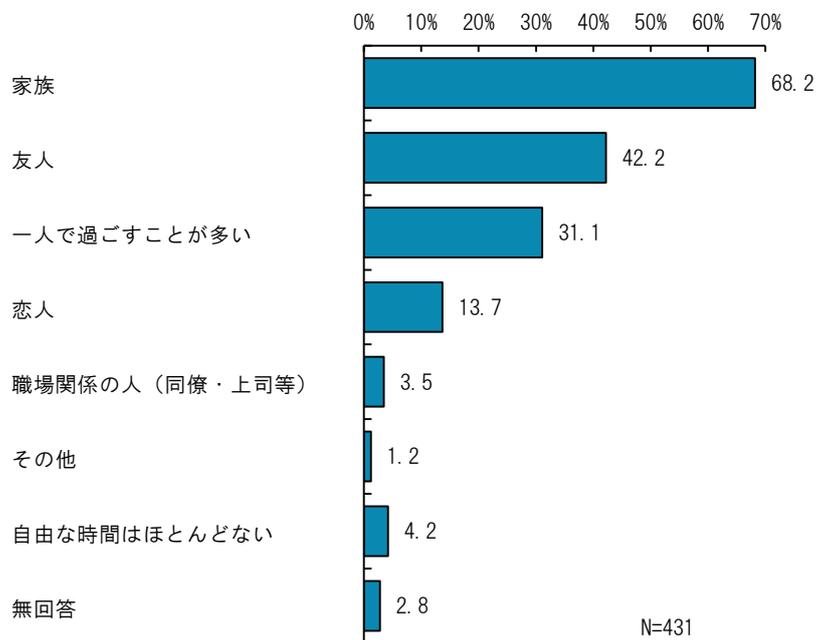
### (1) 仕事を選ぶ際に重視すること



仕事を選ぶ際に重視することは、「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」が68.7%と最も多く、次いで「給料が高いこと」が60.6%、「残業や休日出勤が少ないこと」が51.0%などとなっています。

## (2) 自由な時間をいっしょに過ごす人

(MA) Q11 自由な時間を誰といっしょに過ごしていますか。

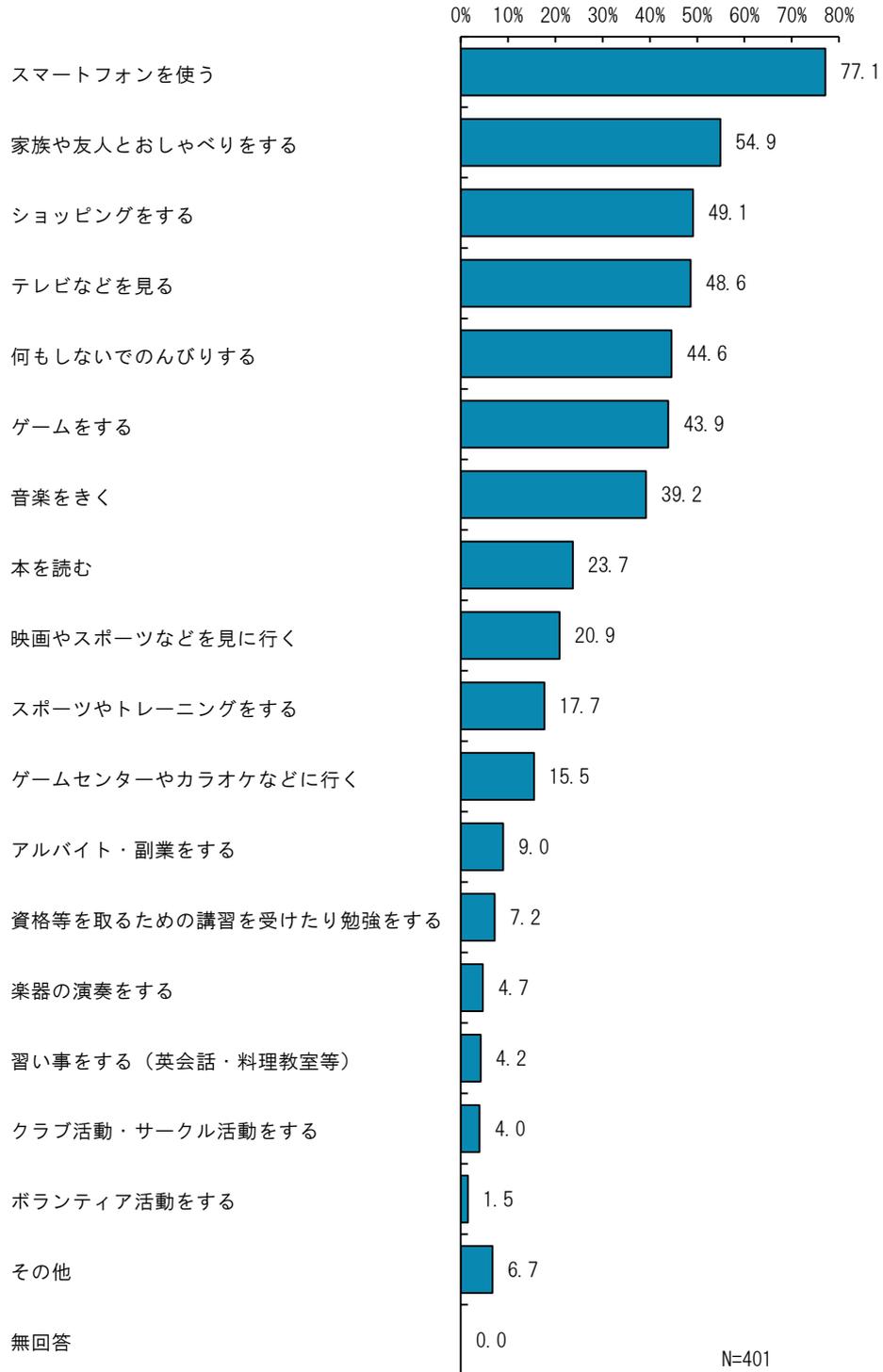


自由な時間をいっしょに過ごす人は、「家族」が68.2%と最も多く、次いで「友人」が42.2%、「一人で過ごすことが多い」が31.1%などとなっています。

### (3) 自由な時間の過ごし方

※Q11で「自由な時間がある」人のみ

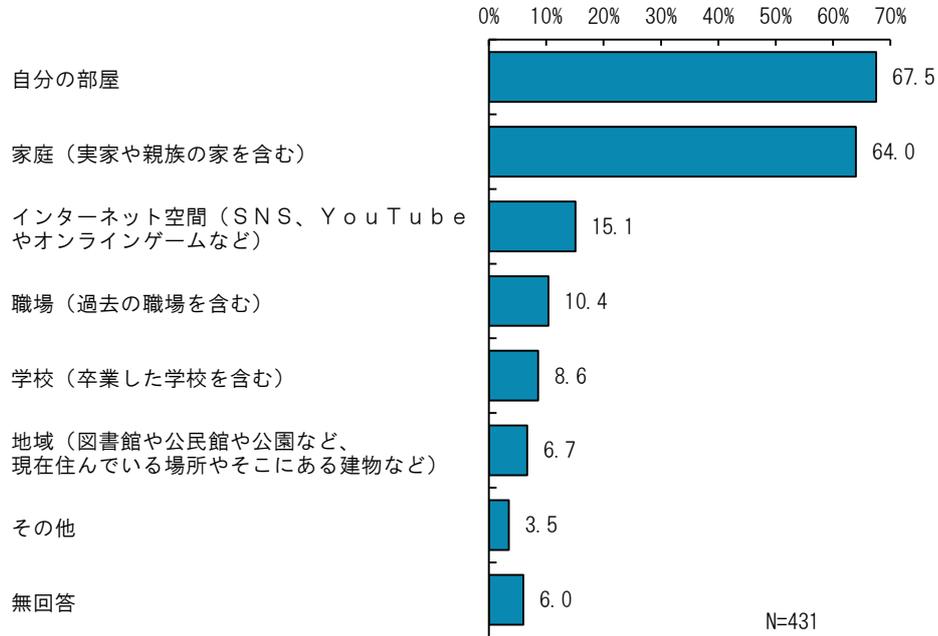
(MA) Q11-1 自由な時間をどのように過ごしていますか。



自由な時間の過ごし方は、「スマートフォンを使う」が77.1%と最も多く、次いで「家族や友人とおしゃべりをする」が54.9%、「ショッピングをする」が49.1%などとなっています。

#### (4) 居場所になっているところ

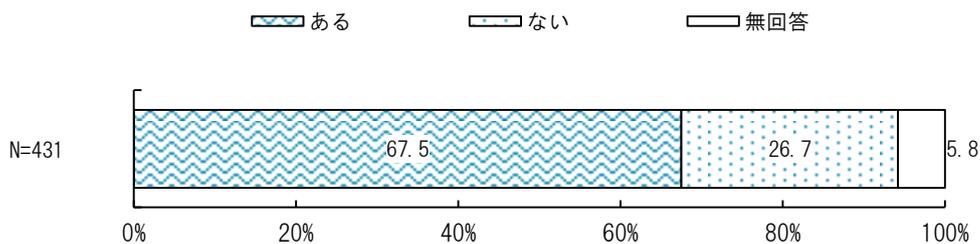
(MA) Q23 次の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、居心地のいい場所など)になっていますか。



居場所になっているところは、「自分の部屋」が67.5%と最も多く、次いで「家庭 (実家や親族の家を含む)」が64.0%、「インターネット空間 (SNS、YouTubeやオンラインゲームなど)」が15.1%などとなっています。

#### (5) 悩みや心配ごとの有無

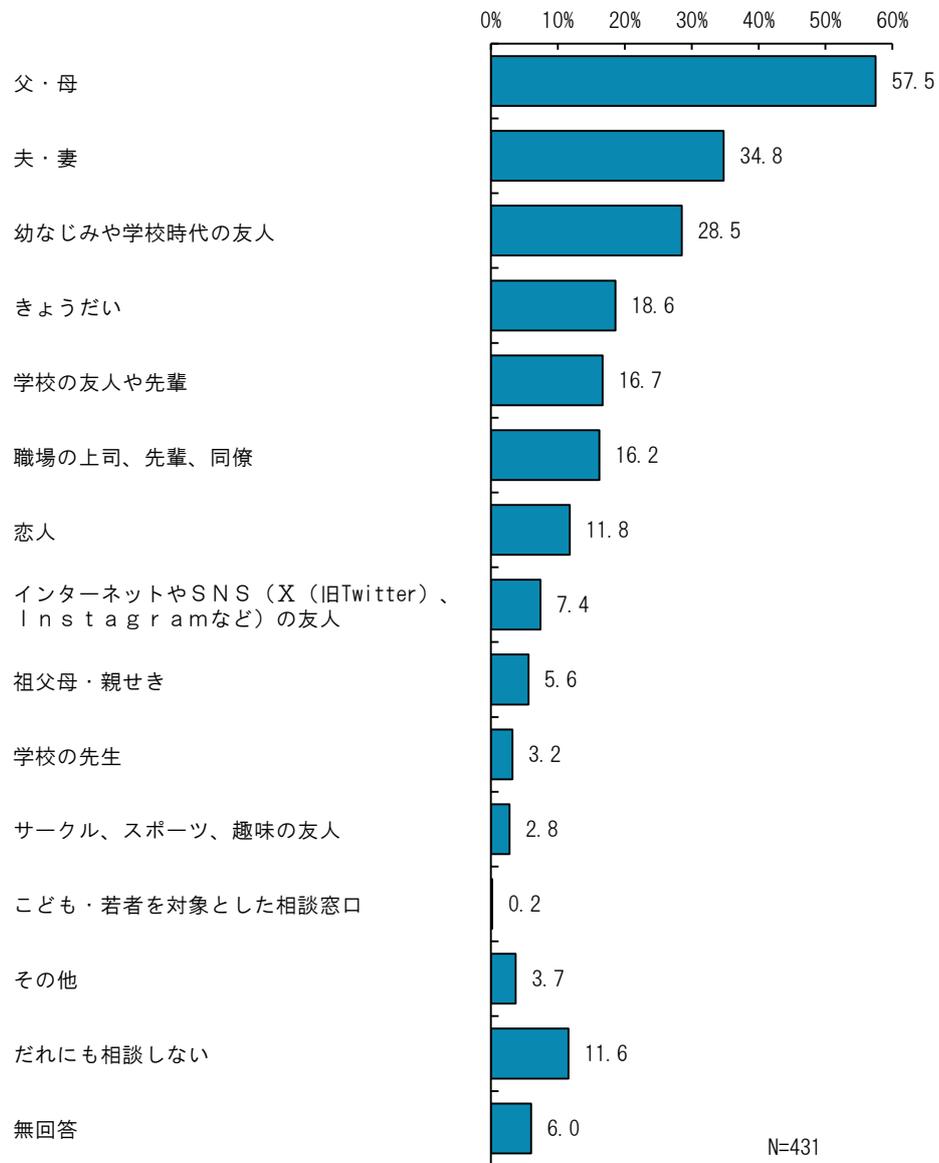
(SA) Q25 悩みや心配ごとがありますか。



悩みや心配ごとの有無は、「ある」が67.5%、「ない」が26.7%となっています。

## (6) 悩みや心配ごとの相談先

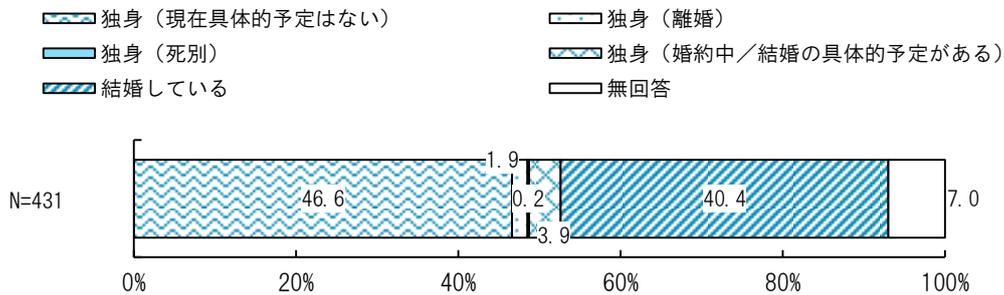
(MA) Q26 悩みや心配ごとがあった場合、だれに相談しますか。



悩みや心配ごとの相談先は、「父・母」が57.5%と最も多く、次いで「夫・妻」が34.8%、「幼なじみや学校時代の友人」が28.5%などとなっています。

## (7) 結婚経験

(SA) Q28 結婚経験について教えてください。

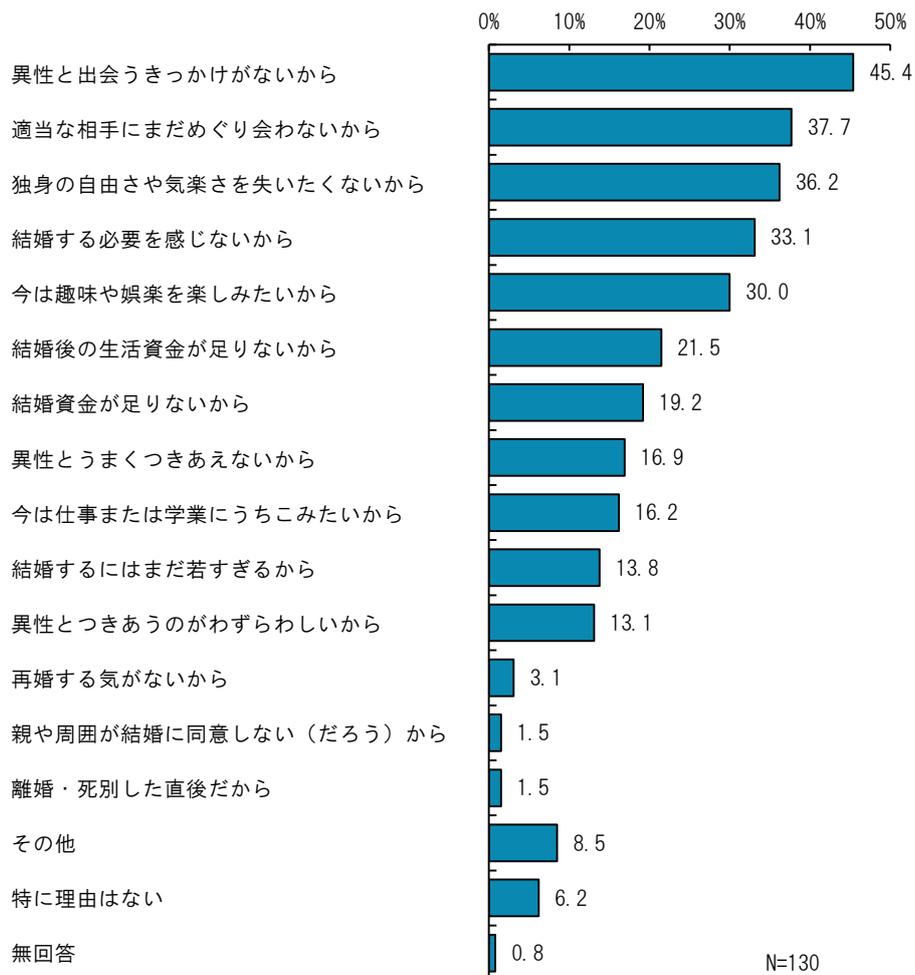


結婚経験は、「独身（現在具体的予定はない）」が46.6%と最も多く、次いで「結婚している」が40.4%、「独身（婚約中／結婚の具体的予定がある）」が3.9%などとなっています。

## (8) 独身でいる理由

※Q28で「独身」の人のみ（学生を除く）

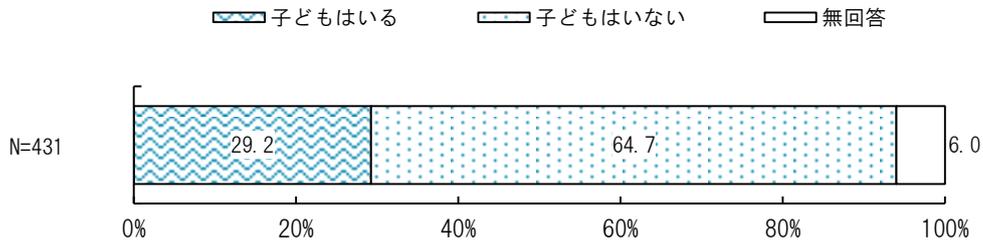
(MA) Q28-1 独身でいる理由を教えてください。



独身でいる理由は、「異性と出会うきっかけがないから」が45.4%と最も多く、次いで「適当な相手にまだめぐり会わないから」が37.7%、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が36.2%などとなっています。

## (9) 子どもの有無

(SA) Q30 子どもはいますか。

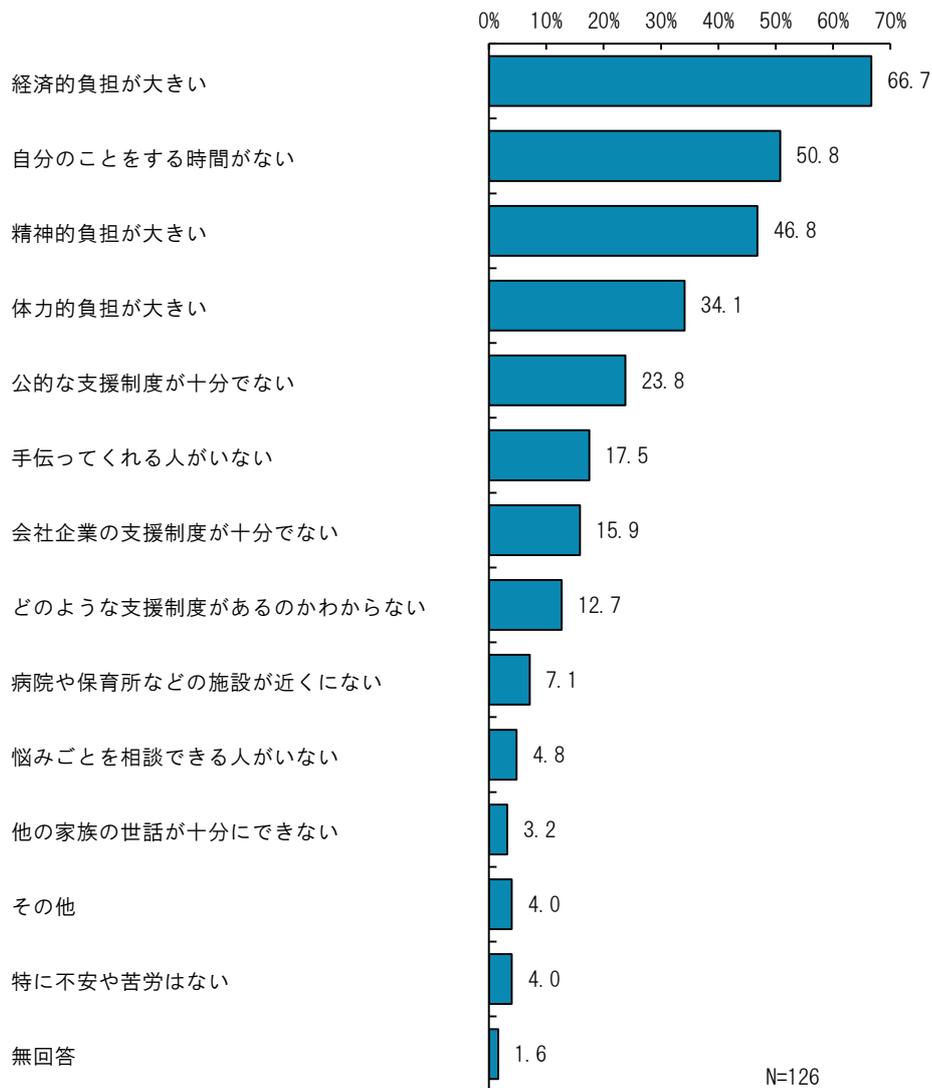


子どもの有無は、「子どもはいる」が29.2%、「子どもはいない」が64.7%となっています。

## (10) 出産、育児に対しての不安や苦勞

※Q30で「子どもはいる」人のみ

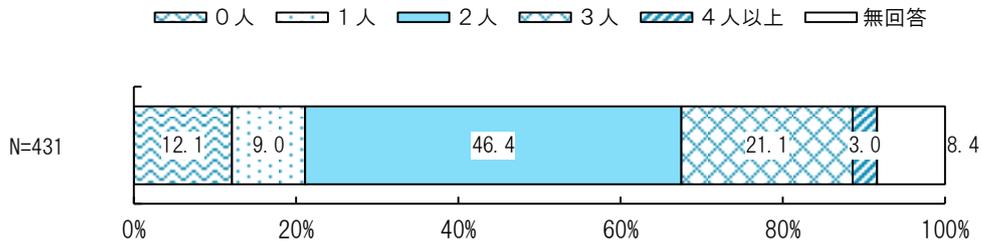
(MA) Q30-2 出産、育児に対しての不安や苦勞はありますか。



出産、育児に対しての不安や苦勞は、「経済的負担が大きい」が66.7%と最も多く、次いで「自分のことをする時間がない」が50.8%、「精神的負担が大きい」が46.8%などとなっています。

## (11) 理想の子どもの人数

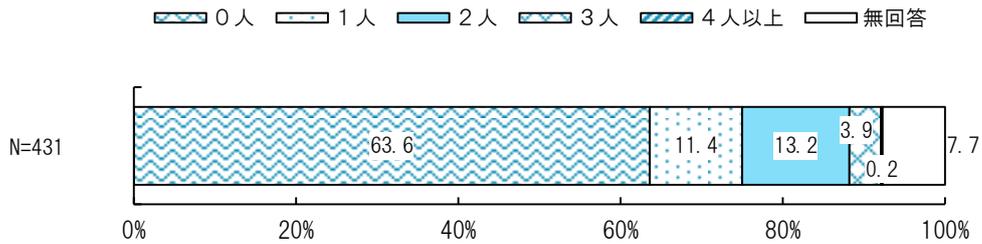
(SA) Q31 理想の子どもの人数は何人くらいですか。



理想の子どもの人数は、「2人」が46.4%と最も多く、次いで「3人」が21.1%、「0人」が12.1%などとなっています。

## (12) 現在の子どもの人数

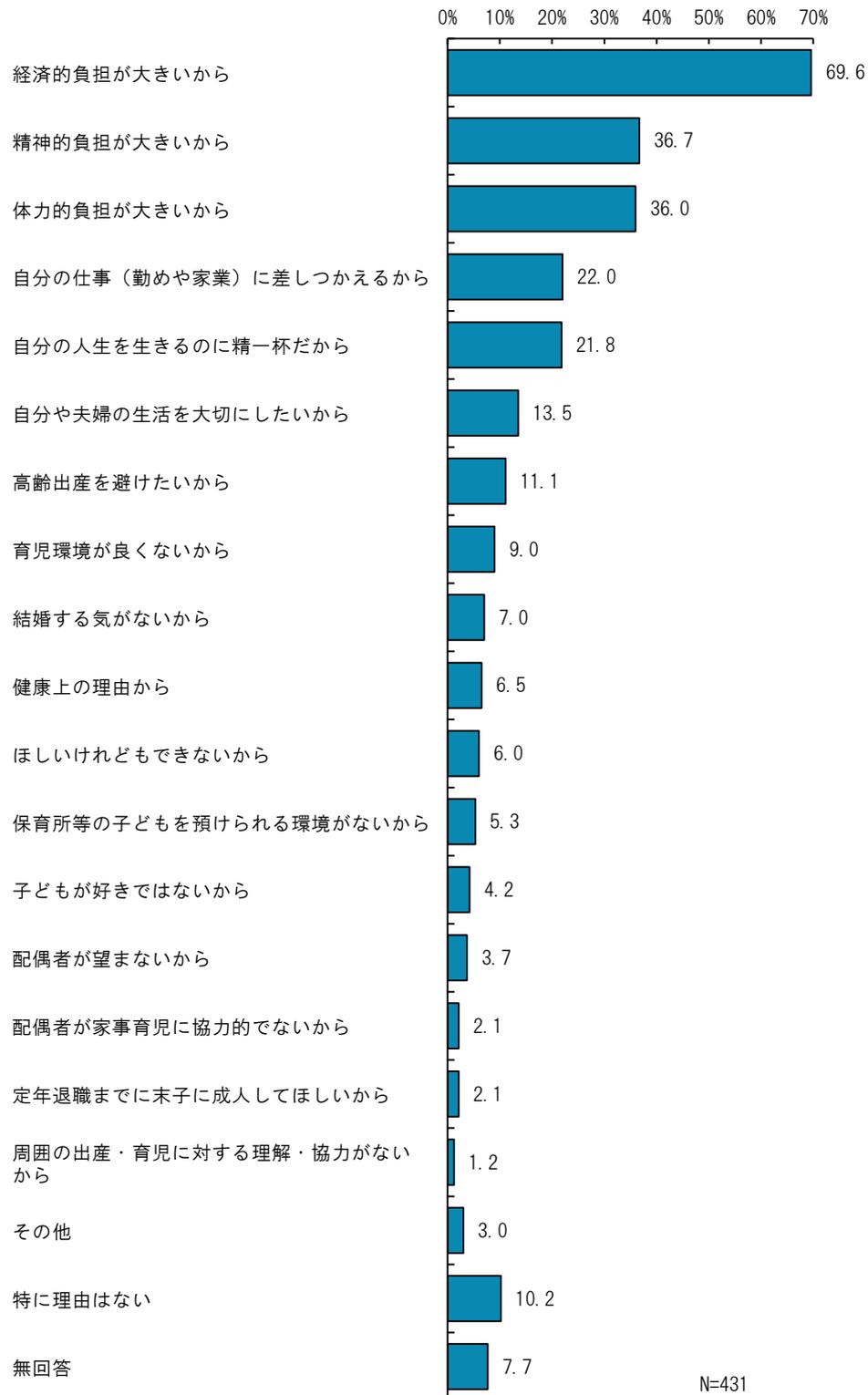
(SA) Q32 現在何人の子どもがいますか。



現在の子どもの人数は、「0人」が63.6%と最も多く、次いで「2人」が13.2%、「1人」が11.4%などとなっています。

### (13) 理想的な子どもの人数を持つ際の課題、子どもを持つつもりのない理由

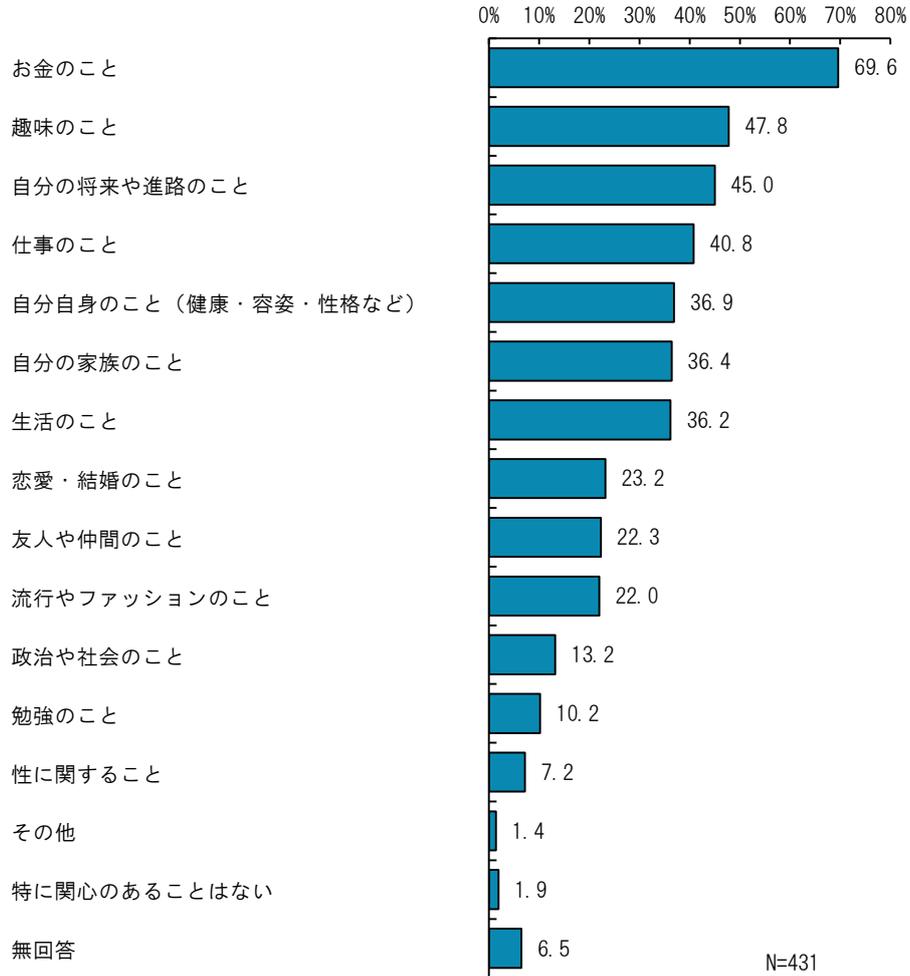
(MA) Q34 理想的な子どもの人数を持つ際の課題、子どもを持つつもりのない理由は何ですか。



理想的な子どもの人数を持つ際の課題、子どもを持つつもりのない理由は、「経済的負担が大きいから」が69.6%と最も多く、次いで「精神的負担が大きいから」が36.7%、「体力的負担が大きいから」が36.0%などとなっています。

## (14) 関心の高いもの

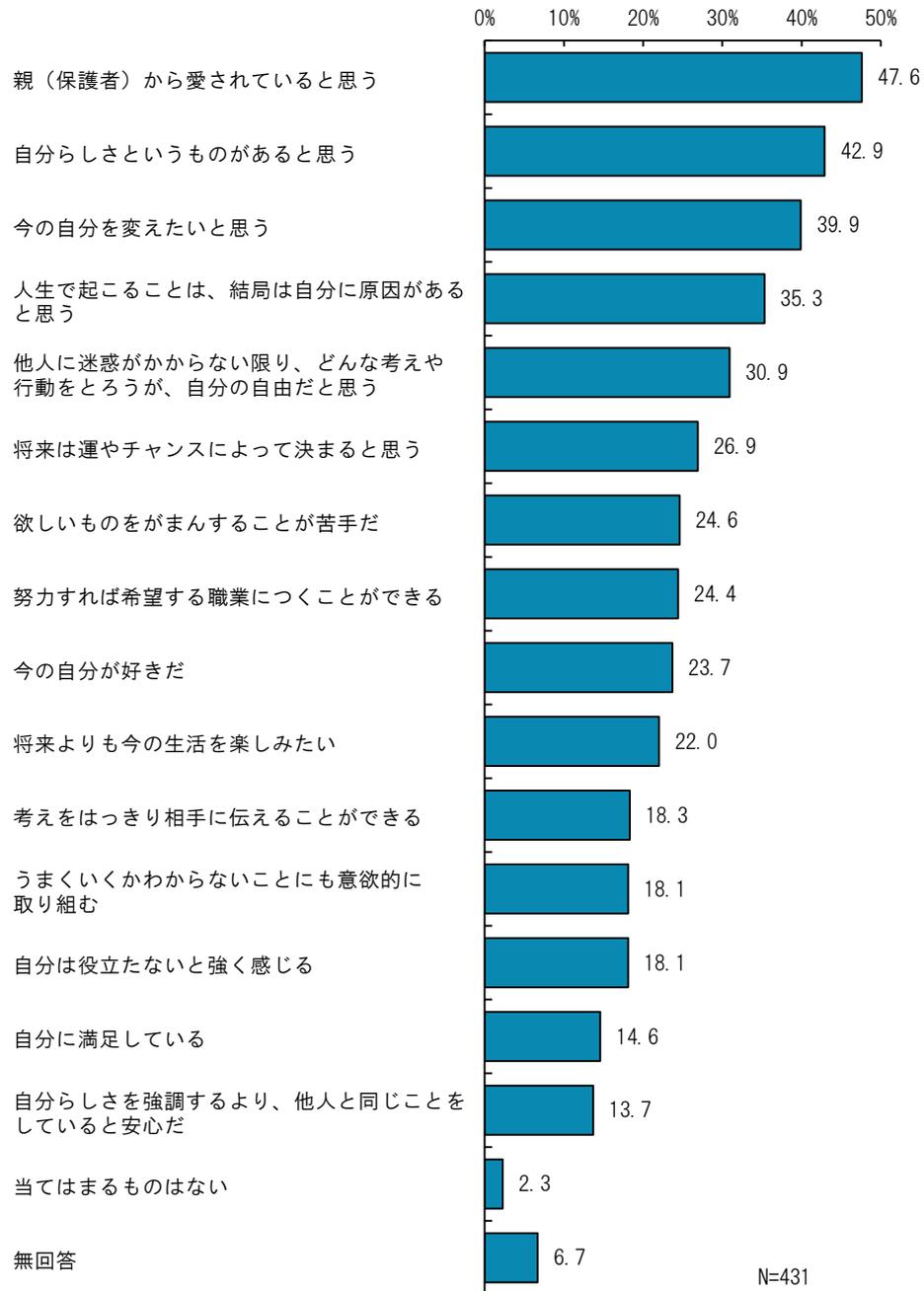
(MA) Q36 関心の高いものは何ですか。



関心の高いものは、「お金のこと」が69.6%と最も多く、次いで「趣味のこと」が47.8%、「自分の将来や進路のこと」が45.0%などとなっています。

## (15) 当てはまると思うもの

(MA) Q37 次のことがどのくらい当てはまりますか。

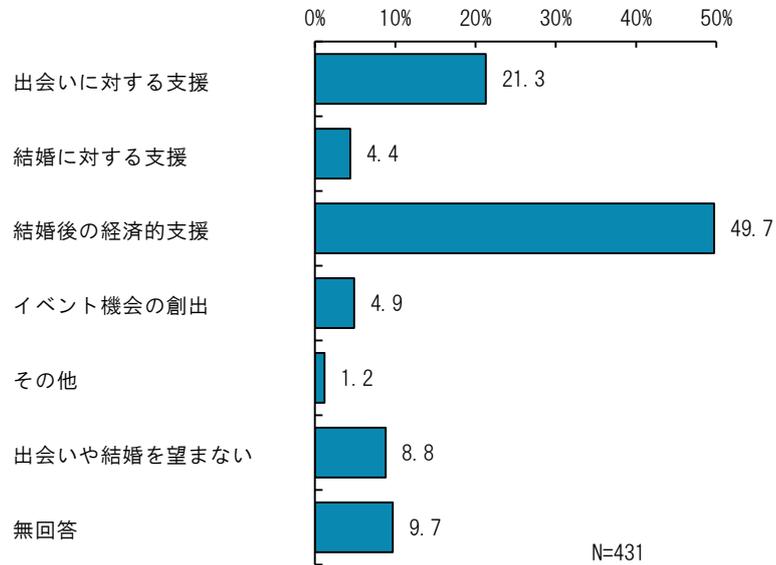


当てはまると思うものは、「親（保護者）から愛されていると思う」が47.6%と最も多く、次いで「自分らしさというものがあると思う」が42.9%、「今の自分を変えたいと思う」が39.9%などとなっています。

## (16) こども・若者支援で期待すること

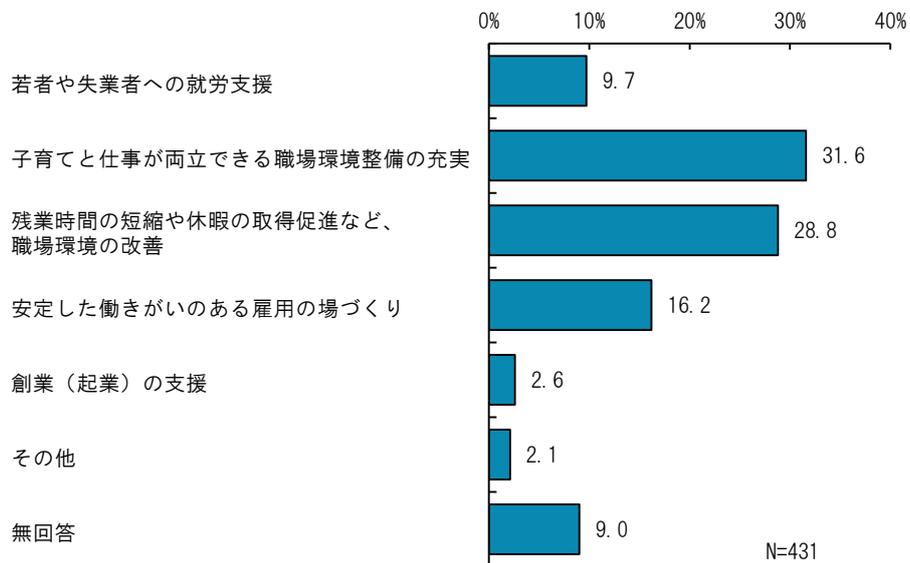
(SA) Q41 こども・若者支援で期待することについて伺います。

### ① 出会い・結婚



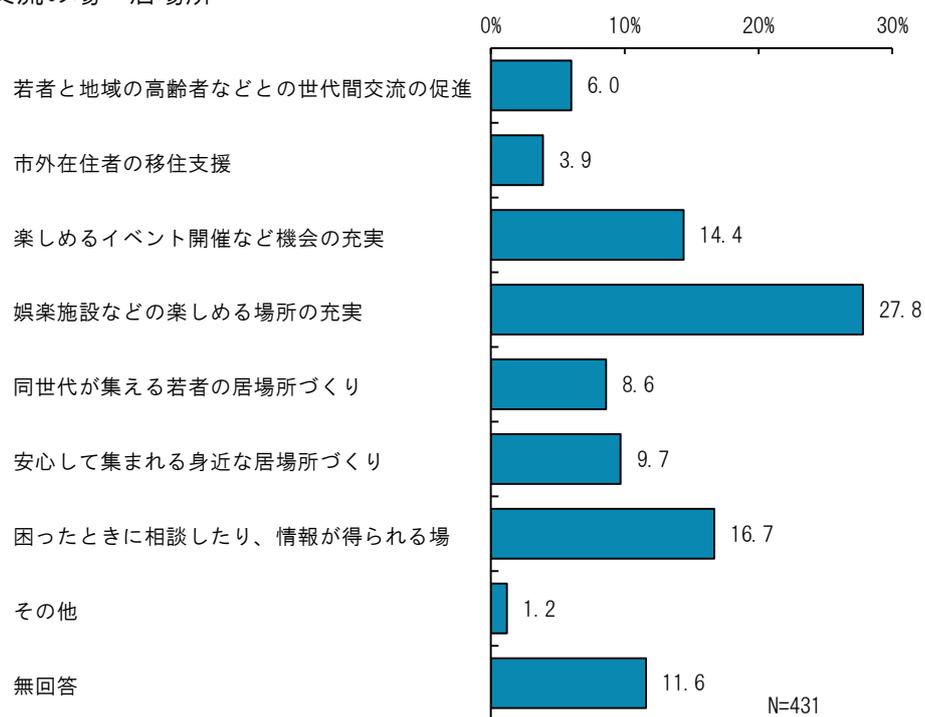
出会い・結婚は、「結婚後の経済的支援」が49.7%と最も多く、次いで「出会いに対する支援」が21.3%、「出会いや結婚を望まない」が8.8%となっています。

### ② ワークライフバランス



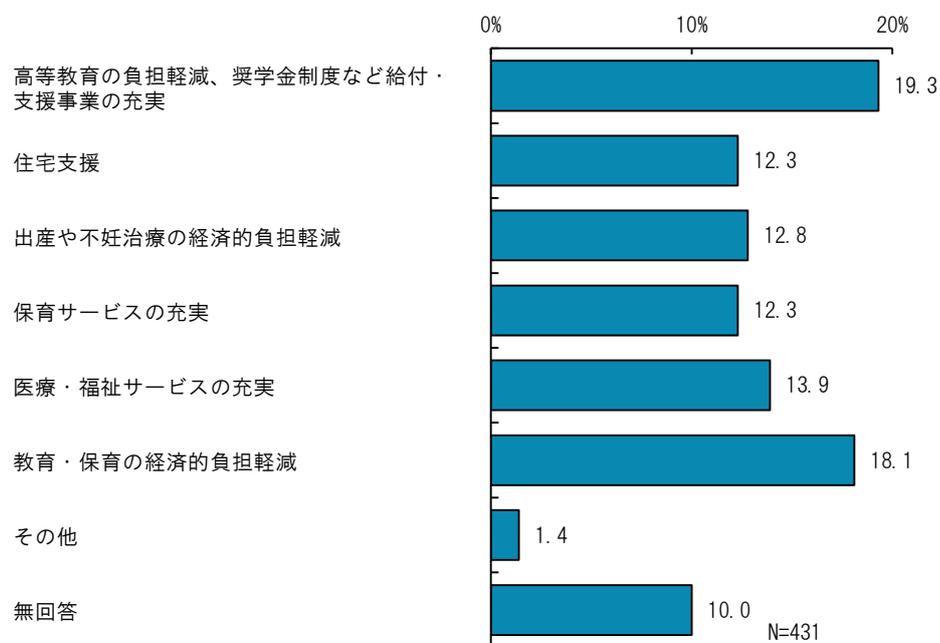
ワークライフバランスは、「子育てと仕事が両立できる職場環境整備の充実」が31.6%と最も多く、次いで「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、職場環境の改善」が28.8%、「安定した働きがいのある雇用の場づくり」が16.2%などとなっています。

### ③交流の場・居場所



交流の場・居場所は、「娯楽施設などの楽しめる場所の充実」が27.8%と最も多く、次いで「困ったときに相談したり、情報が得られる場」が16.7%、「楽しめるイベント開催など機会の充実」が14.4%などとなっています。

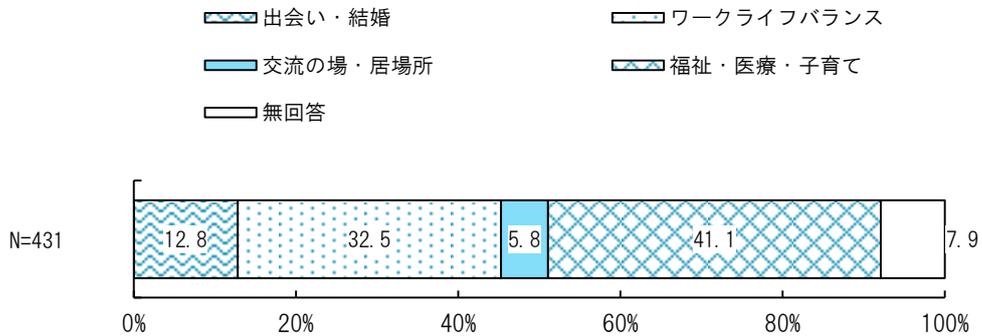
### ④福祉・医療・子育て



福祉・医療・子育ては、「高等教育の負担軽減、奨学金制度など給付・支援事業の充実」が19.3%と最も多く、次いで「教育・保育の経済的負担軽減」が18.1%、「医療・福祉サービスの充実」が13.9%などとなっています。

## (17) こども・若者支援で最も必要だと思うこと

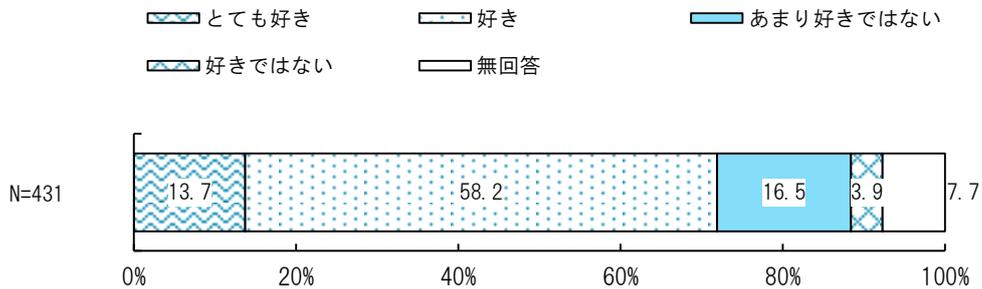
(SA) Q41-1 Q41の各項目の中で、最も必要と思う項目を1つ選択してください。



こども・若者支援で最も必要だと思うことは、「出会い・結婚」が12.8%、「ワークライフバランス」が32.5%、「交流の場・居場所」が5.8%、「福祉・医療・子育て」が41.1%となっています。

## (18) 掛川市が好きか

(SA) Q42 あなたは、掛川市が好きですか。



掛川市が好きかは、「とても好き」が13.7%、「好き」が58.2%、「あまり好きではない」が16.5%、「好きではない」が3.9%となっています。

子ども・子育てに関するアンケート調査

<分析版>

令和5年度

掛 川 市

こども希望部 こども政策課 こども政策係  
〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1  
TEL 0537-21-1211 / FAX 0537-21-1163